

1370迄 (1504件)

1351年-05:00|パキスタン| |||<退位>スル朝君主「Jam Unar」亡命)
1351年-01:00|ドイツ| |||<死去>フランクシュグアイケ=グレンハーゲン侯「ハインリヒ2世」
1351年-01:00|アンドラー| |||<就任>アンドラー公国共同大公「ウルヘル司教フーゴ・デ・スバツァ」(~13610220)
1351年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<退位>下バイエルン公「ルートヴィヒ6世」
1351年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<退位>上バイエルン公「オットー5世」
1351年1月2日-09:00|日本|滋賀県大津市|正平5・観応元年12月4日|石塔頼房軍・上野直勝軍が近江国瀬田まで進出、守護代伊庭六郎左衛門を追い散らし周辺の宿場と橋を焼き払う
1351年1月7日-09:00|日本|京都府宇治市|正平5・観応元年12月9日|石塔頼房軍、山城国宇治に進出/平等院鳳凰堂を占拠/関山にも乱入
1351年1月8日-09:00|日本|愛知県|正平5・観応元年12月10日|三河国額田郡で粟生為広以下21人の武士が直義派として挙兵
1351年1月10日-09:00|日本|滋賀県|正平5・観応元年12月12日|佐々木六角氏頼が近江で上野直勝に勝利、帰京
1351年1月11日-09:00|日本| ||正平5・観応元年12月13日|足利直義(44)、南朝に帰服し、足利尊氏討伐の綸旨を得る
1351年1月12日-09:00|日本|兵庫県丹波篠山市|正平5・観応元年12月14日|山名時氏の守護代久下弾正、丹波堺波賀野芳賀野村、多紀郡の反抗勢に在所の不来不来こぬ坂村、多紀郡を攻められる/久下は五六十人を討ち取り、頸十九を取って敵を退けた/敵は再び曾地荘に攻め寄せたて、すぐ引き返した
1351年1月22日-09:00|日本| ||正平5・観応元年12月24日|今川範氏、南朝狩野孫左衛門尉と、足利直義党の石塔入道義房被官佐竹兵庫亮・中山三郎左衛門尉を打ち破る
1351年1月23日-09:00|日本|山梨県南アルプス市|正平5・観応元年12月25日|高師冬、上野の上杉憲顕(44)討伐に向かう途次、湯山で近臣にはかられ甲斐国須沢城に逃れる
1351年1月24日-09:00|日本|神奈川県厚木市|正平5・観応元年12月26日|<相模毛利荘湯山事件>石塔義房(頼房の父)、基氏の護衛を襲撃し、鎌倉公方足利基氏を鎌倉へ連れ戻す
1351年1月24日-09:00|日本|島根県浜田市|正平5・観応元年12月26日|高師泰、石見国三隅城から撤退/師泰は九州上陸して直冬と戦うために派遣されたが石見国すら突破できなかった
1351年1月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年|<交替>若狭国守護「山名時氏」⇒「仁木義覚」(~同年10月)
1351年1月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年|<再任>伊豆国守護(直義方)「石塔義房」(~観応3・正平7(1352)年3月)
1351年1月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年|<任命>香岐国守護(直義方)「志佐有」(~同年)
1351年1月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年|<任命>相模国守護「三浦高通」(~観応3・正平7(1352)年)
1351年1月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年|<任命>備中国守護「秋庭肥後守」(~正平7・観応3(1352)年)
1351年1月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年|<任命>武蔵国守護「上杉憲将」(~12月)
1351年1月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至元17年|第29代高麗王忠穆王が元の宮廷の意向を受けて江華島に移され、第31代高麗王恭愍王の高麗への帰国即位(-1374)
1351年1月28日-09:00|日本|三重県四日市市|正平6・観応2年|この年、乗賀、観音寺、木造慈恵大師像制作
1351年1月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年1月|<解任>信濃国守護「小笠原政長」
1351年1月28日-09:00|日本|高知県四万十市|正平6・観応2年1月|讃岐守護細川顕氏(直義派)が派遣した内藤弥六に攻められ守護代佐脇太郎入道の高岡荘松風城陥落
1351年1月28日-09:00|日本|大阪府大阪市|正平6・観応2年1月1日|畠山国清(直義派)軍が摂津国神崎まで進出し、同国守護代河江円道を撃破
1351年1月28日-09:00|日本|千葉県|正平6・観応2年1月1日|<死去>下総国守護「千葉貞胤」子の氏胤が継ぐ(~正平20・貞治4(1365)年9月13日死去)
1351年1月29日-09:00|日本|長野県下高井郡山ノ内町|正平6・観応2年1月2日|諏訪直頼(直義派)が信濃国諏訪郡湯河宿で挙兵
1351年2月-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||<就任>トランシルヴァニア総督「タマス・コニユイ」(~同年)⇒「ミクロス・コント」(~1356年3月)
1351年2月6日-09:00|日本|長野県諏訪市|正平6・観応2年1月10日|諏訪直頼軍が信濃守護小笠原政長の弟政経と守護代兼経が籠城する筑摩郡法光寺を攻撃し、降伏させた/その後、直頼軍は甲斐国に進出し、須沢城に籠城する高師冬攻撃に参加
1351年2月11日-09:00|日本|京都府京都市|正平6・観応2年1月15日|高師直・師泰、仁木頼章・義長、細川頼春、佐々木道誉等の尊氏派の諸将の邸宅が焼失/留守の者が自分たちで火を放った
1351年2月11日-09:00|日本|京都府京都市下京区|正平6・観応2年1月15日|足利尊氏は足利直義方の桃井直常軍と四條河原で戦う/高師直・仁木頼章・仁木義長・細川清氏・今川駿河守頼貞5千余騎、佐々木道誉7百余騎、足利尊氏・足利義詮1万余騎、桃井直常を破る
1351年2月12日-09:00|日本|京都府京都市|正平6・観応2年1月16日|薬師寺公義、佐々木善観、千秋高範、小笠原政長、山名時氏が足利直義軍に投じた為、戦況は一変し、足利尊氏、高師直、佐々木道誉は敗れて丹波国を経て播磨国へ逃れる
1351年2月13日-09:00|日本|山梨県南アルプス市|正平6・観応2年1月17日|<死去>関東執事「高師冬」諏訪直頼に須沢城を攻められ自決
1351年2月14日-09:00|日本| ||正平6・観応2年1月18日|近江国守護「六角氏頼」直義方に降る
1351年2月15日-09:00|日本|京都府京都市|正平6・観応2年1月19日|<死去>本願寺宗昭(覚如)(80)
1351年2月27日-09:00|日本| ||正平6・観応2年2月|<交替>長門国守護「高師泰」⇒「厚東武村」(~同年10月死去)
1351年2月27日-09:00|日本| ||正平6・観応2年2月|<任命>信濃国守護「諏訪直頼」(~8月)

1370迄 (1504件)

1351年2月27日-09:00|日本| ||正平6:観応2年2月1日|熊谷直平、武田信武の挙兵に応じる
 1351年3月2日-09:00|日本|兵庫県加東市|正平6・観応2年2月4日|<光明寺合戦(播磨国)>足利尊氏-高師直軍、石塔頼房が籠城する播磨国光明寺を攻撃/しかし、攻めあぐねる/赤松則祐、尊氏に無断で戦線を離れ、本拠地播磨国白旗城へ帰る
 1351年3月6日 00:00|イギリス| ||<昇格>4代ランカスター伯「ヘンリー・オブ・ゲロズモント」4代レスター伯・ダービー伯・リンカン伯⇒初代ランカスター公(13610324死去)
 1351年3月7日-09:00|日本|兵庫県姫路市|正平6・観応2年2月9日|細川頼氏(頼氏)の軍勢が四国から書写山坂本に集結していた尊氏・師直軍を襲撃/尊氏軍が多数の損害、尊氏は法華寺に籠もる
 1351年3月10日-09:00|日本|宮城県仙台市宮城野区|正平6・観応2年2月12日|<死去>奥州管領(尊氏方)「畠山国氏」吉良貞家が足利直義に応じ陸奥岩切城を攻め高国・国氏父子を自害させる
 1351年3月12日-09:00|日本|兵庫県加東市|正平6・観応2年2月14日|<播磨光明寺合戦>(4日~)山内の光明寺城で足利尊氏・高師直の軍が足利直義・石塔頼房・愛曾伊勢守の軍の合戦で尊氏軍が敗退
 1351年3月15日-09:00|日本|兵庫県芦屋市|正平6・観応2年2月17日|<打出浜の戦い>摂津国打出浜において足利尊氏・高師直の軍は足利直義軍と決戦、惨敗
 1351年3月18日-09:00|日本| ||正平6:観応2年2月20日|足利尊氏(46)・直義(45)講和/師直・師泰兄弟の出家を条件にその生命を助ける
 1351年3月20日-05:30|インド| ||<死去>トゥグルク朝スルタン「ムハンマド・ビン・トゥグルク」
 1351年3月20日-09:00|日本|京都府京都市|正平6・観応2年2月22日|<全焼>足利尊氏の土御門東洞院の屋敷
 1351年3月23日-05:30|インド| ||<即位>トゥグルク朝スルタン「フィーズ・シャー・トゥグルク」(13880920死去)
 1351年3月24日-09:00|日本|兵庫県西宮市|正平6・観応2年2月26日|<死去>三河国守護「高師兼」摂津国武庫川鷺林寺付近で上杉能憲の軍勢に惨殺された
 1351年3月24日-09:00|日本|兵庫県西宮市|正平6・観応2年2月26日|<死去>石見国守護「高師泰」摂津国武庫川鷺林寺付近で上杉能憲の軍勢に惨殺された
 1351年3月24日-09:00|日本|兵庫県西宮市|正平6・観応2年2月26日|<死去>備後国守護「高師夏」摂津国武庫川鷺林寺付近で上杉能憲の軍勢に惨殺された
 1351年3月24日-09:00|日本|兵庫県西宮市|正平6・観応2年2月26日|<死去>武蔵国守護「高師直」摂津国武庫川鷺林寺付近で上杉能憲の軍勢に惨殺された
 1351年3月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年3月|<交替>出雲・隠岐国守護「佐々木導誉」⇒「山名時氏」(~正平7・観応3(1352)年8月)直義方
 1351年3月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年3月|<任命>下野国守護「高階氏」(~正平7・観応3(1352)年)
 1351年3月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年3月|<任命>九州探題(南朝方・尊氏方)「一色直氏」(~正平7・観応3(1352)年)
 1351年3月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年3月|<任命>土佐国守護「細川頼氏」(~正平7・文和1(1352)年7月5日死去)
 1351年3月28日-09:00|日本| ||正平6・観応2年3月|<任命>備後国守護「上杉顕能」(~8月)
 1351年3月30日-09:00|日本| ||正平6・観応2年3月3日|<任命>九州探題(北朝方・直義方)「足利直冬」(~正平7・観応3(1352)年)
 1351年3月30日-09:00|日本| ||正平6・観応2年3月3日|<任命>肥前国守護(直義方)「河尻幸俊」(~同年)
 1351年4月1日-01:00|サマリノバ| ||<就任>サマリノバ共和国執政「フランチェスコ・ヒストリニ」
 1351年4月20日-09:00|日本| ||正平6・観応2年3月24日|<交替>但馬国守護「今川頼貞」⇒「上野頼兼」足利直義与党(~8月)
 1351年4月25日-09:00|日本| ||正平6年3月29日|<死去>二条藤子、女房・歌人・後醍醐天皇側室(生年生年未詳)
 1351年4月27日-09:00|日本| ||正平6:観応2年4月|<任命>伊賀国守護「千葉氏胤」(~同年6月解任)
 1351年5月-01:00|イタリア/トルコ| ||「ヴェネツィア・ビザンツ」皇帝と協定
 1351年5月1日-01:00|スイス| ||「シュルツェンベルグ」連邦に加入する(「シュルツェンベルグ」同盟)
 1351年5月4日-09:00|日本| ||正平6・観応2年4月8日|<死去>摂津・播磨国守護「赤松範資」
 1351年5月4日-09:00|日本| ||正平6・観応2年4月8日|<任命>摂津国守護「赤松光範」範資の嫡男(~観応3・正平7(1352)年)
 1351年5月4日-09:00|日本| ||正平6:観応2年4月8日|<任命>播磨国守護「赤松則祐」範資の弟(~建徳2・応安4(1371)年11月29日死去)
 1351年5月28日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正11年5月3日|劉福通、潁州(安徽阜陽)で乱を為し、紅巾と号す
 1351年6月1日-01:00|イタリア| ||「ヴェネツィア」三年間ターナに航行せぬことを「ジェノヴァ」と協定
 1351年6月24日-09:00|日本| ||正平6:観応2年6月|<交替>伊賀国守護「千葉氏胤」解任⇒「仁木義長」(~翌年5月)
 1351年6月24日-09:00|日本| ||正平6:観応2年6月|足利義詮が所務沙汰を親裁する機関「御前沙汰」を創設/義詮が御判御教書形式の文書を発給するようになる~従来の引付頭人奉書と同内容/直義の権限を侵食し始める
 1351年7月18日-09:00|日本| ||正平6・観応2年6月25日|<辞任>近江国守護「六角氏頼」
 1351年7月18日-09:00|日本| ||正平6:観応2年6月25日|<任命>近江国守護「山内信詮(定詮)」(~同年8月)
 1351年7月24日-09:00|日本| ||正平6・観応2年7月|<任命>(南朝)周防国守護「大内弘世」(~貞治2・正平18(1363)年、北朝に転ずる)
 1351年7月24日-09:00|日本| ||正平6・観応2年7月|引付方、活動を停止/御前沙汰と業務が競合したことによる/直義は自身の制度的拠点を失う
 1351年8月2日-09:00|日本| ||正平6:観応2年7月10日|播磨守護赤松則祐が興良親王を奉じて武力蜂起

1370迄 (1504件)

1351年8月20日-01:00|ポーランド| |||<死去>プロウツ公「ボレスワフ3世」領地はマゾフシェとポーランドの他の公の間で分割
 1351年8月21日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>バフリー・マムルーク朝スルタン「サーリフ・サーリフ」(~13541020)
 1351年8月21日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<廃位>バフリー・マムルーク朝スルタン「ナースィル・ハサン」
 1351年8月22日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正11年8月|劉福通、湖北で挙兵
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月|<解任>筑前国守護「少貳頼尚」
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月|<交替>越中国守護「桃井直常」解任⇒「井上俊清」(~延文4・正平14(1359)年10月失脚)
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月|<交替>但馬国守護「上野頼兼」⇒「今川頼貞」(~不詳)
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月|<交替>丹波国守護「山名時氏」⇒「仁木頼章」(~観応3・正平7(1352)年)
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月|<交替>豊前国守護「少貳頼尚」⇒「大友氏泰」(~文和元・正平7(1352)年)
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月|<再任>信濃国守護「小笠原政長」(~翌年4月)
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月|<任命>近江国守護「六角直綱」(~観応3・正平7(1352)年6月)
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月|<任命>備後国守護「岩松頼宥」(~正平11・延文元(1356)年3月)
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月|<任命>和泉国守護「細川顕氏」(~正平7・文和元年7月5日(13520815)死去)
 1351年8月23日-09:00|日本| ||正平6・観応2年8月1日|足利直義(46)、尊氏(47)と不和になり桃井直常・山名時氏・畠山国清・石塔義房らと京を脱出し北陸を経て鎌倉へ逃げる/南朝、尊氏と結び直義の追討を命
 1351年8月24日-09:00|日本| 島根県雲南市|正平6・観応2年8月2日|山名時氏の招致に応じ諏方部三郎信恵一族は出雲国三刀屋郷の石丸城に立て籠って旗挙げ
 1351年9月4日-09:00|日本| 鹿児島県志布志市|正平6・観応2年8月13日|楡井家の志布志城はかつての盟友・肝付らの手によって陥落
 1351年9月4日-09:00|日本| 広島県福山市|正平6・観応2年8月13日|岩松頼宥、三吉覚弁らを率い、品治郡石成上下城を攻略
 1351年9月13日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||ネクロポリ島のkastell、シリア王ルダイクにより占領
 1351年9月21日-09:00|日本| ||正平6・観応2年9月|<任命>甲斐国守護「武田信武」(~延文4・正平14(1359)年7月13日死去)
 1351年9月23日-09:00|日本| 京都府|正平6・観応2年9月3日|<死去>丹後・石見国守護「上野頼兼」丹後国で戦死
 1351年9月26日-09:00|日本| 京都府|正平6年9月6日|<死去>常盤井宮恒明親王、皇族(生年1303年)
 1351年9月30日-09:00|日本| 滋賀県|正平6・観応2年9月10日|石塔頼房軍(直義派)が伊勢から近江へ侵入し、近江守護佐々木山内信詮と佐々木道誉の軍勢を撃破
 1351年10月1日-09:00|日本| 静岡県沼津市|正平6・観応2年9月11日|<車返(沼津市三枚橋)戦い>今川範氏、出陣して足利直義方の伊豆守護門上杉能憲と戦ったが敗れて退却
 1351年10月2日-09:00|日本| 滋賀県長浜市|正平6・観応2年9月12日|<八相山の戦い>足利尊氏軍、八相山の足利直義軍を攻撃/桃井直常のみ徹底抗戦を主張するも損害大きく足利直義は越前へ撤退
 1351年10月17日-09:00|日本| 静岡県静岡市駿河区|正平6・観応2年9月27日|<手越河原の戦い>今川範氏、足利直義方の伊豆守護門上杉能憲と戦うが敗れて退却
 1351年10月19日-09:00|日本| 福岡県久留米市|正平6・観応2年9月29日|一色範氏、直冬の党少貳頼尚に筑後河北荘で敗れる
 1351年10月20日-09:00|日本| ||正平6・観応2年9月30日|<死去>前天龍寺重職「夢窓疎石」77歳(誕生:建治1(1275))/臨済宗の僧
 1351年10月21日-09:00|日本| ||正平6・観応2年10月|<任命>三河国守護「仁木義長」(~延文5・正平15(1360)年7月)
 1351年10月21日-09:00|日本| ||正平6・観応2年10月|<任命>丹後国守護「仁木頼章」(~正平7・観応3(1352)年)
 1351年10月21日-09:00|日本| ||正平6・観応2年10月|<任命>尾張国守護「土岐頼康」(~元中4・嘉慶(1387)元年12月25日死去)
 1351年10月21日-09:00|日本| 宮城県多賀城市|正平6・観応2年10月|北畠顕信・田村氏ら南朝軍、陸奥国府(多賀)を奪回
 1351年10月21日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正11年10月|徐寿輝が杞州(湖北杞春)で皇帝位に即き、年号を治平とする
 1351年10月21日-09:00|日本| 熊本県山鹿市|正平6・観応2年10月1日|懐良親王(22)の軍が肥後山鹿・関両城を攻略、次いで筑後に進む
 1351年10月22日-09:00|日本| ||正平6・観応2年10月2日|<交替>若狭国守護「仁木義覚」⇒「大高重成」(~正平7・観応3(1352)年)
 1351年10月26日-09:00|朝鮮| ||高麗・至元17年10月6日|<廃位>高麗王「忠定王」(~13520323死去)
 1351年10月28日-09:00|日本| 福井県|正平6・観応2年10月8日|足利直義派の越前守護斯波高経、尊氏派へ転向、このため直義越前敦賀を去り鎌倉へ走る
 1351年11月1日-09:00|日本| ||正平6・観応2年10月12日|二階堂行珍(直義派官僚)、上洛し尊氏派に転じる
 1351年11月10日-09:00|日本| ||正平6・観応2年10月21日|<任命>室町幕府執事「仁木頼章」(~延文3(1358)年5月)
 1351年11月13日-09:00|日本| ||正平6・観応2年10月24日|<死去>長門国守護「厚東武村」息子の武直が継ぐ(~文和2・正平8(1353)年死去)

1370迄 (1504件)

1351年11月13日-09:00|日本| ||正平6:観応2年10月24日|足利尊氏(47)、一時的に南朝へ降る(正平一統)
 1351年11月20日-09:00|日本| ||正平6:観応2年11月|<再任>遠江国守護「仁木義長」(~正平7・文和元(1352)年)
 1351年11月20日-09:00|日本| ||正平6:観応2年11月|<任命>上総国守護「京極秀綱」(~正平7・観応3(1352)年)
 1351年11月24日-09:00|日本|福岡県北九州市小倉北区|正平6:観応2年11月5日|一色範氏、豊前小倉城を攻略
 1351年11月26日-09:00|日本| ||正平6年11月7日|<正平一統>南朝、北朝3代崇光天皇を廃し、年号を南朝の正平に統一する
 1351年11月26日-09:00|日本| ||正平6年11月7日|<任命>石見国守護「荒川詮頼」(~貞治3・正平19(1364)年)
 1351年11月27日-09:00|日本|大阪府泉南市|正平6年11月8日|洞院公賢、和泉国海会寺を建立
 1351年12月-02:00|エジプト| ||<即位>ハリー朝スルタン「As-Saleh」(~1354. 10)
 1351年12月-01:00|トイッホーランド| ||<就任>フランダングル辺境伯・下ラウツッ辺境伯「ルトウ・イ2世」ルトウ・イ1世の弟(⇒135601107ランデングル選帝侯~13650317死去)
 1351年12月-01:00|トイッホーランド| ||<退任>フランダングル辺境伯・下ラウツッ辺境伯「ルトウ・イ1世」
 1351年12月5日-09:00|日本|静岡県静岡市|正平6年11月16日|尊氏派の伊達景宗等が駿河国府中に中賀野掃部助(直義方)を攻撃、中賀野は久能山に撤退
 1351年12月11日-09:00|日本|宮城県多賀城市|正平6年11月22日|<陸奥国広瀬川の戦い>直義方の奥州探題・吉良貞家が、北畠顕信(南朝・宇津峰宮・鎮守府将軍)の軍に大敗/吉良貞家は本拠の多賀城を放棄
 1351年12月19日-09:00|日本| ||正平6:観応2年12月|<解任>上野・越後国守護「上杉憲顕」
 1351年12月19日-09:00|日本| ||正平6:観応2年12月|<任命>武蔵国守護「仁木義章」(~正平7・観応3(1352)年)
 1351年12月19日-09:00|日本|鹿児島県鹿屋市|正平6年12月|楡井頼仲が弟頼重と共に大始良城を奪還。再び蜂起
 1351年12月28日-09:00|日本|愛知県|正平6年12月10日|三河国額田郡において、足利直義方挙兵。一揆人数21人(部将格の者)
 1351年12月29日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|正平6年12月11日|足利尊氏軍今川範氏・信濃守護職小笠原政長、由比・蒲原で上杉能憲と戦い勝利
 1352年-07:00|カンボジア/タイ| ||シャムがアンコール都城を攻略
 1352年-05:30|インド| ||<即位>東ガング朝国王「ハース・テ・ウ3世」(~1378年)
 1352年-05:30|インド| ||<即位>サマ朝スルタン「Jam Banhabina」(~1367年)
 1352年-05:30|インド| ||<即位>ベンガル・スルタン朝スルタン「シャムステ・イン・イリヤス・シャー」(~1358年死去)
 1352年-04:00|ジョージア| ||<設立>グルジア公国(グルジア、1491年からイメレティの一部。首都オズルグティ)アジャリアはグルジア公国のパトリミ部分
 1352年-03:30|イラン/アフガニスタン| ||<死去>ミフバニト朝マリク「Jalal al-Din Mahmud」
 1352年-03:30|イラン/アフガニスタン| ||<即位>ミフバニト朝マリク「Izz al-Din ibn Rukn al-Din Mahmud」(~13800929死去)
 1352年-02:00|トルコ| ||<死去>カラマニ朝ベイ「Semseddin Bey」
 1352年-02:00|ルーマニア| ||<死去>ワキア総督・領主「ハ・サラブ1世」
 1352年-02:00|エストニア/ドイツ| ||<就任>リグニアのレアル司令官「ディートリヒ・フォン・ウアルムストル」(~1359年)
 1352年-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワキア総督・領主「ニコラ・アレクサンドル」ハ・サラブ1世の息子(~13641116死去)
 1352年-02:00|エジプト| ||<即位>カイロ・アッバース朝カリフ「ムウタディ1世」(~1362年)
 1352年-02:00|トルコ| ||<即位>カラマニ朝ベイ「Haci Sufi Burhaneddin Musa Bey」(~1357年)
 1352年-02:00|トルコ| ||<即位>ラマザニス・ハン「Ramazan・ベイ」(~1378年)
 1352年-01:00|ドイツ| ||<死去>ハッパルク=ザウゼンベルク辺境伯「ルト・ルフ2世」
 1352年-01:00|ドイツ| ||<就任>ハッパルク=ザウゼンベルク辺境伯「ルト・ルフ3世」(~1428年死去)
 1352年-01:00|アルジェリア| ||<退位>サイヤン朝スルタン「アブー・サイード・ウスマン2世」,「アブー・タヒト1世」マリニ朝支配(~1359年)
 1352年-01:00|ドイツ| ||<領土分割>メクレンブルク公「アルブレヒト2世偉大公」⇒メクレンブルク=シュヴェリーン公(~13790218死去);「ヨハン1世」⇒メクレンブルク=シュタルガルト公(~1393年)
 1352年-01:00|オランダ| ||<カイハセマス・フレデブルクからマークへ移管>
 1352年1月-03:00|サウジアラビア| ||<即位>メッカ・シャリフ「タハ・ブン・ルマイタ・アサド・アル＝ディン」(~1353年1月)
 1352年1月2日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|正平6年12月15日|<薩た峠の戦い>駿河国薩た峠において足利尊氏軍の宇都宮氏綱は足利直義軍の足利直常を破る
 1352年1月4日-09:00|日本|埼玉県白岡市|正平6年12月17日|高麗経澄、足利義詮の命を受け鬼窪(白岡)に挙兵
 1352年1月5日-09:00|日本|群馬県伊勢崎市|正平6年12月18日|<那和(堀口町)合戦>宇都宮氏綱、足利直義方桃井播磨守直常・長尾左衛門尉の北陸道7ヶ国勢1万余騎を破る
 1352年1月6日-09:00|日本|群馬県伊勢崎市|正平6年12月19日|宇都宮軍、快進撃/上野国那和荘で上杉氏配下の桃井播磨守、長尾左衛門の軍勢を撃破
 1352年1月6日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|正平6年12月19日|足利直義方石塔義房、頼房父子・児玉党3千余騎、北から桜野坂(由比町入山)今川上総守範氏・南部一族・羽切遠江守3百余騎攻め、大類弾正・富田氏ら討死し敗れる
 1352年1月7日-09:00|日本|神奈川県川崎市多摩区|正平6年12月20日|宇都宮軍、武蔵国府中に押し寄せる/小沢城を焼き払い、金井原でも戦闘
 1352年1月10日-09:00|日本| ||正平6年12月23日|神器が南朝方に回収され政権の南朝側への無条件返還
 1352年1月14日-09:00|朝鮮| ||高麗・至元17年12月27日|<即位>高麗王「恭愍王」(~13741027死去)
 1352年1月14日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|正平6年12月27日|<薩た峠(由比町西倉沢)合戦>直義方由比・蒲

1370迄 (1504件)

原陣に、追手の大将山内上杉憲顕・相模守護三浦高通、内房(芝川町内房)搦手の大将石塔入道義房、右馬頭頼房父子。足利直義は伊豆国府(三島市)に本陣構える。宇都宮氏綱3万余騎が後方に回る前に薩た山を攻落そうとする/伊達景宗・平間刀帶左衛門尉・景宗若党小林彦太郎戦功。尊氏方の西山季吉討死/高橋八郎吉清討死/石塔義房・頼房父子の家臣大宅氏・大内氏一族、由比桜野御堂崎で全滅

1352年1月15日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|正平6年12月28日|巨龍山清見興国禪寺(興津清見寺町)・瑞雲院(興津清見寺町)戦火により焼失

1352年1月16日-09:00|日本|神奈川県小田原市|正平6年12月29日|足利尊氏党高麗経澄ら、直義軍を相模足柄山に破る/ついで尊氏(47)は伊豆国府に進む

1352年1月16日-09:00|日本|山梨県|正平6年12月29日|甲斐国でも合戦があり、尊氏派の信濃守護小笠原政長が直義派武田上野介軍に勝利

1352年1月18日-09:00|日本| ||正平7・観応3年|<再任>九州探題(北朝方尊氏方)「一色直氏」(~正平13・延文3(1358)年)

1352年1月18日-09:00|日本| ||正平7・観応3年|<任命>伊勢・志摩国守護「細川清氏」(~同年)⇒「仁木義長」(~延文5・正平15(1360)年7月)

1352年1月18日-09:00|日本| ||正平7・観応3年|<任命>越前国守護「斯波高経」(~正平21・貞治5(1366)年8月失脚)

1352年1月18日-09:00|日本| ||正平7・観応3年|<任命>下野国守護「仁木頼章」(~同年)⇒「宇都宮氏綱」(~正平18・貞治2(1363)年)

1352年1月18日-09:00|日本| ||正平7・観応3年|<任命>上総国守護「千葉氏胤」(~文和4・正平10(1355)年5月8日)

1352年1月18日-09:00|日本| ||正平7・観応3年|<任命>丹後・丹波国守護「高師詮」(~翌年6月12日死去)

1352年1月18日-09:00|日本| ||正平7・観応3年|<任命>筑前国守護「一色直氏」(~正平10・文和4(1355)年10月)

1352年1月18日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至元18年|元風の胡服弁髪令の廃止

1352年1月18日-09:00|日本| ||正平7・観応3年1月1日|足利直義、足利尊氏の降伏勧告を受け入れ降伏

1352年1月22日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平7・観応3年1月5日|足利尊氏は鎌倉に入り占領

1352年2月16日-09:00|日本| ||正平7・観応3年2月|<交替>備中国守護「高南宗継(高一族)」⇒「秋葉備中守」(~正平10・文和4(1355)年)

1352年2月16日-09:00|日本|山口県下関市|正平7・観応3年2月1日|足利直冬の党・大館右馬助ら門司・赤間関に侵入、細川清氏の軍に敗れる

1352年2月16日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正12年2月1日|郭子興、濠州(安徽臨淮関)で兵を起こす

1352年2月23日-06:30|ミャンマー| ||<即位>サガ・イン王「ミンビャーク・シハ・テ」(~1364年4月)

1352年3月5日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事代行「リメリック司教モリス・ト・ロクワール」(~6. 14)

1352年3月11日-09:00|日本| ||正平7・観応3年2月25日|<任命>遠江国守護「今川範氏」(~8月)

1352年3月11日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|正平7・観応3年2月25日|延暦寺別院の祇園社(現八坂神社)、妙顕寺法華堂を破却

1352年3月12日-09:00|日本| ||正平7・観応3年2月26日|後村上天皇(24)、賀名生より摂津住吉に向かう

1352年3月12日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平7・観応3年2月26日|<死去>足利直義、鎌倉・延福寺で兄尊氏に毒殺される/47歳(誕生:嘉元4(1306)0226)

1352年3月14日-09:00|日本|神奈川県三浦市|正平7・観応3年2月28日|新田義興・義宗、三浦に奔る/葛山左衛門尉惟光、新田義宗挙兵の時参加する

1352年3月17日-09:00|日本| ||正平7・観応3年閏2月|<任命>越後国守護「宇都宮氏綱」(~正平17・康安2(1362)年)

1352年3月17日-09:00|日本| ||正平7・観応3年閏2月|<任命>上野国守護「宇都宮氏綱」(~貞治2・正平18(1363)年2月)

1352年3月17日-09:00|日本| ||正平7・観応3年閏2月|<任命>能登国守護「吉見氏頼」(~天授5・康暦元年閏4月14日)

1352年3月17日-09:00|日本| ||正平7・観応3年閏2月1日|南朝方は、北朝の崇光院、光厳上皇、光明上皇と直仁親王を八幡に迎え、次いで吉野へ奉還

1352年3月17日-09:00|日本|京都府京都市下京区|正平7・観応3年閏2月1日|祇園社、仏光寺を焼く

1352年3月20日-01:00|イタリヤ| ||<死去>フェーラ・モナ侯「レ・ツツ3世」

1352年3月20日-01:00|イタリヤ| ||<就任>フェーラ侯「アル・ブランデーノ3世」(~13611103死去)

1352年3月20日-01:00|イタリヤ| ||<就任>モナ侯「ニコロ2世」(~1361年)

1352年3月22日-09:00|日本| ||正平7・観応3年閏2月6日|<任命>(南朝)征夷大將軍「宗良親王」(~1377年)

1352年3月31日-09:00|日本|群馬県|正平7・観応3年閏2月15日|新田義貞の遺児新田義興・義宗は、鎌倉奪還を目指し、従兄弟の脇屋義治や南朝に降伏していた北条時行らとともに、上野国で挙兵、同日中に上野国を平定

1352年4月1日-09:00|日本|長野県|正平7・観応3年閏2月16日|征夷大將軍に任じられた宗良親王も信濃国で諏訪直頼らと挙兵

1352年4月3日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平7・観応3年閏2月18日|<武蔵野合戦(武蔵国)>南朝勢新田義宗、鎌倉に入り武蔵国神奈川に転進していた足利尊氏を追走

1352年4月5日-09:00|日本|京都府京都市下京区|正平7年閏2月20日|<死去>阿波国守護「細川頼春」七条大宮の戦いで戦死、頼之が継ぐ(~建徳3・応安5(1372)年)

1352年4月5日-09:00|日本|京都府京都市下京区|正平7・観応3年閏2月20日|北畠顕能・楠木正儀ら南朝軍が細川頼氏以下の幕府軍と七条大宮で激戦となり南朝軍が勝利、南北朝分裂以降初めて京都を奪回/侍所頭人細川頼春が戦死/足利義詮は近江へ没落、三条殿も消失/南朝は光厳上皇・光明上皇・崇光天皇・皇太子直仁親王の身柄を拘束

1370迄 (1504件)

1352年4月5日-09:00|日本|京都府八幡市|正平7・観応3年閏2月20日|後村上天皇は行宮を賀名生から河内国東条、摂津国住吉、さらに山城国男山八幡へ移した
1352年4月5日-09:00|日本|東京都府中市|正平7・観応3年閏2月20日|<武蔵野合戦>足利尊氏、人見原で新田義宗を破る/新田義興は鎌倉へ/北畠顕信、鎌倉へ
1352年4月6日-09:00|日本|京都府八幡市|正平7・観応3年閏2月21日|南朝、光厳上皇・光明上皇・崇光天皇・直仁親王の身柄を拘束し、八幡へ連行/三種の神器も天皇も失い、北朝は一時的に完全消滅
1352年4月8日-09:00|日本|正平7・観応3年閏2月23日|足利義詮(22)、観応の年号を復活
1352年4月8日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平7・観応3年閏2月23日|新田義興・脇屋義治、鎌倉を攻め、足利基氏を破り走らす/南朝新田義興と北条時行は鎌倉を出て三浦半島へ逃亡
1352年4月13日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平7・観応3年閏2月28日|南朝新田義興が三浦隆道軍勢を率いて鎌倉に侵入、南宗継・宗直(宗継子息)、石塔義基(頼房の兄)らの軍勢と交戦、幕府軍敗北/宗継は鎌倉公方基氏を奉じて石浜の尊氏軍の許に脱出
1352年4月13日-09:00|日本|埼玉県|正平7・観応3年閏2月28日|<武蔵野合戦>足利尊氏と宗良親王・新田義宗の軍が武蔵国で激戦/小手指原(埼玉県所沢市)には畠山国清、入間河原(埼玉県狭山市)・高麗原(埼玉県日高市)には足利尊氏、仁木頼章、薬師寺公義が出陣/尊氏は一時、切腹を覚悟するほど追い込まれたが仁木頼章、義長兄弟の活躍もあり逆転⇒その後<笛吹峠の戦い(武蔵国)>尊氏軍と義宗軍が武蔵国笛吹峠で最期の大決戦/尊氏軍勝利、上杉憲顕は信濃国へ、新田義宗は越後国へ没落/尊氏はこれ以後関東を完全に制圧
1352年4月15日-09:00|日本|正平7・観応3年3月|<任命>伊豆国守護「畠山国清」(~康安元・正平16(1361)年11月)
1352年4月15日-08:00|中国/モンゴル|元・至正12年閏3月|朱元璋が郭子興軍に参加
1352年4月16日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平7・観応3年3月2日|南朝新田義興・脇屋義治・北条時行は義宗勢の敗北を知り持ちこたえられないと判断したため鎌倉を脱出し、相模国河村城(神奈川県足柄上郡山北町)に立て籠もった
1352年4月17日-09:00|日本|愛知県西尾市|正平7・観応3年3月3日|南朝によって八幡に捕らえられていた北朝の光厳上皇・光明上皇・崇光上皇・直仁親王・尊胤法親王らが、正儀の本拠地である東条に遷された
1352年4月23日-09:00|日本|京都府|正平7年3月9日|<死去>元丹後国守護「上杉朝定」(生年1321年)
1352年4月25日-09:00|日本|正平7・観応3年3月11日|足利尊氏(47)、観応の年号を復活
1352年4月26日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平7・観応3年3月12日|<武蔵野合戦>足利尊氏は鎌倉を奪還/敗れた義興と義治は越後に逃亡、北条時行は鎌倉付近で足利基氏の手の者に捕らえられた
1352年4月29日-09:00|日本|京都府京都市|正平7・観応3年3月15日|<八幡の戦い>北朝方足利義詮は、近江の佐々木道誉・四国の細川頼氏・美濃の土岐頼康・播磨の赤松氏らに、足利直義派だった山名時氏や斯波高経らの協力も得ては京都を奪還/官軍は京都南郊の各所で防戦し、楠木正儀が赤松則祐、土岐頼康らの軍を洞峠、荒坂山で撃ち破った
1352年4月29日-09:00|日本|宮城県多賀城市|正平7・観応3年3月15日|吉良貞家、陸奥国府(多賀)を奪回
1352年5月-01:00|フランス|<死去>パル伯「エドゥアルド2世」
1352年5月-01:00|フランス|<就任>パル伯「ロベール1世」(⇒1354年パル公~14110412死去)
1352年5月1日-09:00|日本|兵庫県尼崎市|正平7・観応3年3月17日|楠木正儀は摂津国神崎で摂津国守護赤松光範・社本基長らと戦い敗退
1352年5月11日-09:00|日本|京都府八幡市|正平7・観応3年3月27日|楠木正儀は和田助氏・淡輪助重らを率いて、洞ヶ峠(現在の京都府八幡市と大阪府枚方市の境)南から荒坂山(現在の京都府八幡市美濃山荒坂)で幕府の赤松光範・土岐頼康を撃破し、さらに頼康の弟土岐頼里を敗死させた
1352年5月14日-09:00|日本|正平7・観応3年4月|<交替>信濃国守護「小笠原政長」⇒子の「小笠原長基」(~正平21・貞治5(1366)年)
1352年5月23日-09:00|日本|愛媛県|正平7・観応3年4月10日|伊予の南朝軍蜂起し、河野通盛と戦う
1352年5月27日-09:00|日本|広島県安芸高田市|正平7・観応3年4月14日|毛利親衡が安芸吉田荘に挙兵、尊氏の将武田氏信がこれを攻撃
1352年5月30日-09:00|日本|広島県安芸高田市|正平7・観応3年4月17日|武田氏信、高田郡祢村城から毛利弥次郎を追落す
1352年6月4日-01:00|スイス|<ツーク同盟>が成立
1352年6月7日-09:00|日本|京都府八幡市|正平7・観応3年4月25日|幕府軍、石清水八幡宮に火を放つ/北畠顕能の家臣紀伊国熊野の湯河荘司までが幕府軍に投降
1352年6月11日-09:00|日本|宮崎県|正平7・観応3年4月29日|畠山直顕・伊東八郎ら直冬与党、穆佐院及び島津荘に侵入
1352年6月16日-09:00|日本|京都府八幡市|正平7・観応3年5月4日|八幡の西の尾崎、如法経塚の上に陣取る細川陸奥守頼氏の勢が、官軍の夜襲を受けて潰滅/土岐、佐々木、山名、赤松の陣はいささかも動じず
1352年6月23日-09:00|日本|京都府八幡市|正平7・観応3年5月11日|<八幡の戦い>後村上天皇は側近とともに包囲を脱出し男山八幡は陥落/後村上天皇を守るために四条隆資、一条内嗣(経通の子)、滋野井実勝ら公卿が戦死
1352年6月27日-01:00|スイス|<グラーブ同盟>が成立
1352年7月10日-09:00|日本|愛知県津島市|正平7・観応3年5月28日|尾張国津島社の遷宮が行われる
1352年7月10日-09:00|日本|広島県安芸高田市|正平7・観応3年5月28日|武田氏信、高田郡内部城より毛利元春を追落す
1352年7月13日-09:00|日本|奈良県五條市|正平7・観応3年6月2日|南朝、光厳(39)、光明(32)、崇光(18)三上皇らを

1370迄 (1504件)

河内国東条から賀名生へ移す

- 1352年7月19日-09:00|日本|富山県|正平7; 観応3年6月8日|吉見氏頼、能登を攻略して越中に進み、桃井直常らを破る
- 1352年7月19日-09:00|日本|広島県安芸高田市|正平7; 観応3年6月8日|武田武信、高田郡吉田城に毛利元春を攻め、元春降参。ついで同城を破却
- 1352年8月5日-09:00|日本| ||正平7・観応3年6月25日|<再任>北朝閑白「二条良基」(~延文3・正平13(1358)年12月29日)
- 1352年8月11日-09:00|日本| ||正平7・観応3年7月|<交替>近江国守護「山内直綱」⇒「六角義信」(~翌年6月)
- 1352年8月11日-09:00|日本| ||正平7; 観応3年7月|<任命>河内国守護「高師秀」(~文和2・正平8(1353)年)
- 1352年8月15日-09:00|日本| ||正平7・文和元年7月5日|<死去>讃岐・土佐・和泉国守護「細川顕氏」
- 1352年8月15日-09:00|日本| ||正平7・文和元年7月5日|<任命>讃岐・土佐国守護「細川繁氏」顕氏の子(~正平14・延文4(1359)年6月6日死去)
- 1352年8月15日-09:00|日本| ||正平7・文和元年7月5日|<任命>和泉国守護「細川業氏」顕氏の養子(~翌年3月)
- 1352年8月19日-01:00|ドイツ| ||<死去>リュネブル侯「オットー3世」
- 1352年9月2日-09:00|日本|熊本県|正平7; 観応3年7月23日|島津氏久が大隈隈本・北里両城を攻略、畠山直顕は氏久攻撃を図り、ついで直顕の子宗泰が氏久を破る
- 1352年9月3日-09:00|日本| ||正平7; 観応3年7月24日|室町幕府が近江・美濃・尾張で「半済令」を施行/守護が年貢の半分を軍費として取得する権限を認める
- 1352年9月4日-09:00|日本|岐阜県|正平7・観応3年7月25日|三河・遠江の南朝(吉良満貞・石塔頼房)、美濃長盛で、美濃守護土岐頼康により敗れる
- 1352年9月8日-01:00|ポーランド| ||<死去>ピートル公「Wladyslaw」
- 1352年9月8日-01:00|ポーランド| ||<就任>ピートル公「Boleslaw1世」(~13551004死去)
- 1352年9月9日-09:00|日本| ||正平7・観応3年8月|<交替>伊賀国守護「仁木義長」⇒「細川清氏」(~翌年)
- 1352年9月9日-09:00|日本| ||正平7; 観応3年8月|<交替>因幡国守護「今川頼貞」⇒「高師秀」(~不詳)
- 1352年9月9日-09:00|日本| ||正平7・観応3年8月|<交替>遠江国守護「今川範氏」⇒父の「今川範国」(~正平20・貞治4(1365)年)
- 1352年9月9日-09:00|日本| ||正平7・観応3年8月|<交替>出雲・隠岐国守護「山名時氏」⇒<再任>「京極高氏」(~正平20・貞治4(1365)年)
- 1352年9月20日-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「マリノ・モロシニ」(~13550906)
- 1352年9月25日-09:00|日本| ||正平7; 観応3年8月17日|<踐祚>北朝方は神器無しで強引に崇光上皇の弟・弥仁親王/正平8年12月27日北朝4代後光厳天皇として即位
- 1352年9月29日-09:00|日本| ||正平7; 観応3年8月21日|半済令制定(適用国に伊勢・志摩・伊賀・和泉・河内五カ国を追加)
- 1352年10月9日-09:00|日本| ||正平7・観応3年9月|<交替>周防国守護「河野通盛」⇒「大内弘直」長弘の息子(~文和3(1354)年戦死)
- 1352年10月9日-09:00|日本| ||正平7; 観応3年9月|<交替>豊前国守護「大友氏泰」⇒弟の「大友氏時」(~文和3・正平9(1354)年解任)
- 1352年10月16日-09:00|日本|静岡県島田市|正平7・観応3年9月8日|東光寺を味方に抱き込み今川範氏・伊達景宗、20日間連日攻め、大津城(野田城山)攻落。鶴彦太郎・四郎右衛門兄弟・佐竹兵庫入道・藁科氏、徳山城へ退却
- 1352年10月18日-09:00|日本| ||正平7・観応3年9月10日|<死去>常陸国守護「佐竹貞義」義篤が継ぐ(~正平17(1362)年1月12日死去)
- 1352年10月23日-09:00|日本|島根県|正平7; 観応3年9月15日|山名時氏は師氏が伯耆に帰着してのち、導営への遺恨を晴らすべくその分国出雲国へ侵攻し、導営の目代吉田厳覚を追い出し、ついで、出雲、伯耆、隠岐、因幡の四カ国を攻め従える
- 1352年11月4日-09:00|日本| ||文和元・正平7年9月27日|<任命>若狭国守護「斯波家兼」(~文和3・正平9(1354)年9月)
- 1352年11月4日-09:00|日本| ||正平7・文和1年9月27日|北朝は正平統一はなされなかったとして従来の観応からの改元を行い、文和元年とした
- 1352年12月6日-01:00|バチカン| ||<死去>第198代ローマ教皇「クレメン6世」[1291年生~](享年61)
- 1352年12月8日-09:00|日本|福岡県飯塚市|正平7; 文和1年11月|足利直冬は筑前国椿・忠隈で一色道猷に敗北/大宰府を脱出し、長門国豊田城に入城
- 1352年12月10日-09:00|日本|兵庫県尼崎市|文和元・正平7年11月3日|楠木正儀は大攻勢を仕掛け、吉良満貞・石塔頼房と共に、摂津国尼崎溝口に兵を進めた/摂津国で抗戦した主な幕将は赤松光範。石塔頼房は数百騎をもって神埼を攻め、同地の幕府軍は戦わずに逃走/打出浜でも戦いがあり、幕府軍は敗退して神呪寺に籠城
- 1352年12月15日-09:00|日本|長野県埴科郡坂城町|正平7; 文和1年11月8日|今川頼貞、坂城を囲む武田氏信の軍を追落す
- 1352年12月19日-09:00|日本|山口県下関市|正平7; 文和1年11月12日|直冬、長門国豊田城で幕府軍に敗れ、南朝に下る
- 1352年12月24日-09:00|日本|広島県安芸高田市|正平7; 文和1年11月17日|今川頼貞、武田氏信の高田郡三田馳山陣を攻略
- 1352年12月25日-01:00|イタリア| ||イタリア中部トスカーナ州で地震(M5.7)死者2千人
- 1352年12月26日 00:00|イギリス| ||<死去>第3代セント伯「ジョン」

1370迄 (1504件)

1352年12月26日 00:00|イギリス| |||<就任>第4代セント女伯「ジョーン」(~13850807死去)
 1352年12月30日-01:00|バチカン| |||<就任>第199代ローマ教皇「インノケンティウス6世」(~13620912死去)
 1352年12月31日-09:00|日本|兵庫県伊丹市|正平7; 文和1年11月24日|楠木正儀、石塔頼房らの南朝軍が伊丹瓦で佐々木京極秀綱(佐々木道誉嫡男)・高秀(秀綱の弟)軍に勝利
 1352年12月31日-09:00|日本|福岡県太宰府市|正平7; 文和1年11月24日|観音寺において一色・少貳両軍は戦いを交え、頼尚らは打ち負け居城浦の城に逃げ込んだ/菊池武光が援軍として一色軍の囲みを破り頼尚らを助けた
 1353年-07:00|タイ| |||<即位>カオ王国国王「カンムアン」(~1363年)
 1353年-04:00|ロシア| |||<即位>ムロム公「フォートル・グレボヴィチ」(~不詳)
 1353年-03:30|イラン| |||<死去>イルハン朝君主「トガ・テムル」
 1353年-03:30|イラン| |||<即位>サラバダース王「Yahya ibn Karawi」(~1356年死去)
 1353年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとスラヴォニア・パン「ミクロシュ1世」(2回目~1356年)
 1353年-01:00|ルクセンブルグ| |||<退任>ルクセンブルグ伯「カール」
 1353年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<領土分割>下バリエル公「グィルヘルム1世」⇒下バリエル=シュトラubeンク公(~13890415死去); 「アルブレヒト1世」⇒下バリエル=シュトラubeンク公(~14041213死去); 「シュテファン2世」⇒下バリエル=ランツフート公(⇒上バリエル公兼下バリエル=ランツフート公~13750513死去)
 1353年-01:00|イタリア| |||ボッカチオが「デカメロン」を完成、フェレンチェでのペストの惨状などを描写
 1353年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「ブレチン司教パトリック・デ・ル・シャル」(~1370年)
 1353年1月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「アジュランアブ・ルサルジャ」(~1356年6月)
 1353年1月4日-01:00|ドイツ| |||<就任>ライン宮中伯(グィッテルスバッツ家)ルプレヒト1世(13560110選帝侯~13900216)
 1353年1月5日-07:00|ラオス/タイ| |||<即位>ランサン王「ファークム(ファークート=ラニ)」ラ族の統一国家として、シエントンを起点に建国(~1372年退位)
 1353年2月3日-09:00|日本|神奈川県南足柄市|正平7; 文和1年12月29日|<さった峠の戦い(駿河国)>尊氏党高麗経澄ら、直義軍を相模足柄山に破る
 1353年2月5日-09:00|日本| ||正平8; 文和2年|<交替>伊賀国守護「細川清氏」⇒「仁木義長」再任(~延文5・正平15(1360)年)
 1353年2月5日-09:00|日本| ||正平8; 文和2年|<再任>九州探題(南朝方・直冬方)「足利直冬」(~正平16・延文6(1361)年)
 1353年2月5日-09:00|日本| ||正平8・文和2年|<死去>長門国守護「厚東武直」義武が継ぐ(~延文3・正平13(1358)年)
 1353年2月5日-09:00|日本| ||正平8; 文和2年|<任命>(南朝)豊前国守護「少貳頼尚」(~正平12・延文2(1357)年)
 1353年2月5日-09:00|日本| ||正平8; 文和2年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「土岐頼康」(~1354年)
 1353年2月5日-09:00|日本| ||正平8; 文和2年|<任命>摂津国西半国守護「赤松則祐」(~正平10・文和4(1355)年)
 1353年2月5日-09:00|日本| ||正平8; 文和2年|<任命>丹後国守護「仁木頼勝」(~正平15・延文5(1360)年)失脚)
 1353年2月5日-09:00|日本| ||正平8; 文和2年|<任命>日向国守護「一色直氏」(~正平12・延文2(1357)年)
 1353年2月5日-09:00|日本| ||正平8; 文和2年|<任命>肥前国守護「一色範光」(~不詳)
 1353年2月5日-08:00|中国| ||元・至正13年|<即位>天山ウイグル王国「イクト「サカ」(桑哥)」オルク・テムルの子
 1353年2月5日-07:00|ベトナム| ||大越・紹豊13年|チャンパ王国(占城国)国王茶和布底、陳朝の援助を受けた制某に攻められたが、これを撃退
 1353年2月13日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィア、ジェノヴァ人に対するボスフォラスの戦い
 1353年2月14日-09:00|日本|広島県福山市|正平8; 文和2年1月10日|山名時氏の軍勢、備前に侵攻し備前備中の北党を迫山に破がの後、三吉秀経、同覚弁等を率いた北党の石橋和義との合戦に敗れる(15日には備前を引退く)
 1353年3月6日-01:00|スイス| |||最初の三州に加えてゲラルス、ツークの両州とルツェルン、チューリッヒ、ベルンの各都市が原初同盟と個々に同盟を結ぶという形で同盟に加わった「八州同盟」
 1353年3月6日-09:00|日本| ||正平8・文和2年2月|<任命>摂津国東半国守護「細川繁氏」(~同年)
 1353年3月7日-09:00|日本|福岡県筑紫野市|正平8; 文和2年2月2日|<針摺原の戦い>少貳頼尚・菊池武光・太宰府の南軍、一色氏を破る
 1353年3月11日-09:00|日本|大阪府高槻市|正平8; 文和2年2月6日|足利義詮、佐々木道誉、赤松則祐、細川頼之以下の幕府軍と山名時氏・師義、石塔頼房、楠木正儀以下の直冬軍が、摂津国神内山付近で大規模交戦/幕府軍の圧勝、直冬軍は多大な損害を出した
 1353年3月13日-09:00|日本|京都府京都市中京区|正平8; 文和2年2月8日|足利尊氏軍が錦小路猪熊大宮付近で直冬軍と交戦/西から義詮軍が到着し挟撃され、補給路を断たれ直冬軍は劣勢に
 1353年3月16日-09:00|日本|静岡県静岡市葵区|正平8・文和2年2月11日|今川範氏、萩多和城(日向)を背後から攻め敵を追い落す
 1353年3月18日-09:00|日本|静岡県榛原郡川根本町|正平8・文和2年2月13日|今川範氏、護心土城(藤川)攻める。伊達右近将監景宗、舎兄と共に敵を追い落とし、砦を焼き払った
 1353年3月20日-09:00|日本|和歌山県|正平8; 文和2年2月15日|南朝の公卿四条隆俊が紀伊に入り楠木氏らの活躍で幕府軍を破る
 1353年3月30日-09:00|日本|静岡県榛原郡川根本町|正平8・文和2年2月25日|今川範氏、南朝側徳山城攻略。伊達右近将監景宗、夜襲し城内突入
 1353年3月31日-01:00|イタリア| |||ミラノがフィレンツェと和平条約を結ぶ
 1353年4月-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<就任>フィンランド 公「ベント2世アルゴットソン」スウェーデン王領地を付与(~1357年)
 1353年4月-02:00|トルコ| |||<即位>カイマ帝国皇帝「マタイス・カンタケノス」共同皇帝、ヨハネス6世カンタケノスとミカエル8世パレオロゴス

1370迄 (1504件)

スの孫娘イニ・アサナ・カダ・グニの長子(〜1357.12退位〜13830615死去)
1353年4月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「ギト・ウツヨ」のジ・ヨハ・ニ」「シモニ・ノ・ニ・ノ」
1353年4月5日-09:00|日本| ||正平8・文和2年3月|<交替>和泉国守護「細川業氏」⇒「畠山国清」(〜正平11・文和5(1356)年)
1353年4月13日-01:00|ドイツ| |||<死去>バーテン=バーテン辺境伯「ヘルマン9世」
1353年4月16日-09:00|日本|京都府京都市南区|正平8;文和2年3月12日|尊氏軍が直冬の本陣東寺に突入/直冬は石清水八幡宮に撤退し、その後、中国地方へ没落
1353年4月22日-09:00|日本|大阪府富田林市|正平8;文和2年3月18日|幕将仁木義長が佐藤元清らを率いて、河内国東条(正儀の本拠地)を攻め勝利
1353年4月27日-04:00|ロシア| |||<死去>モスクワ公・ウラジミール・スズダリ大公「シモン・イワノヴィチ・ゴロデイ」
1353年4月27日-04:00|ロシア| |||<即位>モスクワ公「イワン2世イワノヴィチ・クラスヌイ」(〜13591113死去)
1353年4月27日-09:00|日本|大阪府吹田市|正平8;文和2年3月23日|南朝は反撃に転じ、吉良(吉良満貞)・石塔(石塔頼房)が、摂津国吹田で土岐頼康の軍に攻撃を仕掛けるが、数十人が討ち取られ、40人が幕軍の捕虜となった。一方、土岐頼康の側も一定の死者を出し、勢いに押されて翌24日には神埼・尼崎に陣を移した
1353年5月4日-09:00|日本|神奈川県足柄上郡山北町|正平8;文和2年4月1日|河村城は落城、義興も脇屋義治も越後へと落ち延びていった
1353年5月8日-09:00|日本|京都府京都市上京区|正平8;文和2年4月5日|京都大風、真言院転倒
1353年5月21日-09:00|日本|愛知県津島市|正平8;文和2年4月18日|幸城、尾張国常楽寺の聖観音菩薩坐像を造立
1353年6月2日-09:00|日本|大阪府泉佐野市|正平8;文和2年5月|南朝軍は和泉国土丸城を攻め落として城主の日根野時盛を敗走させた
1353年6月5日-09:00|日本|福島県郡山市|正平8;文和2年5月4日|北朝軍陸奥の諸将、宇津峰城を落とす/北畠顕信、藤島へ
1353年6月17日-09:00|日本|大阪府大阪市|正平8;文和2年5月16日|楠木正儀は摂津国渡辺で土岐頼康を攻めて撃破し、幕府軍の伊丹基長が橋を焼き切って正儀の追撃を防いだ
1353年6月21日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平8;文和2年5月20日|足利尊氏が北条時行、長崎駿河四郎、工藤二郎を鎌倉の龍口で処刑
1353年6月30日-08:00|中国| ||元・至正13年5月29日|塩の運搬業者張士誠、高郵(江蘇高郵)で誠王を称し、国号を周、年号を天祐(〜1357)とする
1353年7月2日-09:00|日本| ||文和2・正平8年6月|<交替>近江国守護「六角義信」⇒父の「六角氏頼」再任(〜正平25・応安3(1370)年6月7日死去)
1353年7月7日-09:00|日本|滋賀県大津市|正平8;文和2年6月6日|足利義詮が南朝の進軍を警戒し北朝の後光厳天皇を関白二条良基の押小路亭へ移し、次いで比叡山延暦寺に行幸させた
1353年7月9日-09:00|日本|京都府京都市|正平8;文和2年6月8日|南朝本軍がついに上洛し勢いに押され、義詮は神楽岡吉田神社まで退却
1353年7月10日-09:00|日本|京都府京都市|正平8;文和2年6月9日|南朝の官軍3000余騎、八條、九條の在家に火をかけ、山陰道の寄手、山名師氏(師義)等5000騎は梅津、桂、嵯峨、仁和寺、西七條に火をかけて、京中に追寄せ/山名が執事小林右京亮、佐々木が勢に打勝ち、山名師氏(師義)は土岐が勢に打勝ち/吉良、石堂、原、蜂屋、宇都宮民部少輔、海東、和田、楠は細川清氏に打勝ち/足利義詮の軍勢大敗し、義詮、東坂本に逃れる/幕府高師詮・赤松則祐らが京に入るが、義詮が敗走した後だったため、西山に撤退/南朝は京の制圧を確定し、以降(7月24日の撤退まで)京都では南朝の「正平」の年号が用いられた
1353年7月13日-09:00|日本|京都府京都市西京区|文和2・正平8年6月12日|<死去>丹後・丹波国守護「高師詮」京都西山で山名軍と交戦し戦死
1353年7月13日-09:00|日本|京都府京都市西京区|正平8;文和2年6月12日|山名時氏勢、義詮に与して西山に陣取る高師詮、萩野朝忠を撃つ/朝忠は落ち延びる
1353年7月14日-09:00|日本|滋賀県|正平8;文和2年6月13日|足利義詮(23)、近江国にて南朝に敗北し、後光厳天皇(15)を奉じ美濃国垂井宿小島に移る/京極秀綱、戦死
1353年7月14日-09:00|日本|千葉県|文和2年6月13日|<死去>上総守護「佐々木秀綱」(生年生年未詳)
1353年7月31日-09:00|日本| ||正平8;文和2年7月|<任命>関東執事「畠山国清」(〜康安元(1361)年11月23日)
1353年7月31日-09:00|日本| ||正平8;文和2年7月|<任命>相模国守護「河越直重」(〜正平18・貞治2(1363)年解任)
1353年8月25日-09:00|日本|京都府京都市|正平8;文和2年7月26日|足利義詮、京都を奪回
1353年8月27日-09:00|日本|兵庫県|正平8;文和2年7月28日|南朝の原氏と蜂屋氏の軍勢が奮闘、幕府の近江守護後見山内定詮・佐々木高秀ら3,000騎を撃破/同日、足利義詮が丹波・神埼を攻めたため、南朝山名時氏は丹波国を退き端午の丹後・但馬へ逃走、楠木正儀もまた神埼を撤退
1353年8月29日-01:00|イタリア| |||<ゲエツァ海軍が、アルゲロ海の戦いでジェノヴァを破る
1353年8月30日-09:00|日本| ||文和2・正平8年8月|<再任>近江守護「佐々木六角氏頼」
1353年9月2日-01:00|ドイツ| |||<死去>バーテン=バーテン辺境伯「フリートリヒ3世」
1353年9月2日-01:00|ドイツ| |||<就任>バーテン=バーテン辺境伯「ルドルフ6世」(〜13720321死去)
1353年9月9日-09:00|日本| ||文和2・正平8年8月11日|<交替>駿河国守護「今川範国」隠居⇒嫡男の「今川範氏」(〜正平20・貞治4(1365)年4月30日死去)
1353年9月13日-09:00|日本|広島県尾道市|正平8;文和2年8月15日|尾道西郷寺本堂の造立成る
1353年9月28日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| |||<死去>ボスニア・パン「ステパン・ゴトマン・ステパニッチ」
1353年9月28日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| |||<就任>ボスニア・パン「ステパン・トグルトコ1世ウラディスラヴィッチ」(〜1366

1370迄 (1504件)

年2月)、摂政「ウラジスラフ・コトロマニチ」(~1354年没)

1353年10月4日-01:00|ドイツ| |||<死去>ライン宮中伯「ルト・ルフ2世」

1353年10月4日-01:00|ドイツ| |||<就任>フ・ファルツ選帝侯「ループ・レヒ1世」(~13900216死去)

1353年10月10日-01:00|イタリア| |||ミラーノ、ジェノヴァを配下に

1353年11月15日-01:00|ルクセンブルグ| |||<就任>ルクセンブルグ伯「ヴェンツェル1世」カール1世の兄弟(⇒13540313、ルクセンブルグ公)

1353年12月4日-09:00|日本|山形県最上郡最上町|正平8;文和2年11月8日|宇都宮氏、宗良親王(42)・新田氏の拠る小国城を攻略/足利直冬、山名氏を頼る

1353年12月8日-02:00|キプロス| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ヒール・ト・コルネヤン」(~13550824没)

1353年12月15日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィア、ジェノヴァとヴェイスクンティに対抗してカン・グランデ・デ・ツラ・スカラと同盟/フェッラーラ公、同盟に加入

1353年12月27日-09:00|日本| |||文和2・正平8年12月|<死去>奥州管領(直義方)「吉良貞家」

1354年-05:30|インド| |||<即位>カシュミール・スルタン朝スルタン「Shihu'd-Din」(~1373年)

1354年-02:00|ルーマニア| |||<死去>モルダヴィア総督「ド・ラコシュ」

1354年-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「サス」(~1363年没)

1354年-01:00|フランス| |||<死去>リニエ領主「Waleran2世」

1354年-01:00|フランス| |||<就任>リニエ領主「John1世」(~13640517死去)Waleran2世の息子

1354年 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド支配者「イヴァル・ウイグ・フソン・ホルマー」(~1357年)

1354年 00:00|イギリス| |||<就任>マーチ伯「ロジャー・モティマー」先代の孫(~13600226死去)

1354年 00:00|マリ/ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「ウスマン・カファ」(~1362年)

1354年1月8日-01:00|フランス| |||ナヴァール王シャルル(カルロス2世、悪王)と王弟アルアン公フィリップ(フィリップ・ド・ヴァロワ)、フランス北西部ルマンデーのレゲルで、王軍の最高指揮官「フランス大元帥」のシャル・デ・スパ・ニユを殺害

1354年1月16日-02:00|ギリシャ| |||<死去>アテネ公(アルゴス・ナフ・リオ)「ジャンヌ・ド・シャティヨン」

1354年1月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>トリア選帝侯「バルドゥイン」

1354年1月25日-09:00|日本| |||正平9・文和3年|<解任>豊前国守護「大友氏時」

1354年1月25日-09:00|日本| |||正平9・文和3年|<死去>周防国守護「大内弘直」戦死、弘世が継ぐ(~天授6・康暦2(1380)年11月15日死去)

1354年1月25日-09:00|日本| |||正平9;文和3年|<任命>伊予国守護「細川頼之」(~康暦元・天授5年(1379)年閏4月14日罷免)

1354年1月25日-09:00|日本| |||正平9・文和3年|<任命>奥州管領(足利直冬方)「石塔義憲」(~同年末)

1354年1月25日-09:00|日本| |||正平9・文和3年|<任命>奥州管領「吉良満家」(~正平12・延文2(1357)年)

1354年1月25日-09:00|日本|静岡県島田市|正平9;文和3年|<焼失>駿河千葉山智満寺

1354年1月25日-09:00|日本| |||正平9;文和3年1月|<任命>山城国守護(侍所頭人)「佐竹義篤」(~1357年)

1354年2月2日-01:00|フランス/スペイン| |||フランス王ジャン2世(故フィリップ6世の子、善良王)と「ナヴァール王」シャルル(カルロス2世、悪王)、「イル・ド・フランス」と「ルマンデー」の国境、現マント=ラ=ジョリーで「マント条約」を結ぶ/シャル・デ・スパ・ニユ殺害を不問とし、「ホーモン・ル・ロジエ伯領」とフランス北西部のコクタン半島(ルマンデー半島)を与える

1354年3月-02:00|トルコ| |||オスマン軍がダーダネル海峡をわたり、ガリポリを攻略

1354年3月13日-01:00|ルクセンブルグ| |||<即位>ルクセンブルグ公「ヴェンツェル1世」ロースから正式分離し公国建国(~13831208没)

1354年3月19日-01:00|イタリア| |||パドヴァ君主、ファエンツァ君主、ボヘミア王カレル四世、ジェノヴァとヴェイスクンティに対する同盟に加わる

1354年3月25日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「モスクワ公イワン2世イワノヴィチ・クラスヌイ」(~13591113没)

1354年4月2日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー・島守護者「Guillaume Stury」(~1357.4)

1354年4月6日-01:00|フランス/イギリス| |||イギリスがフランスとの休戦協定を延長/フランスがスコットランドと同盟を結ぶ

1354年4月10日-01:00|イタリア| |||マントヴァ領主もジェノヴァとヴェイスクンティに対する同盟に加わる

1354年4月24日-09:00|韓国/日本| |||正平9;文和3年4月|倭寇、高麗全羅道の船四十余艘を奪う

1354年5月2日-01:00|ドイツ| |||<就任>トリア選帝侯「ホエムント2世」(~13620404)

1354年5月10日-09:00|日本| |||正平9;文和3年4月17日|<死去>北畠親房/62歳(誕生:正応6(1293)0129)/南朝の公卿・武将・学者「神皇正統記」

1354年6月1日-09:00|日本| |||正平9・文和3年5月10日|<死去>北畠親房(生年1293年、公卿)南朝を実質的に指揮した

1354年6月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト=ベルンブルグ侯「Bernhard4世」

1354年6月28日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト=ベルンブルグ侯「Henry4世」(~13740707死去)

1354年7月21日-09:00|日本| |||正平9;文和3年7月|<任命>相模国守護「河越直重」(~貞治2・正平18(1363)年解任)

1354年8月1日-01:00|イタリア| |||リエツォがローマに帰還し、政権を回復

1354年8月19日-09:00|日本| |||正平9・文和3年8月|<再任>丹波国守護「仁木頼章」(~延文4・正平14(1359)年10月13日死去)

1354年8月19日-09:00|日本| |||正平9;文和3年8月|<任命>豊前国守護「宇都宮冬綱」(~不詳)

1354年8月27日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<死去>ヴェルデンベルグ伯・ファドゥーツ卿「ハルトマン1世」

1354年8月27日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>ヴェルデンベルグ伯・ファドゥーツ卿「ハルトマン2世」(~14160906没)、「ルト・ルフ」(~13671101没)、「ハインリヒ」(~13970126没)

1354年8月27日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>ヴェルデンベルグ伯・ファドゥーツ摂政「ルト・ルフ4世グラーフ・フォン・ヴェルデンベルグ・ウント・サルガンス」(~1363年没)

1370迄 (1504件)

1354年9月7日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ第54代アントレーア・ダントロ(年代記作者)

1354年9月11日-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「マリノ・ファリエロ」(~1355年)

1354年9月17日-09:00|日本| ||正平9; 文和3年9月|<任命>奥州管領「斯波家兼」(~延文元・正平11(1356)年6月13日死去)

1354年9月30日-09:00|日本| ||正平9; 文和3年9月14日|直冬軍が進軍を再開/丹波の石塔頼房、但馬の山名時氏、越中の桃井直常が呼応して出陣/越前守護斯波高経と子息氏頼も直冬に寝返って挙兵/河内の楠木正儀も直冬軍に参加

1354年10月5日-01:00|イタリア| |||<死去>ミラノ・シニョレ「ジョバンニ・ダ・イスコンティ」

1354年10月5日-01:00|イタリア| |||<就任>ミラノ・シニョレ「マッテオ2世・ダ・イスコンティ」(~13550929死去),「ガレアツォ2世・ダ・イスコンティ」(~13780804死去),「ベルボ・ダ・イスコンティ」(~13850506退任)

1354年10月8日-01:00|イタリア| |||ローマに帰還したリエンツォが民衆の反乱で殺害される

1354年10月9日-01:00|ドイツ| |||<死去>シャウエンブルク伯・ルシシュタイン・ピンネブルク伯「アドルフ7世」

1354年10月9日-01:00|ドイツ| |||<就任>シャウエンブルク伯・ルシシュタイン・ピンネブルク伯「アドルフ8世」(~13701013死去)

1354年10月9日-09:00|日本|新潟県魚沼市|正平9; 文和3年9月23日|宗良親王・千種顕経・新田義宗ら、越後宇加地城を攻撃

1354年10月13日-09:00|日本| ||正平9; 文和3年9月27日|<交替>若狭国守護「斯波家兼」⇒「細川清氏」(~康安元・正平16(1361)年9月失脚)

1354年10月17日-09:00|日本|群馬県沼田市|正平9; 文和3年10月|薄根川右岸(岡谷町)の磨崖仏が造立される

1354年10月19日-01:00|スペイン| |||<死去>ガラタ王国ナル朝アミール「ユスフ1世」

1354年10月19日-01:00|スペイン| |||<即位>ガラタ王国ナル朝アミール「ムハンマド5世」(~1359. 8退位)

1354年10月20日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<復位>ハフラー・マムルーク朝スルタン「ナシル・ハサン」(~13610316殺害される)

1354年10月31日 00:00|イギリス| |||<死去>ハンティンドン伯「William de Clinton」

1354年11月3日-09:00|日本|兵庫県たつの市|正平9; 文和3年10月18日|足利義詮、足利直冬追討のため佐々木道誉、赤松則祐以下の大軍を率いて京都を発ち、播磨国広山八幡に布陣

1354年11月4日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィア・ホルツォでジェノヴァに敗北

1354年11月13日-09:00|日本|大阪府河内長野市|正平9; 文和3年10月28日|後村上天皇は足利直冬を主将として第三次京都攻略戦を敢行することを決意し、帝座を河内国天野山金剛寺に移した

1354年12月4日-02:00|トルコ| |||<退位>ニカイア帝国皇帝「ヨハネス6世カタケノス」(~13830615死去)

1354年12月10日-09:00|日本|愛知県岡崎市|正平9; 文和3年閏10月25日|<死去>真福寺開山能信

1354年12月20日-09:00|日本|和歌山県新宮市|正平9; 文和3年11月6日|熊野新宮造営

1355年-07:00|タイ| |||<即位>ランナー王国マラーイ朝国王「ケーナ」(~1385年)

1355年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「イヴァン・イヴァノヴィチ」(~1359年)

1355年-03:30|イラン| |||<即位>ハザーラス朝君主「Shams al-Din Pashang」(~1378年)

1355年-02:00|トルコ| |||<即位>テケ侯国「Dadi・ベイ」(~1360年)

1355年-02:00|ギリシャ| |||<復位>エピロス専制公「ニキフォロス5世ドゥカス」(2度目~1359年死去)

1355年-01:00|ドイツ| |||<就任>ナッサウ＝ヴァイルブルク伯「John1世」(~13710920死去)

1355年-01:00|デンマーク/オランダ| |||<即位>ブラント公「ジャンス」(~1406年),「ヴェンセスラス1世」ルセンブルク公(~13831207)共同統治

1355年-01:00|オランダ/ベルギー| |||<即位>リンブルク公「ジャンス」(~1404年)

1355年 00:00|ポルトガル| |||イネス・デ・カストロの処刑が行われた

1355年1月2日-01:00|モロコ| |||モロコのゲリマル・イバロッカフルナ(ロクアリヌ)を買収

1355年1月6日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス| |||<即位>神聖ローマ帝国皇帝「カール4世」イタリア王・ボヘミア王・ブルグント王(~13781129没)

1355年1月6日-01:00|イタリア| |||<即位>イタリア王「カルロ4世」神聖ローマ皇帝・エンリコ7世の孫・ルセンブルク朝を復古(~1378年)

1355年1月11日-09:00|日本|兵庫県養父市|正平9; 文和3年11月28日|足利義詮が石塔頼房の武将湯浅二郎左衛門尉らが立てこもる但馬国大屋荘に兵を派遣し大屋荘陥落

1355年1月24日-09:00|日本|宮崎県日向市|正平9; 文和3年12月11日|日向法華堂[定善寺]18坊焼失

1355年2月6日-09:00|日本|滋賀県近江八幡市|正平9; 文和3年12月24日|足利直冬・桃井直常らが京都に迫り、足利尊氏は光厳天皇を奉じ近江武佐寺に逃れる

1355年2月13日-09:00|日本| ||正平10; 文和4年|<交替>摂津西半国守護「赤松則祐」⇒「赤松光範」(~延文5・正平15年(1360)10月解任)

1355年2月13日-09:00|日本| ||正平10; 文和4年|<任命>加賀国守護「富樫氏春」(~正平12・延文2(1357)年)

1355年2月13日-09:00|日本| ||正平10; 文和4年|<任命>備中国守護「高師秀」(~正平11・文和5(1356)年)

1355年2月13日-09:00|日本|愛知県知多郡南知多町|正平10; 文和4年|<造立>尾張国幡頭明神宮

1355年2月14日-09:00|日本|群馬県利根郡川場村|正平10; 文和4年1月2日|吉祥寺(川場村)の方丈が焼失

1355年2月28日-09:00|日本|京都府京都市|正平10; 文和4年1月16日|越前守護・斯波高経が尊氏(幕府)に反旗、同じく尊氏に反旗の桃井直常と斯波氏頼ら京都に乱入し法成寺跡に布陣/尊氏は戦いを避け、近江国に一旦退却

1355年3月4日-09:00|日本|京都府京都市|正平10; 文和4年1月20日|足利尊氏が近江国武佐寺を出発し瀬田橋を渡って京都に進撃を開始/この夜、奉行人斎藤四郎兵衛尉に命じて瀬田橋を破壊、あえて退路絶った

1355年3月6日-09:00|日本|京都府京都市|正平10; 文和4年1月22日|足利直冬は石塔頼房、山名時氏以下の中国勢を率いて入京し京都を占領(~3月13日)/尊氏は東坂本に布陣し、これに対し南朝の山名軍は西山に布陣

1370迄 (1504件)

- 1355年3月16日-08:00|中国| ||元・至正15年2月2日|劉福通、韓林兒を皇帝位に即かせ、亳州(河南商丘)で国号を宋、年号を龍鳳(-1366)とする
- 1355年3月20日-09:00|日本|大阪府泉佐野市|正平10; 文和4年2月6日|<神南の戦い(摂津国)>山名師氏(師義)、八幡に控えた南方の勢と一つに成って、神内宿に打寄せる。山名師氏(師義)、赤松則祐の一族・佐々木道誉の若党が守る一陣を破る。山名時氏、細河頼之・繁氏等が守る二陣を破る。山名勢、足利義詮の陣を守る佐々木道誉の頸を取ろうと近づくと、赤松則祐の勢にはばまれ、山崎をさして引く。山名師氏(師義)、左ノ目から小耳の根へ射付けられ、馬も射られ自害せんとするを、河村弾正が自分の馬に師氏を乗せて行く。河村弾正は切死
- 1355年3月20日-09:00|日本|大阪府高槻市|正平10; 文和4年2月6日|楠正儀は山名氏の武將と連携して芥河(現在の大阪府高槻市芥川町)で戦うが、苦戦し、多くの兵が命を落としたため、八幡方面に退却
- 1355年3月21日-09:00|日本|滋賀県大津市|正平10; 文和4年2月7日|北朝後光厳天皇が近江から東坂本に遷った
- 1355年3月22日-09:00|日本|京都府京都市|正平10; 文和4年2月8日|南北両軍は錦小路猪熊大宮辺で戦うが勝敗決せず
- 1355年4月13日-08:00|中国| ||元・至正15年3月|郭子興、卒す/子の郭天叙、嗣ぐ
- 1355年4月16日-09:00|日本|新潟県|正平10; 文和4年3月4日|越後の上杉憲将らが拳兵、幕府方風間長頼と戦う
- 1355年4月17日-01:00|イタリア| ||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ第55代マリノ・ファリエルが王政を目指しクーデタを起こすも失敗し死刑
- 1355年4月20日-09:00|日本|京都府京都市|正平10; 文和4年3月8日|細川清氏の部将七条東洞院、西七条に陣して桃井直常を攻め、直常、敗れて遁走
- 1355年4月21日-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ジョヴァンニ・カッポネーゴ」(~1356年)
- 1355年4月24日-09:00|日本|京都府京都市|正平10; 文和4年3月12日|将軍足利尊氏と足利義詮の軍が七条洞院油小路で南朝軍を破って京都を奪還
- 1355年4月25日-09:00|日本|京都府京都市南区|正平10; 文和4年3月13日|<東寺合戦>幕府軍が東寺の目前にまで迫り南朝軍は完全に補給路を断たれ足利直冬は東寺を放棄して八幡まで撤退
- 1355年4月30日-09:00|日本|大阪府大阪市天王寺区|正平10; 文和4年3月18日|南軍は八幡の陣を捨て、天王寺に撤退
- 1355年5月10日-09:00|日本|京都府京都市|正平10; 文和4年3月28日|後光厳天皇(17) 環京
- 1355年5月19日-09:00|日本|新潟県|正平10; 文和4年4月7日|宇都宮・和田氏、志都乃岐・大島で宗良親王(44)の南朝軍を破る/宗良親王、越後から信濃へ
- 1355年6月1日-01:00|イタリア| ||ベネツィア、ジェノヴァとヴェネチアに対する和平
- 1355年6月10日-09:00|日本| ||正平10; 文和4年4月29日|<死去>木寺宮康仁親王(36歳、生年1320年、皇族)
- 1355年6月18日-09:00|日本| ||正平10; 文和4年5月8日|<任命>上総国守護「京極高氏」(~延文元・正平11(1356)年4月)
- 1355年6月24日-01:00|フランス/イギリス| ||フランス王ジャン2世(故フィリップ6世の子、善良王)とイングランド王エドワード3世との「休戦」が明ける
- 1355年7月11日-02:00|ギリシャ/スペイン| ||<死去>アテネ公「フェデリコ1世」
- 1355年7月11日-02:00|ギリシャ/スペイン| ||<即位>アテネ公「フェデリコ2世」(~1370727死去)
- 1355年8月-02:00|キプロス| ||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ロジェ・ト・パン」(~13650528没)
- 1355年8月8日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事代行「キルデア伯モリス・フィッツジェラルド」(~20日)
- 1355年8月20日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事「デズモンド伯モリス・フィッツマス」(~13560125没)
- 1355年8月31日-09:00|日本|栃木県|正平10; 文和4年7月23日|<死去>小山氏政(生年1329年、元下野守護)
- 1355年9月6日-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカタニア公「コフレド・モシーニ」(~13570720)
- 1355年9月14日-09:00|日本|京都府京都市|正平10; 文和4年8月8日|北朝・光明上皇、解放されて京都に戻る
- 1355年9月26日-09:00|日本|長野県松本市|正平10; 文和4年8月20日|<桔梗ヶ原の戦い>宗良親王(44)、諏訪社祝矢島・仁科一族を率いて信濃桔梗原に小笠原長亮を攻め、敗れる
- 1355年9月29日-01:00|イタリア| ||<死去>ミラノ・シニョレ「マッテオ2世・ヴェネチア」
- 1355年10月-02:00|エジプト| ||<復位>ハリー朝スルタン「Al-Nasir Hasan」(2期目~1361年)
- 1355年10月2日-09:00|日本| ||正平10; 文和4年8月26日|<死去>堀川基子、後宇多天皇の宮人、後二条天皇の生母(生年1269年)
- 1355年10月4日-01:00|ポーランド| ||<死去>ピートル公「Bolesław1世」
- 1355年10月4日-01:00|ポーランド| ||<就任>ピートル公「Maigorzata ze Sternberka」(~13571208)
- 1355年10月6日-08:00|中国| ||元・至正15年9月|郭天叙、戦死/部将、尽く朱元璋に帰す
- 1355年10月16日-01:00|イタリア| ||<死去>シチリア王「ルドルフィコ」
- 1355年10月16日-01:00|イタリア| ||<即位>シチリア王「フェデリコ3世」(~13770127死去)
- 1355年11月 00:00|イギリス| ||イングランド王エドワード3世が、ピカルディに出征
- 1355年11月6日-09:00|日本|福岡県福岡市|正平10; 文和4年10月2日|南朝軍・懷良親王(26)、博多に進出/北朝軍・一色範氏は長門に逃走
- 1355年11月26日-01:00|ポーランド| ||<死去>ワルシャワ公「カジミェシュ1世」領地はマゾフシェに再統合
- 1355年11月26日-01:00|ポーランド| ||<即位>ラウア公「シモーン3世」兼チェルスク公・ワルシャワ公(~1370年)
- 1355年12月 00:00|モロッコ| ||イブン・バトゥータの旅行記の口述筆記が完成
- 1355年12月5日-01:00|ベルギー/オランダ| ||<死去>ブラバント公・リンブルフ公「ジャン3世」
- 1355年12月5日-01:00|ベルギー/オランダ| ||<即位>ブラバント公「ジャンヌ」兼リンブルフ公(~14061101死去)、「ヴェンセスラス1世」(~13831207死去)共同統治

1370迄 (1504件)

1355年12月8日-01:00|フランス| |||<即位>ルマンデール公「シャルル5世」フランス王ジャン2世の長男(〜13640408死去)
1355年12月20日-01:00|セルビア| |||<死去>第9代セルビア皇帝「ウロシュ4世」東ローマ帝国征服の遠征に乗り出した直後の陣中で、病のために急死
1355年12月20日-01:00|セルビア| |||<即位>第10代セルビア皇帝(ネマニッチ朝)「ステファン・ウロシュ5世」ステファン・ウロシュ4世トウシヤンの唯一の子(〜13711204、死去)
1356年-07:00|カンボジア| |||<即位>クメール王朝国王「ハサット」(〜1359年)
1356年-05:30|インド| |||<即位>ウイジャヤナガル王国(サンガマ朝)国王「ブッカ1世」(〜1377年)
1356年-04:00|ロシア| |||<即位>スズダリ公「ドミトリ・コンスタンチノヴィチ」(〜1363年)
1356年-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「ウァシーリー・ブデイヴルナ」(〜1358年)
1356年-03:30|イラン| |||<死去>サラハダース王「Yahya ibn Karawi」
1356年-03:30|イラン/イラク| |||<死去>ジャライル朝初代国王「ハサン・フズル」
1356年-03:30|イラン/イラク| |||<即位>ジャライル朝第2代国王「シャイフ・ウヴァイス1世」ハサンの子(〜1374年)
1356年-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「イワン・スラティミル」ウイデイン公、父イワン・アレクサンダルと共同統治(〜1396年、以降オスマン帝国支配)
1356年-02:00|エジプト| |||カイロにスルタン・ハサンのモスクが建設される
1356年-02:00|ギリシャ| |||テッサリアはエペロス専制公により支配(〜1371年)
1356年-01:00|イタリア| |||<再位>ジェノヴァ共和国ドージェ・シモーネ・ペッカラ(〜1363年)
1356年-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝ラウエンブルク公ヘルゲドルフ＝メルン系「ヨハン3世」
1356年-01:00|フランス| |||<就任>アンジュー伯・メヌ伯「ルイ1世」/兼フロンアン伯、トゥレーヌ公、ナポリ国王、エルサレム国王/ジャン2世とボンヌ・ド・リュクサンブールの次男(⇒1360年アンジュー公(〜13840920死去45歳))
1356年-01:00|フランス| |||<就任>オマル伯「John4世」(〜13890228死去)
1356年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・パン「イヴァン・ジユス」(〜1358年)
1356年-01:00|マルタ/イタリア| |||<就任>シチリア領マルタ副総督「Giacomo Pellegrino」(〜1372年)
1356年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のパン「レウスターク・パクシ」(〜1361年)
1356年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<昇格>ユリヒ伯「ウイヘルム6世」⇒ユリヒ公爵(〜13610226死去)
1356年-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝ラウエンブルク公ヘルゲドルフ＝メルン系「アルブレヒト5世」(〜1370年死去)
1356年-01:00|モンテネグロ/アルバニア| |||<即位>ゼータ公「バルシヤ1世卿」(〜1362年)
1356年1月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「タハ・ブン・ルマイタ・アサド・アルデイン」共同統治(〜11月)
1356年1月10日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝ウイッテンベルク公「ルトルフ1世」
1356年1月10日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク辺境伯「ルトヴィヒ3世」⇒ブランデンブルク選帝侯(〜13650317死去)
1356年1月10日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝ウイッテンベルク公「ルトルフ1世」(〜13560312死去)
1356年1月10日-01:00|ドイツ| |||カール4世が金印勅書を発布し、選帝侯を7人に限定、ザクセン＝ウイッテンベルク公に選帝侯の資格が与えられる
1356年1月20日 00:00|イギリス| |||<退位>スコットランド王「エドワード・ベール」
1356年1月24日-09:00|日本| ||文和4年12月22日<死去>道昭(生年1281年/天台宗の僧、歌人)
1356年1月25日 00:00|イギリス| |||<死去>デズモンド伯「モーリス・フィッツジェラルド」
1356年1月25日 00:00|イギリス| |||<就任>デズモンド伯「モーリス・フィッツジェラルド」(〜1358年死去)
1356年1月26日 00:00|ポルトガル| |||<死去>バルセロス公「Afonso Teles de Meneses」
1356年1月26日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「キルデア伯モーリス・フィッツジェラルド」(〜10.31)
1356年2月2日-09:00|日本| ||正平11・文和5年<交替>和泉国守護「畠山国清」⇒「細川業氏」(〜正平14・延文4(1359)年)
1356年2月2日-09:00|日本| ||正平11・文和5年<任命>美作国守護「赤松貞範」(〜正平18・貞治2(1363)年)
1356年2月2日-09:00|日本| 静岡県磐田市|正平11・文和5年|六所神社(福田町小島)が創立
1356年2月2日-09:00|日本| 静岡県島田市|正平11・文和5年|大津庄司九島族佐久間尉良詔入道、智円院日祐を開山に日蓮宗智運山法信寺(松葉町)開基
1356年2月2日-09:00|日本| 静岡県藤枝市|正平11・文和5年|今川範氏、京都泉涌寺12世朴艾思惇を開山に、華蔵山遍照光寺(花倉)開基
1356年2月10日-09:00|日本| ||正平11・文和5年1月9日|直冬方の最有力者の斯波高経が足利尊氏に降伏
1356年3月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パタイン代行「ミロス・フェルソレンドヴァイ」(1回目〜同月)⇒「ミクロシュ・コト・ウヅラキ」(〜1367年4月没)
1356年3月3日-08:00|中国| ||元・至正16年2月|張士誠、蘇州を占領し都とする
1356年3月12日-01:00|ドイツ| |||<就任>ザクセン選帝侯「ルトルフ2世」(〜13701206死去)
1356年3月19日-09:00|日本| 奈良県奈良市|正平11・文和5年2月17日|大和国雷雨、興福寺金堂・塔焼失
1356年4月-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||<就任>トランシルヴァニア総督「アントラス・ラックフィ」(〜1359年10月)
1356年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョアネーロ・デ・イ・アファトロ」/「パオロ・デ・イ・チェッコ」
1356年4月1日-08:00|中国| ||元・至正16年3月|朱元璋が南京を占領し、応天府とさだめ本拠地とする
1356年4月5日-01:00|フランス| |||フランス王ジャン2世(善良王)、パリ北西のルーアンにある、長男で王太子のシャルルの屋敷で、「ナヴァル王」シャルル(カルロス2世、悪王)を逮捕/パリ北西のルーアンから40km離れたレザントリの「ガイヤル城」に幽閉
1356年4月11日-09:00|日本| ||正平11・文和5年3月10日<任命>備後国守護「細川頼有」(〜貞治4・正平20(1365)年秋)
1356年4月26日-09:00|日本| ||正平11・文和5年3月25日|二条良基が日本初の連歌選集「菟玖波集」を編纂

1370迄 (1504件)

1356年4月29日-09:00|日本| ||正平11;延文1年3月28日|北朝が「延文」に改元
 1356年5月30日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至元22年5月|高麗の恭愍王が反元運動を展開し、東北領域を回復
 1356年5月31日-09:00|日本|福島県福島市|正平11;延文1年5月|日俊岩代立子山に鶴林寺を創す
 1356年6月21日-01:00|ポーランド| |||<死去>ボヘミア公「ボルク2世」
 1356年6月21日-01:00|ポーランド| |||<就任>ボヘミア公「ヴラディスワフ・ボルク」(~14010518死去)、「ボルク3世」(~1370年)、「ヘンリク」(~13651023死去) 共同統治
 1356年6月23日-01:00|オランダ| |||<死去>エノー伯「マルグリット2世」
 1356年6月23日-01:00|オランダ| |||<就任>エノー伯「ギヨーム3世」(~13890415死去)
 1356年7月11日-09:00|日本| ||正平11・延文1年6月13日|<死去>奥州管領「斯波家兼」子の大崎直持が継ぐ(~天授元・永和元(1375)年)/二男兼頼は、父の死後間もなく出羽国に下向して山形を居城とし最上氏の祖となった
 1356年7月28日-09:00|日本| ||正平11;延文1年7月|<任命>中国管領「細川頼之」(~正平17・康安2(1362)年)
 1356年7月28日-09:00|日本| ||正平11・文和5年7月|<任命>備中国守護「細川頼之」(~正平17・康安2(1362)年)
 1356年7月28日-08:00|中国| ||元・至正16年7月|朱元璋が呉を建国し、呉国の公と号する
 1356年8月8日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドーージェ第56代「ジョヴァンニ・グランドーニョ」
 1356年8月13日-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドーージェ(元首)「ジョヴァンニ・ド・ルフイン」(~1361年)
 1356年9月1日-09:00|日本| ||正平11;延文1年8月6日|<任命>羽州探題「最上兼頼」山形に入部(~永和元(1375)年嫡男の直家に家督を譲る)
 1356年9月9日-09:00|日本|京都府京都市|正平11;延文1年8月14日|京都付近大洪水/近畿地方は長雨後、大風雨により鴨川・宇治川洪水、宇治橋流失、中洲の石塔流失
 1356年9月19日-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公「イザベルト・プリンス」ゴージェ5世の娘(~1360年死去)、「ソイエル・ダンギャン」イザベルト・プリンスの息子(~13640321死去)アルゴスとナフプリオを支配
 1356年9月19日-01:00|フランス| |||<死去>ブルボン公「ピエール1世」
 1356年9月19日-01:00|フランス| |||<就任>ブルボン公「ルイ2世」(~14100810死去)
 1356年9月19日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス西部の「ボワティエの戦い」で、エドワード 黒太子、(イングランド 王エドワード 3世の子)率いる「長弓隊」がフランス王ジャン2世の「騎士軍」を破る/ジャン2世は捕虜となり、フランス南西部のボルドーに連行され、その後2年間イングランド(ロンドン)に囚われの身となる
 1356年9月21日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|正平11;延文1年8月26日|山名時氏の家臣長左衛門尉の立てこもる水生城(但馬日高町)を国分寺城に布陣した伊達真信(今川頼貞軍)が攻め、11日間にわたる攻防戦の末、水生城は攻略
 1356年10月7日-09:00|日本| ||正平11・延文1年9月13日|<死去>尊円法親王(生年1298年、法親王)
 1356年10月17日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「エリク12世」共治(~13590620死去20歳)
 1356年10月17日-09:00|日本|長野県|正平11・延文1年9月23日|<死去>吉良満義(生年生年未詳/元信濃守護)
 1356年10月18日-01:00|スイス| |||スイス、バゼル地震(M6.5)、死者300人
 1356年10月31日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「トマス・ド・ロビネー卿」(2回目~13570423)
 1356年11月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>ムッカ・シャリフ「アジュン・アルサリヤ」(~1359年5月)
 1356年11月6日-09:00|日本|福岡県北九州市|正平11;延文1年10月14日|南朝方の軍、一色直氏と筑前国長谷山・中富浜などに戦い麻生山を陥れる/直氏再び長門国へ走る
 1356年11月15日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドーージェ「Simone ボッカケラ」(2期目~13630303)独立を回復
 1357年-08:00|インドネシア| |||<死去>パジャジャラン国王「フルグ・マハラジャ」マジャパヒト王国の宰相「ジャマタ」に殺された/しかし王国は独立を守り通した
 1357年-08:00|インドネシア| |||<即位>スタガール王国マハラジャ「Mangkubumi Suradipati/ Prabu Bunisora」(~1371年)
 1357年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Mamoli」(~1359年)
 1357年-07:00|カンボジア| |||<即位>クメール王朝国王「スレイ・ソリヨフォン」(~1363年)
 1357年-05:30|インド| |||<死去>イリヤース・シャーヒー朝「シャムステーン・イリヤース・シャー」
 1357年-05:30|インド| |||<即位>イリヤース・シャーヒー朝「シクンタル・シャー」(~1389年暗殺される)
 1357年-05:30|スリランカ| |||<即位>ガンボラ王国国王「Vikramabahu3世」Buvaneka Bahu4世の息子(~1374年)
 1357年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ベルディ・ベク(ベルディベク・ハン)」ジャニー・ベクの子(~1359年)
 1357年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイ「Seyfeddin Suleyman Bey」(~1361年)
 1357年-01:00|ポーランド| |||<就任>ピトム公「コンラッド 1世」(~13661222死去)
 1357年-01:00|フランス| |||<就任>ボワティエ伯「John2世」(~14160615死去)
 1357年-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ伯「Niccolo Acciaiuoli」(~1360年)
 1357年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||ハンガリーによるダルマチアのスピリット統治(~1390年)
 1357年 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド 支配者「アルニ・トルダーソン」、「ジョン・グットムソン・スクラグエイファ」、「アントニス・ジー・スラソン(1回目)」、「ソースタイン・エイヨルフソン(1回目)」(~1360年)
 1357年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガンジー-島守護者「Thomas de Langhurst」
 1357年 00:00|イギリス| |||<就任>ストラサン伯「ロバート・ステュアート」(~13710326)
 1357年1月18日-01:00|スペイン| |||<死去>マリア・デ・ボルトゥガル(生年1313年、カスティリヤ王アルフォンソ11世の王妃)
 1357年1月21日-09:00|日本| ||正平12・延文2年|<交替>日向国守護「一色直氏」⇒「一色範親」(~貞治3・正平19(1364)年)
 1357年1月21日-09:00|日本| ||正平12;延文2年|<任命>(南朝)筑前国守護「菊池武光」(~不詳)
 1357年1月21日-09:00|日本| ||正平12;延文2年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「佐々木高秀」(~貞治2・正平18(1363)年)

1370迄 (1504件)

63年)7月辞任)

1357年1月21日-09:00|日本| ||正平12;延文2年|<任命>肥後国守護「菊池武光」(~正平14・延文4(1359)年)
1357年1月21日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|正平12;延文2年|<再建>岡山吉備津神社南随神門
1357年1月21日-09:00|日本|京都府南丹市|正平12;延文2年|<建立>京都普濟寺仏殿
1357年1月21日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|正平12;延文2年|蒲原弾正少弼氏兼、鎌倉建長寺二世徳賜真源大照禪師龍山徳見開山に、岩戸山龍雲寺(蒲原町八幡町)開基
1357年1月21日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|正平12;延文2年|足利尊氏、瑞雲院(興津清見寺町)を復興
1357年2月24日-09:00|日本|鹿児島県志布志市|正平12;延文2年2月5日|南朝方の志布志城主・楡井頼仲が北朝方の禰寝氏に敗れ志布志の大慈寺で自刃
1357年3月9日-09:00|日本|京都府京都市|正平12;延文2年2月18日|北朝・光厳、崇光上皇、帰京
1357年3月23日-01:00|フランス| ||ホルトーの休戦協定が成立
1357年4月 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー島守護者「Thomas de Holland卿」(~1358年)
1357年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョバンニ・ディ・キートウッチョ」「フォスキーノ・カルチニ」
1357年4月9日-09:00|日本|鹿児島県志布志市|正平12;延文2年3月20日|島津氏、志布志松尾城を攻める直頭を破り、大隅より追う
1357年4月24日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事代行「ジョン・デ・ホルトン」(~9. 5)
1357年5月27日-01:00|モロコ| ||<死去>モロコ領主「アントニオ(=アントワヌ)」
1357年5月28日 00:00|ポルトガル| ||<死去>ポルトガル王「アフォンソ4世勇敢王」(誕生1290年)
1357年5月28日 00:00|ポルトガル| ||<即位>ポルトガル王「ペドロ1世厳格王」アフォンソ4世の子(~13670118死去)
1357年7月30日-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「フィリッポ・オリオ」(~13580806)
1357年7月31日-01:00|ドイツ| ||<死去>ニュルンベルク城伯「ヨハン2世」
1357年7月31日-01:00|ドイツ| ||<就任>ニュルンベルク城伯「フリートリヒ5世」(~1397年)
1357年8月-01:00|イタリア| ||ベネツィアでスパラート反乱
1357年8月15日-01:00|モロコ| ||<死去>モロコ領主「カルロ・ケリマルティ(=カルロス1世)」
1357年8月15日-01:00|イタリア/モロコ| ||ジェノヴァがモロコを支配(~13970511)
1357年8月16日-08:00|中国| ||元・至正17年8月|周、張士誠、王号を廃し元に降る
1357年8月18日-01:00|イタリア/フランス| ||<死去>サルツァ侯「トーマス2世」
1357年8月18日-01:00|イタリア/フランス| ||<就任>サルツァ侯「フェデリコ2世」(~1396年死去)
1357年8月20日-09:00|日本|静岡県浜松市|正平12・延文2年閏7月6日|大福寺(三ヶ日町福長)鎮守倒壊
1357年8月25日-09:00|日本| ||正平12;延文2年閏7月11日|わが国最初の連歌准勅撰集『菟玖波集』が編纂された
1357年9月5日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事「セント・アマンド 卿アルメリック」(~13590418)、代行「キルデア伯爵-リス・フィッツジェラルド」(~11. 26)
1357年9月10日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||高麗・至元23年8月26日|倭寇、高麗の昇天府興天寺を襲い、前国王忠宣・韓国公主の肖像を持ち去る
1357年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・ディ・ビアンコ」
1357年10月3日 00:00|イギリス| ||イングランドが、スコットランドと10年間の休戦協定を結ぶ/デヴィッド2世が解放される
1357年10月10日 00:00|ポルトガル| ||<就任>バルセロナ公「Joao Afonso Telo」(~1381年)
1357年11月-03:00|サウジアラビア| ||<就任>メッカ・シャリフ「タハ・ブン・ムルタサ・アサド・アル＝ディン」共同統治(~1359年5月)
1357年12月-02:00|トルコ| ||<退位>カイフ帝国皇帝「マタイオス・カンタケゼノス」(~13830615死去)
1357年12月-02:00|ギリシャ/ハンガリー/イタリア| ||ハンガリー人ザーラを奇襲占領
1357年12月6日-09:00|日本|奈良県|正平12;延文2年10月25日|前興福寺一乗院門主の実玄が兵を率いて奈良に入り、禪定院、宝積院などを焼き、大乗院の孝覚を放逐
1357年12月8日-01:00|ポーランド| ||<就任>ピム公「カシミェシュ1世」(~13580929死去)
1358年-05:30|インド| ||<死去>ベンガル・スルターン朝スルターン「シャムスッディーン・イリヤス・シャー」
1358年-05:30|インド| ||<即位>ベンガル・スルターン朝スルターン「シカンダル・シャー」(~1390年死去)
1358年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>西チヤグタイ・ハン国ハン「カプール・シャー」イルジギディの子トルジの子(~1366年)
1358年-04:00|ロシア| ||<復位>フスコフ公「エウスタフ・フョートロヴィチ」(~1360年)
1358年-03:30|イラン| ||<即位>サラハダース王「Zahir ad-Din」(~1359年)
1358年-03:30|イラン| ||<即位>ムサッファル朝スルターン「シャー・シュジャー」(~13841009死去)
1358年-01:00|アンゴラ| ||<設立>ントンゴ国がムバザ・カバッサに
1358年-01:00|クロアチア/ハンガリー| ||ハンガリーによるダルマチアのザラ支配(~14030218)
1358年 00:00|イギリス| ||<死去>デズモンド伯「モーリス・フィッツジェラルド」
1358年 00:00|イギリス| ||<就任>デズモンド伯「ジェラルド・フィッツジェラルド」(~1398年死去)
1358年1月10日-09:00|日本| ||正平12・延文2年12月|<任命>武蔵国守護「畠山国清」(~康安元・正平16(1361)年11月失脚)
1358年1月10日-08:00|中国| ||元・至正17年12月|徐寿輝の武将明玉珍、重慶を占領
1358年1月26日 00:00|イギリス| ||<就任>ダグラス伯「William Douglas」(~13840501死去)
1358年2月9日-09:00|日本| ||正平13・延文3年|<任命>(北朝方)九州探題「細川繁氏」(~正平14・延文4(1359)年6月2日死去)
1358年2月9日-07:00|ベトナム| ||大越・大治1年|大越・大治と改元(-1369)
1358年2月10日-09:00|日本|山口県宇部市|正平13;延文3年1月2日|厚東氏、大内氏に攻められ本拠である霜降城

1370迄 (1504件)

を放棄、豊前へ

1358年2月11日-05:30|インド| |||<死去>ハマニ朝初代スルタン「アラー・ウッディーン・ハマニ・シャー」
1358年2月11日-05:30|インド| |||<即位>ハマニ朝第2代スルタン「ムハンマド・シャー1世」(~13750421死去)
1358年2月12日-09:00|日本|京都府京都市右京区|正平13:延文3年1月4日|天龍寺火災. 雲居庵を除いて消失
1358年2月18日-01:00|ハンガリー/イタリア| |||ヴェネツィアが、イストリアとダルマチアの大部分をハンガリーに譲渡
1358年2月18日-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||ラウザはハンガリーの宗主権下 (13580627批准~1458年)
1358年2月22日-01:00|フランス| |||王太子シャルル(後のシャルル5世)の私室で、父ジャン2世(善良王)の評定議員「ジャン・ベニユ元帥」ジャン・ド・コンフラン、「ノルマンディー元帥」ロベール・ド・クレモンが暗殺される
1358年2月23日-01:00|フランス| |||エティエンヌ・マルセルの率いるパリの民衆が宮殿に乱入する/王太子シャルルが、大勅令を尊重することを約束
1358年5月28日-01:00|フランス| |||ボアティエの戦いで敗残傭兵の掠奪が続発したため、フランス中北部のボヘーの農民たちが自衛のため蜂起する(ジャックリーの乱)
1358年6月7日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィアがカララのフランチェスコ一世と和平
1358年6月7日-09:00|日本/韓国/朝鮮| |||高麗・至元24年5月|倭寇が高麗の喬桐を焼き、開京が戒厳する
1358年6月7日-08:00|中国| |||元・至正18年5月|劉福通、ベン梁に遷都
1358年6月7日-09:00|日本| |||正平13・延文3年4月30日|<隠居>室町幕府執事「仁木頼章」
1358年6月7日-09:00|日本| |||正平13・延文3年4月30日|<死去>室町幕府初代征夷大將軍「足利尊氏」病死/54歳(誕生:嘉元3(1305))
1358年6月7日-09:00|日本| |||正平13・延文3年4月30日|<出家>斯波高経(⇒道朝)
1358年6月10日-01:00|フランス| |||ジャックリーの乱が鎮圧される。指導者のギヨーム・カルが処刑される
1358年6月22日-01:00|フランス/イギリス| |||エティエンヌ・マルセルと手を結んだ「イギリス=ナヴァール連合軍」がパリに侵入し、市民の反発を受けたエティエンヌ・マルセル、事実上孤立
1358年7月29日-09:00|日本| |||正平13・延文3年6月23日|<交替>長門国守護「厚東義武」⇒「大内弘世」(~文中3:応安7(1374)年)
1358年7月31日-01:00|フランス/イギリス| |||エティエンヌ・マルセル、イギリス軍を引き入れるため首都の「市門」を開こうとして、パリの「サン・タンワース門塔」(4区)において市参事会員ジャン・マイヤールの裏切りにより殺害される/「フレヴォ(商人頭)」の「エティエンヌ・マルセルの乱」が終結/パリ城代のナヴァール王シャルル(カルロス2世、悪王)も逃亡
1358年8月13日-09:00|日本|愛媛県北宇和郡鬼北町|正平13・延文3年7月8日|坂上有重、宇和郡善光寺の薬師如来像を造らせる
1358年8月16日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリア| |||<死去>オーストリア公・シュターアマルク公・ケルテン公・カルニオラ辺境伯「アルブレヒト2世賢公」59歳
1358年8月16日-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<即位>オーストリア公・シュターアマルク公・カルニオラ辺境伯「ルドルフ4世建設公」(~13650727死去)
1358年8月16日-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<即位>ケルテン公「フレデリック1世」(~13621210)、「ルドルフ2世」(~13650727死去)
1358年8月22日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「ピエトロ・パドエル」(~1359年)
1358年8月22日 00:00|イギリス| |||<死去>イザベラ・オブ・フランス(生年1295年、インクランド王エドワード2世の王妃)
1358年9月29日-01:00|ポーランド| |||<死去>チェン公・ピトム公「カシミェシュ1世」
1358年9月29日-01:00|ポーランド| |||<就任>チェン公「フシェミツワ1世/ジャク」(~14100523死去) 兼ピトム公(~1405年)
1358年11月10日-09:00|日本| |||正平13・延文3年10月9日|<任命>室町幕府執事「細川清氏」(~慶安1(1361)年9月23日)
1358年11月11日-09:00|日本|東京都大田区|正平13:延文3年10月10日|足利基氏、新田義興を武蔵矢口渡で謀殺
1358年11月24日-02:00|パレスチナ/キプロス| |||<即位>エルサレム王・キプロス王国国王「ヒェル1世」(~13690117死去)
1358年11月24日-02:00|パレスチナ/キプロス| |||<退位>エルサレム王・キプロス王国国王「ユグ4世」(~13591010死去)
1358年12月2日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|正平13:延文3年11月|<建立>岡山妙国寺の釈迦如来像
1358年12月2日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|正平13:延文3年11月|菊池武光は九州征覇の仕上げとして畠山直顕・重隆父子の穆佐城を攻めおとす
1358年12月31日-09:00|日本|大分県大分市|正平13:延文3年12月|懐良親王、豊後国に入り狭間を襲う/大友氏時、高崎城に籠り南軍を撃退
1358年12月31日-08:00|中国/モンゴル| |||元・至正18年12月|劉福通の武將関先生らが元の上都を撃破
1359年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Gapi Malamo1世」(~1372年)
1359年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「クルナ(クルパ)」ジャニーニ・ベクの子、ベルディ・ベクの弟(~1360.1死去)
1359年-04:00|ロシア| |||<死去>スモレンスク公「イヴァン・アレクサンドロヴィチ」
1359年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「トミリー・コンスタンチノヴィチ」(~1363年)
1359年-04:00|ロシア| |||<即位>キプチャク・ハン国ハン「ケルディ・ベク」(~1360年)
1359年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「スガトスラフ・イヴァノヴィチ」(~1386年戦死)
1359年-03:30|イラン| |||<死去>パダスパニド朝君主「Eskandar2世」
1359年-03:30|イラン| |||<即位>サラバダース王「Haidar al-Qassab」(~1360年)
1359年-03:30|イラン| |||<即位>パダスパニド朝君主「Fakhr al-Dawla Shah-Ghazi」(~1378年)
1359年-03:30|イラン| |||<即位>ムサッファル朝スルタン「シャー・シュジャー」(~13841009死去)
1359年-03:30|イラン| |||<廢位>ムサッファル朝スルタン「ムハリス・ウッディーン・ムハンマド」長男のシャー・シュジャーが反対派を結集して

1370迄 (1504件)

蜂起捕らえられて盲目にされて廃位、イスファハーンに幽閉(〜13631201死去)

1359年-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「サード・ブン・ムルマタ」、「ムハンマド・ブン・ウタイファ」共同統治(〜1360年)

1359年-02:00|ギリシャ| |||<死去>エピソード専制公「ニコフォロス5世ドゥカス」

1359年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「アントニア・ダントロ」(〜1360年)

1359年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エピソード専制公「シメオン・ウロシュ・パレオロガス」(〜1366年)

1359年-02:00|ウクライナ/モルドバ/ルーマニア| |||<就任>ブコヴィナはモルドバ公国の一部

1359年-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト・ツェルプスト侯「Albert3世」(8.1死去)共同統治

1359年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチア・ハン「ニコラ・セーチ」(〜1366年)

1359年-01:00|ドイツ| |||<就任>ホルシュタイン=キール伯「アドルフ9世(7世)寛大伯」(〜1390年ホルシュタイン=キール(フレンを含む)はホルシュタイン=レンスブルクに併合)

1359年-01:00|アルジェリア| |||<即位>サイヤーン朝スルタン「アフマド2世」(〜1360年)

1359年-01:00|セルビア| |||<即位>セルビア共同皇帝(ネマニッチ朝)シメオン・ウロシュ・パレオロガス[ステファン・ウロシュ4世ドゥシャンの異母弟、セリヤ皇帝](〜1371年、ウロシュ5世及びシメオン・ウロシュ・パレオロガス死去に伴いネマニッチ王家断絶/両者及びウガシン死去に伴い帝国-王国解体)

1359年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Edmond de Cheney卿」(〜1366年)

1359年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリーン朝スルタン「ムハンマド2世アサ=サイド」(〜同年)⇒「アフマド・サリム・アリ2世」(〜1361年)

1359年 00:00|モロッコ| |||タンジールはモロッコの一部(〜1421年)

1359年1月7日-09:00|日本| ||正平13;延文3年12月8日|<任命>室町幕府第2代将軍「足利義詮」(〜貞治6(1367)年12月7日)

1359年1月28日-09:00|日本| ||正平13・延文3年12月29日|<就任>(北朝)関白「九条経教」(〜康安元年11月9日)

1359年1月29日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正19年1月|方国珍が朱元璋軍に参加

1359年1月30日-09:00|日本| ||正平14;延文4年|<再任>筑前国守護「少貳頼尚」(〜康安元・正平16(1361)年)

1359年1月30日-09:00|日本| ||正平14;延文4年|<任命>肥前国守護「少貳頼尚」(〜康安元・正平16(1361)年)

1359年3月-01:00|フランス/イギリス| |||イングランド王エドワード3世、ロンドンでの交渉でフランス王ジャン2世の釈放と引き替えに、フランス南西部の全アキテーヌのほか、フランス北西部のノルマンディー、トゥーレーヌ、アンジュー、メーヌの割譲まで要求/フランス王ジャン2世はこれに同意「ロンドン条約」

1359年3月19日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ビンヤ王「ナラトウ」(〜1364年6月)

1359年4月18日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「オモント・伯ジェームズ・パトラー」(〜13610331)

1359年5月25日-09:00|日本| ||正平14;延文4年4月28日|御子左為定新千載和歌集を撰進

1359年5月26日-09:00|日本| ||正平14;延文4年4月29日|<死去>阿野廉子、後醍醐天皇の寵妃、女院(生年1301年)

1359年5月28日-09:00|日本|神奈川相模原市|正平14;延文4年5月|ほうけん作の久米郡三島神社木造隨身立像が造られる

1359年6月21日-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王国国王「エリク12世」(20歳、生年1339年)

1359年6月27日-09:00|日本| ||正平14・延文4年6月2日|<死去>(北朝方)九州探題「細川繁氏」

1359年7月1日-09:00|日本| ||正平14・延文4年6月6日|<死去>讃岐・土佐国守護「細川繁氏」はこの頼之が継ぐ(〜天授5・康暦元(1379)年間4月解任)

1359年8月-01:00|スペイン| |||<即位>グラナダ王国ナシル朝アミール「イスマイル2世」(〜13600624死去)

1359年8月-01:00|スペイン| |||<退位>グラナダ王国ナシル朝アミール「ムハンマド5世」

1359年8月1日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ツェルプスト侯「Albert3世」

1359年8月7日-09:00|日本| ||正平14・延文4年7月13日|<死去>甲斐国守護「武田信武」子の信成が継ぐ(〜正平23・貞治7(1368)年)

1359年8月24日-09:00|日本| ||正平14;延文4年8月|<任命>飛騨国守護「京極高氏」(〜貞治4・正平20(1365)年2月)

1359年8月24日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正19年8月|元朝のチガング・テムルが抹梁を奪還、劉福通は安豊に逃亡

1359年8月29日-09:00|日本|福岡県太宰府市|正平14;延文4年8月6日|<筑後川の戦い(菊池合戦)>懐良親王、菊池武光、赤星武貴、宇都宮貞久、草野永幸、大野光隆、西牟田讃岐守ら南朝勢約4万は筑後川の北岸に陣を張り、大宰府を本拠とする北朝・足利勢の少貳頼尚、少貳直資の父子、大友氏時、城井冬綱ら約6万と対峙し、両軍合わせて約10万の大軍が戦った/足利側の少貳直資は戦死、南朝側の懐良親王や菊池武光も負傷し、両軍合わせて4,800余人が討死/戦いに敗れた足利軍は大宰府に逃れ、九州はこの後、幕府が今川貞世を九州探題として派遣するまでの13年ほどは南朝の支配下に入ることとなった

1359年9月10日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<死去>リグア騎士団団長「コスウィン・フォン・ヘレーク」

1359年9月10日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リグア騎士団団長代行「アントニアス・フォン・シュタインベルク」(1回目〜1360年2月)

1359年9月16日-09:00|日本| ||正平14;延文4年8月24日|<任命>肥後国守護「大友氏時」(〜正平16年・康安1(1361)年10月解任)

1359年9月25日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ベアトリス・デ・カステリャ・イ・モリナ(生年1293年、ポルトガル王アフォンソ4世の王妃)

1359年9月27日-01:00|ドイツ| |||<死去>ホルシュタイン=キール伯「ヨハン3世寛大伯」

1359年9月27日-01:00|ドイツ| |||<就任>ホルシュタイン=キール伯「アドルフ9世寛大伯」(〜13900126死去)

1359年10月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「タハ・ブン・ムルマタ・アサド・アル=デイン」共同統治(〜1361年7月)

1359年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョバンニ・デ・イ・ギト・ウッチョ」[「コルベロ・デ・イ・ウイタ」]

1359年10月10日-02:00|パレスチナ/キプロス| |||<死去>キプロス王国国王「ユーク4世(ヒュゴ4世)」

1359年10月10日-02:00|キプロス| |||<即位>キプロス王国国王「ヒェール1世」(〜13690117、死去)

1359年10月23日-09:00|日本| ||正平14;延文4年10月|<交替>和泉国守護「細川業氏」⇒「畠山国清」再任(〜正平15

1370迄 (1504件)

・延文5 (1360) 年)

- 1359年10月23日-09:00|日本| ||正平14・延文4年10月|<失脚>越中国守護「井上俊清」
- 1359年10月27日-09:00|日本|鹿児島県曾於市|正平14;延文4年10月5日|再起した畠山直顕が相良定頼と謀って島津氏久と日向国合原で戦い敗れる
- 1359年11月-02:00|ル・マニア/ハンガリー| ||<就任>トランシルヴァニア総督「デ・ネ・ラックフィ」(~1367年1月)
- 1359年11月4日-09:00|日本| ||正平14・延文4年10月13日|<死去>丹波国守護「仁木頼章」頼夏が継ぐ(~翌年10月罷免)
- 1359年11月13日-04:00|ロシア| ||<死去>モスクワ大公・ウラジーミル・スズダリ大公「イワン2世イワノヴィチ・クラスヌイ」
- 1359年11月13日-04:00|ロシア| ||<即位>モスクワ大公「ドミトリ・イワノヴィチ・ドンスコイ」(~1390519死去)
- 1359年12月21日-09:00|日本| ||正平14;延文4年12月|<任命>河内国守護「畠山国清」(~正平15・延文5 (1360) 年7月)
- 1359年12月21日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||高麗・至元25年12月|紅巾軍が第1次高麗襲撃を開始
- 1359年12月21日-08:00|中国| ||元・至正19年12月|陳友諒、江州に都して漢王を称す
- 1360年-08:00|ブルネイ| ||<即位>ブルネイ・ダラーム国スルタン「ムハンマド」(~1402年死去)
- 1360年-08:00|モンゴル| ||トウグル・テムールが西チベットを征服
- 1360年-05:30|インド| ||<建国>ラジピット王国
- 1360年-05:30|インド| ||<死去>シャーン・ウ・アラヤ朝「ラージヤナーヤナ・シャーン・ウ・アラヤ」、タミル地方がラジヤナガル王国支配下となる
- 1360年-05:00|ガフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン| ||<死去>オルダ・ウルス・ハン「Chimtay」
- 1360年-04:00|ジョージア| ||<死去>グルジア国王「ダビデ9世」
- 1360年-04:00|ロシア| ||<即位>ウラジーミル・スズダリ大公「ドミトリ・コンスタンティノヴィチ」(~1362年12月)
- 1360年-04:00|ジョージア| ||<即位>グルジア国王「バグラト5世」(~1393年死去)
- 1360年-04:00|ロシア| ||<即位>プスコフ公「アレクサンドル(ホリス)」(~1369年頃)
- 1360年-04:00|ロシア| ||<即位>ロストフ・ウスレンスキー公「コンスタンチン・ウ・アシエヴィチ」(~1364年)
- 1360年-03:30|イラン| ||<復位>サラバダース王「Lutf Allah」(~1361年死去)
- 1360年-02:00|ギリシャ| ||<死去>アテネ公「イザベルト・フリエンヌ」
- 1360年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「マリノ・グリマーニ」(2度目~1362年)
- 1360年-02:00|トルコ| ||<即位>アイドゥン侯国ベイ「Isa b. Mehmed」(~1390年)
- 1360年-02:00|トルコ| ||<即位>テケ侯国ベイ「Mubarizuddin Mehmed・ベイ」(~1380年)
- 1360年-01:00|フランス| ||<死去>サン＝ボルベ「ギ」-5世」
- 1360年-01:00|イタリア| ||<就任>ウルビーノ伯「フェデリコ2世・ダ・モンテフェルトロ」(~1363年)
- 1360年-01:00|フランス| ||<就任>オーベリュ伯「Philip1世」(~1361年)
- 1360年-01:00|フランス| ||<就任>サン＝ボルベ「モー」(~1378年)、「ギ」(~13710823死去)
- 1360年-01:00|フランス| ||<就任>ペリー公「ジャン1世」(~14160315死去)
- 1360年-01:00|ベルギー| ||<就任>ベルク伯「ユリヒ=ハインリッヒ家」ウイヘルム2世(~1408年)
- 1360年-01:00|マルタ| ||<就任>マルタ伯「Guido Ventimiglia」(~1362年)
- 1360年-01:00|フランス| ||<昇格>アンジュー伯「ルイ1世」⇒アンジュー公(~13840920死去45歳)
- 1360年-01:00|アルジェリア| ||<即位>ザイヤン朝スルタン「Abu Zayyan Muhammad2世 ibn Uthman」(~同年)⇒<復位>ザイヤン朝スルタン「アフ・ハムム2世」(~1370年)
- 1360年 00:00|アイルランド| ||<死去>トメント王「デ・イアムイト・マック・トイルデルバ・ツァ・オー・ブリアン」
- 1360年 00:00|マリ| ||<死去>マリ帝国マンサ「マンサ・スレイマン」
- 1360年 00:00|イギリス| ||<就任>初代セント・トマス・ホランド「妻の権利により」(~12.26死去)
- 1360年 00:00|アイルランド| ||<即位>トメント王「マスカム・マイン・マオンハイグ・オー・ブリアン」ミューアチルツァ・オー・ブリアンとエアド・オイン・ニック・ゴールメンの息子(~1369年没)
- 1360年 00:00|マリ| ||<即位>マリ帝国マンサ「Kassa」(~同年)⇒「Mari Diata2世」(~1374年死去)
- 1360年 00:00|チン礼諸島/イギリス/フランス| ||イングランドは、オルダニー島に対するケタス司教の権利を回復
- 1360年1月-05:00|ガフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<死去>ジョチ・ウルス・ハン「クルパ」)
- 1360年1月-05:00|ガフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「サウルス」ウズベク・ハンの未亡人タイグリと結婚(~1361年死去)
- 1360年1月-01:00|フランス| ||<即位>ペリー公「ジャン」ジャン2世の三男(~14160615死去)
- 1360年1月12日-09:00|日本|大阪府河内県長野市|正平14;延文4年12月23日|後村上天皇が、南朝行宮(仮の都)を金剛寺から楠木氏の菩提寺である河内国観心寺に遷した
- 1360年1月18日-01:00|イタリア| ||<死去>マントヴァのガスターノ・デル・ポポロ「ルドヴィーコ1世・ゴンザーガ」
- 1360年1月18日-01:00|イタリア| ||<就任>マントヴァのガスターノ・デル・ポポロ「ゲイート・ゴンザーガ」(~13690922)
- 1360年1月19日-09:00|日本| ||正平15;延文5年|<交替>丹後国守護「仁木頼勝」失脚⇒「仁木義尹」(~正平18・貞治2 (1363) 年)
- 1360年1月19日-09:00|日本| ||正平15;延文5年|<再任>紀伊国守護「畠山国清」(~同年)
- 1360年1月19日-09:00|日本| ||正平15;延文5年|<任命>越中国守護「細川頼和」(~康安元・正平16 (1361) 年9月23日解任)
- 1360年1月19日-07:00|ベトナム| ||大越・大治3年|<死去>チャンパ王「茶和布底」
- 1360年1月19日-07:00|ベトナム| ||大越・大治3年|<即位>チャンパ王「阿答阿者(Binasuor、制蓬峩)」(~13900208死去)
- 1360年1月19日-09:00|日本|大阪府南河内郡河南町|正平15・延文5年1月|今川範氏・佐々木氏頼、平岩城(河内町平

1370迄 (1504件)

岩) 攻落

1360年1月24日 00:00|イギリス| |||<死去>7代オックスフォード伯「ジョン・ド・ヴァー」
1360年1月24日 00:00|イギリス| |||<就任>8代オックスフォード伯「トマス・ド・ヴァー」先代の子(〜1371.9死去)
1360年2月-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リガ・オ・騎士団団長「アーノルド・フォン・ヴァーティンゲン」(〜13640711死去)
1360年2月26日 00:00|イギリス| |||<死去>マーチ伯「ロジャー・モティマー」
1360年2月26日 00:00|イギリス| |||<就任>マーチ伯「エドマント・モティマー」先代の子(〜13811227死去)
1360年3月17日-01:00|イタリア| |||アルボルス枢機卿がボローニャを獲得
1360年3月31日-09:00|日本| ||正平15; 延文5年3月14日<死去>二条為定(生年1293年/公卿、歌人)
1360年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「チャペッタ・ディ・ノヴェッロ」「ニノ・ディ・シモニー」
1360年4月3日-09:00|日本|大阪府河内長野市|正平15; 延文5年3月17日|畠山国清が河内国の歎心寺を攻め、大門・講堂などを焼く
1360年4月12日-09:00|日本|滋賀県大津市|正平15; 延文5年3月26日|近江国常楽寺本堂火災で全焼/その年のうちに観慶らによって再興
1360年4月16日-09:00|日本| ||正平15; 延文5年4月<交替>和泉国守護「畠山国清」⇒「細川業氏」(〜(正平16年・康安1(1361)年)
1360年4月16日-09:00|日本|和歌山県紀の川市|正平15; 延文5年4月|畠山国清勢、紀州竜門山の四条隆俊を破る
1360年5月8日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス国王代理の「摂政」王太子シャル(のちのシャル5世)、「ロンドン条約」から大幅に条件を緩め、イングランドと「ブレティン-仮条約」を結ぶ/「フランス王位」要求の放棄と交換に、フランス南西部のアキテーヌと、フランス北部の港湾都市カレーの割譲、及び300万エクの身代金を中心とする内容/これは10月に「カレー条約」として正式に締結される
1360年5月10日-09:00|日本|奈良県五條市|正平15; 延文5年4月25日|南朝皇族で南朝征夷大將軍に任じられていた赤松宮が、北朝に寝返り、義詮から軍勢を借りて、吉野・賀名生に進軍/赤松宮は南朝の前関白(二条師基)が率いる軍に敗北し、奈良に撤退
1360年5月13日-09:00|日本|奈良県奈良市|正平15; 延文5年4月28日|和田正武・楠木正儀が、赤松宮の立てこもる奈良を陥落させ、乱はわずか3日で収束
1360年5月16日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||高麗・至元26年5月|倭寇、高麗の江華島を襲い城に破る
1360年5月18日-01:00|ドイツ| |||<死去>ベルク伯「ゲルハルト6世」兼ラフェンベルク伯「ゲルハルト1世」
1360年5月18日-01:00|ドイツ| |||<就任>ベルク伯「ゲイルハルト7世」(⇒1380年ベルク公〜14080625死去)兼ラフェンベルク伯「ゲイルハルト1世」(〜1395年譲位)
1360年5月27日-09:00|日本|和歌山県|正平15; 延文5年閏4月12日|南朝軍は紀伊国で大敗、楠木一族の楠木正久が戦死
1360年6月13日-09:00|日本|大阪府南河内郡河南町|正平15; 延文5年閏4月29日|今川上総守範氏・佐々木氏頼・佐々木信詮5百余騎、平石城(平石)を攻略し、八尾の守将真木野某ら敗走
1360年6月14日-09:00|日本|和歌山県|正平15; 延文5年5月1日|楠木軍は有田・湯浅・石垣城を落とされた
1360年6月14日-08:00|中国| ||元・至正20年閏5月1日|陳友諒、徐寿輝を殺し、皇帝位に即き、国号を漢、年号を大儀とする/明玉珍、陳友諒と絶交、隴蜀王を称す
1360年6月22日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|正平15; 延文5年5月9日|細川清氏、楠木正儀の赤坂城を陥落させる
1360年6月24日-01:00|スペイン| |||<死去>ゲラタ王国ナル朝アミール「イスマーイル2世」
1360年6月24日-01:00|スペイン| |||<即位>ゲラタ王国ナル朝アミール「ムハンマド6世」(〜13620425死去)
1360年7月10日-09:00|日本|兵庫県尼崎市|正平15; 延文5年5月27日|足利義詮は撤兵を宣言し、摂津国尼ヶ崎の本陣を引き払う
1360年8月13日-09:00|日本| ||正平15; 延文5年7月<交替>伊勢・志摩国守護「仁木義長」⇒「土岐頼康」(〜正平21・貞治5(1366)年8月)
1360年8月13日-09:00|日本| ||正平15; 延文5年7月<任命>三河国守護「新田義高」(〜文中2・応安6(1373)年)
1360年8月16日-01:00|イタリア/キプロス/パレスチナ| |||ベネチアがキプロス及びエルサレムの王位をエトロと和平確立
1360年8月30日-09:00|日本|京都府京都市|正平15; 延文5年7月18日|仁木義長、畠山国清と争い勢い尽きて京都を脱出
1360年8月31日-01:00|デンマーク/ドイツ/ノルウェー/スウェーデン| |||ハンザ同盟、ノルウェー、スウェーデン、ドイツ騎士団が、デンマークに対抗する同盟を結ぶ
1360年9月-01:00|イタリア| |||ボローニャが、アルボルス枢機卿から再びミラノに奪い返される
1360年9月11日-09:00|日本|愛知県|正平15; 延文5年8月|前三河守護仁木義長方の諸士、三河国矢作・尾張国小河で畠山国清を攻める。尾張守護土岐頼康・三河守護新田義高、仁木方を打ち破る
1360年9月14日-09:00|日本|岡山県|正平15; 延文5年8月4日|山名時氏、因幡美作へ乱入し、美作の赤松方諸城を降す
1360年9月16日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーサンプトン伯「ウィリアム・ド・ブーン」
1360年9月16日 00:00|イギリス| |||<就任>ノーサンプトン伯「ハフリー・ド・ブーン」(〜13730116死去とともに停止)
1360年9月29日-01:00|フランス| |||<死去>オーグエルニュ女伯「ジャンヌ1世」(生年1326年、フランス王ジャン2世の2度目の妃)
1360年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フォスキノ・カルチーニ」「ジョヴァンニ・ディ・ビアンコ」
1360年10月9日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「キルデア伯モリス・フィッツジェラルド」(⇒13610331、判事〜13610915)
1360年10月24日-01:00|フランス/イギリス| |||カレー条約が結ばれ、フランスがジャン2世の身代金を支払い、アキテーヌ・ポワトゥー地方

1370迄 (1504件)

などを割譲/イングランドはフランス王の称号を放棄

- 1360年11月2日-09:00|日本|京都府京都市東山区|正平15; 延文5年9月23日|将軍義詮は細川清氏に謀反の気があるとして、後光厳天皇を奉じて京都新熊野に移り、清氏誅殺のための兵を徴収、細川清氏は若狭国(現在の福井県南部)に逃れた
- 1360年11月7日-09:00|日本|滋賀県甲賀市|正平15; 延文5年9月28日|南朝方は近江国の佐々木氏頼ら石塔頼房らの伊賀国・伊勢国の軍勢で北朝幕府方佐々木氏頼の近江市原城を攻撃するが矢野下野守らが戦死するなど南朝軍は大敗
- 1360年11月10日-09:00|日本| ||正平15; 延文5年10月|<交替>摂津国守護「赤松光範」解任⇒「京極高氏」(~正平17・康安2(1362)年8月)
- 1360年11月10日-09:00|日本| ||延文5・正平15年10月|<交替>丹波国守護「仁木頼夏」罷免⇒「仁木義尹」(~貞治2・正平18(1363)年4月)
- 1360年11月14日-09:00|日本| ||延文5; 正平15年10月5日|紀伊・摂津/4日に大震, 5日に再震, 6日の六ツ時過ぎに津波が熊野尾鷲から摂津兵庫まで来襲し, 人馬牛の死が多かった
- 1360年12月4日-09:00|日本|福井県|延文5; 正平15年10月25日|細川清氏は若狭国で幕府の追討軍に敗れる
- 1360年12月6日-09:00|日本|滋賀県大津市|延文5; 正平15年10月27日|細川清氏は近江国坂本に逃走、進退極まって南朝に投降
- 1360年12月26日 00:00|イギリス| ||<死去>初代ケント伯「トマス・ホランド」
- 1360年12月26日 00:00|イギリス| ||<就任>第2代ケント伯「トマス・ホランド」(~13970425死去)
- 1361年-05:45|マラヤ| ||<即位>マラヤ国王「Jayarjuna Mallai」(~1382年)
- 1361年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<死去>ジョチ・ウルス・ハン「ナウルズ」
- 1361年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン| ||<即位>オルダ・ウルス・ハン「Urus Khan」(~1377年死去)
- 1361年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ヒズル」(~同年)⇒「テムル・ホシヤ」ヒズルの子(~同年)⇒「オルド・マリク」(~同年)⇒「ケルデ・イ・ベク」ウズベクの子(~1362年)
- 1361年-03:30|イラン| ||<死去>サラバダース王「Lutf Allah」
- 1361年-03:30|イラン| ||<即位>サラバダース王「Hasan al-Damghani」(~1364年)
- 1361年-02:00|エストニア/ドイツ| ||<就任>リガ・オニアのレヴァル司令官「ヘルミット・フォン・デ・イーベンフ・ロック」(~1369年)
- 1361年-02:00|トルコ| ||<即位>イスフェンディヤリス 君主「Celaeddin or Koturum Bayezid」(~1383年)
- 1361年-02:00|トルコ| ||<即位>カラマニ朝ベイ「Damad1世 Alaeddin Ali Bey」(~1398年)
- 1361年-02:00|ギリシャ/トルコ| ||西トラキアはオスマン帝国の一部(ルミア州の一部として)
- 1361年-02:00|トルコ| ||オスマントルコがアドリアノブルを占領し、首都とする
- 1361年-01:00|フランス| ||<就任>オーベールニュ伯「John1世」(~1386年)
- 1361年-01:00|フランス| ||<就任>セーブル伯「John3世」(~1370年)
- 1361年-01:00|イタリア| ||<就任>フェーラ侯「アルベルト」(⇒13880326フェーラ・モテナ侯~13930730死去)
- 1361年-01:00|フランス| ||<就任>ブルゴニュ伯「マルグリット1世」(~1382年)
- 1361年-01:00|イタリア| ||<就任>モテナ侯「ニコロ2世」(~13880326死去)
- 1361年-01:00|オランダ| ||<即位>ゲルデルン公「エドゥアルト」(~13710824死去)
- 1361年-01:00|ハンガリー| ||ハンガリー王国首都がペシュトからブダペストへ移転(-1541)
- 1361年 00:00|アイスランド/デンマーク| ||<就任>アイスランド 支配者「スミト・ケル・アンド・レソ」(~1362年没)
- 1361年 00:00|モロッコ| ||<即位>マリニ朝スルタン「アフ・ウマル・タシュフィン」(~1361年)
- 1361年1月15日-02:00|キプロス| ||キプロス十字軍のピエール1世がキリヤの港コロスを占領
- 1361年1月17日-01:00|ベルギー| ||<死去>シー伯「Thierry de Heinsberg」
- 1361年1月17日-01:00|ベルギー| ||<就任>シー伯「Godfrey de Heinsberg」(~1362年)
- 1361年2月6日-09:00|日本| ||正平16・延文6年|<交替>筑前・対馬国守護「少式頼尚」隠居⇒「少式冬資」(~天授元・永和元(1375)年8月26日暗殺される)
- 1361年2月6日-09:00|日本| ||正平16・延文6年|<任命>(南朝)肥前国守護「菊池武光」(~正平22・貞治6(1367)年)
- 1361年2月6日-09:00|日本| ||正平16・延文6年|<任命>(南朝)豊前国守護「少式頼澄」(~正平20・貞治4(1365)年)
- 1361年2月6日-09:00|日本| ||正平16・延文6年|<任命>但馬国守護「仁木頼勝」(~正平20・貞治4(1365)年)
- 1361年2月6日-09:00|日本|愛媛県松山市|正平16; 延文6年|風早郡宗昌寺木造大蟲禅師坐像が造られる
- 1361年2月23日-09:00|日本|滋賀県東近江市|正平16; 延文6年1月18日|佐々木六角氏頼が寂室禅師を招請して永源寺創建<臨濟宗永源寺派本山>
- 1361年2月26日-01:00|ドイツ/オランダ| ||<死去>ユーリヒ公「ウイヘルム6世」
- 1361年2月26日-01:00|ドイツ/オランダ| ||<即位>ユーリヒ公「ウイヘルム2世」(~13931213死去)
- 1361年2月26日 00:00|イギリス| ||<死去>初代ケンブリッジ伯「ウィリアム・オブ・ジュリアス」
- 1361年3月8日-09:00|日本| ||正平16; 延文6年2月|仁木義長、南朝へ帰順
- 1361年3月9日-01:00|ドイツ| ||<死去>ブラウンシュヴァイク=グエルベンハーゲン侯「エルスト1世」
- 1361年3月9日-01:00|ドイツ| ||<就任>ブラウンシュヴァイク=グエルベンハーゲン侯「アルブレヒト1世」エルスト1世の息子、弟のヨハンと共同統治(~1383年死去)
- 1361年3月17日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| ||<死去>パフリー・マムルーク朝スルタン「ナースイル・ハサン」殺害される
- 1361年3月17日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| ||<即位>パフリー・マムルーク朝第24代スルタン「アル=マンズール・サラール=アル=デイン・モハメッド・ベン・ハギ」(~13630529廃位)
- 1361年3月24日 00:00|イギリス| ||<死去>初代ランカスター公・4代レスター伯・ダービー伯・リンカン伯「ハントリー・オブ・グロズモント」
- 1361年3月24日 00:00|イギリス| ||<就任>レスター伯「ウイヘルム1世」パリエル公(~1362年)、ランカスター公・レスター伯「ジョン・オブ・コ

1370迄 (1504件)

- ント」(~13990203死去)
- 1361年3月27日 00:00|イギリス| |||<死去>ダーク・伯爵「ヘンリー・オブ・ゲロムント」
- 1361年3月27日 00:00|イギリス| |||<就任>ダーク・伯爵「John of Gaunt」(~13990203死去)
- 1361年4月13日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|正平16; 延文6年3月8日|醍醐寺の如意輪堂・五大堂がことごとく焼失
- 1361年5月4日-09:00|日本| ||正平16; 康安元年3月29日|北朝が「康安」に改元
- 1361年5月30日-09:00|日本|山口県下関市|正平16; 康安元年4月26日|菊池軍は長門長府で幕府軍の山名・赤松軍を破ったが、豊後の宮方の島津・伊東らは裏切って幕府方となり、菊池を攻めたので、菊池は破れ敗走
- 1361年6月16日-01:00|イタリア| |||教皇軍が、ミラノ軍をロッシで破る
- 1361年7月-02:00|キプロス| |||<就任>キプロス王国摂政「アンティオキア王子ジャン(ヨハン)・ド・ルシニョン」(1度目~9. 22)
- 1361年7月3日-09:00|日本| ||正平16; 康安元年6月|<任命>九州探題「斯波氏経」(~貞治4・正平20(1365)年8月)
- 1361年7月7日-01:00|イタリア| |||イタリア・アスコリサリアーノで地震(M6. 3)、死者4千人
- 1361年7月12日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ第57代「ジョヴァンニ・ド・ルフイン」
- 1361年7月16日-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ロレンツォ・チェルシ」(~1365年)
- 1361年7月18日-09:00|日本| ||正平16; 康安元年6月16日|近畿大地震、18日、20日、21日、22日と大地震が頻発/山崩れや海が陸地になるところあり/人民牛馬死傷万を越す/阿波雪の湊1700余戸すべて津波で消失
- 1361年7月26日-05:00|日本| ||正平16; 康安元年6月24日|<康安元年(正平)南海地震>寅の刻(午前4時頃)、近畿地方中南部(畿内)から四国地方にかけてマグニチュード8~8. 5の巨大地震/震源地は西日本太平洋沖と推定/畿内の被害は社寺、仏閣に多く、摂津四天王寺の金堂が転倒して5人が死亡するなど、京都東寺の講堂、奈良興福寺、薬師寺の各金堂なども倒壊、唐招提寺の九輪が大破して廻廊が倒れ、法隆寺、紀伊熊野大社社殿など名だたる大寺、大社が被害を負った
- 1361年7月27日-01:00|デンマーク| |||ゴットランドをデンマークが統治(~1398年)
- 1361年8月-03:00|サジアビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「アジュン・ブン・ルマイタ」(~1372年)、「アフマド・ブン・アジュラン」(~1386年9月)
- 1361年8月6日-09:00|日本|福岡県糸島市|正平16; 康安元年7月5日|少貳頼国が筑前国に入り、加布利城を攻略
- 1361年8月13日-09:00|日本|岡山県|正平16; 康安元年7月12日|山名時氏、嫡子師氏(師義)、次男中務大輔、出雲、伯耆、因幡3箇所の勢3千騎を率いて美作へ発向/名木木山二箇条、篠向の城、大見丈ノ城、菩提寺ノ城、小原ノ城大野城、六箇所の城は一矢も射ず降参
- 1361年8月14日 00:00|イギリス| |||<就任>5代ランカスター伯「ジョン(オブ・ゴート)」先代の娘婿、エドワード3世の三男、リッチモンド伯(⇒13621113初代ランカスター公⇒13720625リッチモンド伯退任⇒13900302兼アキーン公~13990203死去)
- 1361年8月24日-02:00|キプロス| |||キプロス十字軍が小アジアのアダリア港を占領し、アレキサンドリアを攻撃
- 1361年8月25日-09:00|日本| ||正平16; 康安元年7月24日|大地震/摂津難波浦が干上がり、魚が打ち上げられる/数百人がこれを捕りに行くが、直後に大津波が押し寄せ全滅
- 1361年8月27日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハーステン・ド・エン境界伯「ルドルフ5世」
- 1361年8月31日-09:00|日本|岡山県|正平16; 康安元年8月|林野、妙見二ノ城は20日あまりこらえたが、山名方にひきいれられ、倉懸、城一つ残り、佐用貞久、有元佐久がわずかに二・三百騎にて楯籠る/山名時氏、子息中務少輔三千余騎にて押寄せ城の四方の山々二十三箇所に陣を取る。播磨と美作の堺には竹山・千草・吉野・石堂が峯の四箇所に赤松則祐が百騎づつ勢を籠める。山名の執事小林重長は二千余騎にて星祭ノ獄へ打上り、城を眼下に見下ろしてひかえる。赤松世貞・舎弟則祐・其弟氏範・光範・師範・直範・顯範・佐用・上月・眞嶋・杉原の一族、二千余騎、高倉山の麓に陣を取る。山名師義は勝れたる兵八百騎を卒して、遊軍としてひかえる。阿保信禪が山名方に変わり、但馬国へ馳せ越え、長九郎左衛門と一緒に播磨へ打て入らんと企てるので、赤松は法花山に城郭を構え、大山越の道を塞いで、五箇所に勢を差向けた。赤松は山名と戦うにも勢少なく、中国の大將細川頼之に備前、備中、備後の兵を集めるよう応援を頼んだが、兵共は己が国々の私戦を捨てかねて、大將に従わなかった
- 1361年9月5日-09:00|日本|福岡県福岡市|正平16; 康安元年8月6日|菊池武光が少貳頼国を筑前国油山で破る
- 1361年9月15日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副王「ライナル・ブランタジネット」(13621113からクレンス公~13670422)
- 1361年9月15日-09:00|日本|福岡県太宰府市|正平16; 康安元年8月16日|菊池軍に少貳頼尚の拠る浦の城も陥とされた/頼尚は脱出
- 1361年9月18日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア| |||<死去>上バリエル公・チロル伯「ルトウ・イェ5世」
- 1361年9月18日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア| |||<即位>上バリエル公「マインハルト」兼チロル伯「マインハルト3世」ルトウ・イェ5世の息子(~13630113死去、上バリエルはバリエル=ランツツト間で分割)
- 1361年9月23日-09:00|日本| ||正平16; 康安元年8月24日|大地震。山王寺をはじめ畿内の伽藍多く倒壊。紀伊で山が裂ける。
- 1361年10月15日 00:00|イギリス| |||<死去>エックス伯「ハフリー・ド・ブーン」
- 1361年10月15日 00:00|イギリス| |||<就任>エックス伯「ハフリー・ド・ブーン」(~13730116死去)
- 1361年10月22日-09:00|日本| ||正平16; 康安元年9月23日|<交替>越中国守護「細川頼和」⇒「斯波高経」(~貞治元・正平17(1362)年7月23日)
- 1361年10月22日-09:00|日本|京都府京都市|正平16; 康安元年9月23日|<康安の政変>斯波高経、佐々木道誉等、幕府執事(管令)細川清氏を失脚させる/將軍足利義詮、清氏の征伐を決める/斯波高経幕政の実権を握る
- 1361年10月29日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||高麗・至元27年10月|紅巾軍の第二次高麗侵入開始
- 1361年10月30日-09:00|日本| ||正平16・延文6年10月|<交替>若狭国守護「細川清氏」失脚⇒「石橋和義」(~貞治2(1363)年8月)

1370迄 (1504件)

1361年10月30日-09:00|日本| ||正平16・康安1年10月|<交替>肥後国守護「大友氏時」解任⇒「阿蘇惟澄」(~同年)
 1361年11月3日-01:00|イタリア| ||<死去>フェラー侯「アルドブランディーノ3世」
 1361年11月3日-01:00|イタリア| ||<就任>フェラー・モナ・レッショ侯「ニコロ2世」(~13880326死去)
 1361年11月21日-01:00|フランス| ||<死去>ブルゴニ公・アルトワ伯「フィリップ1世」
 1361年11月21日-01:00|フランス| ||<就任>ブルゴニ公・アルトワ伯「マルグリット1世」フィリップ3世の大叔母、ジャンヌ3世の妹(~13820509死去)
 1361年11月21日-01:00|フランス| ||ブルゴニ公領とシャンパーニュ公領がフランス王領に併合される(~1363年)
 1361年11月25日-09:00|日本|京都府京都市右京区|正平16;康安元年10月27日|臨川寺焼亡
 1361年11月25日-09:00|日本|福井県|正平16;康安元年10月27日|若狭守護代頼宮四郎左衛門尉、若狭に逗留中の細川清氏に反旗を翻し、清氏は若狭から逃れる
 1361年11月27日-09:00|日本|福井県三方郡美浜町|正平16;康安元年10月29日|椿峠で細川清氏軍と斯波氏頼軍等北陸軍が戦闘し清氏派敗退、南朝に降る
 1361年11月28日-09:00|日本| ||正平16・康安元年11月|<失脚>武蔵・伊豆国守護「畠山国清」
 1361年12月1日-09:00|日本|岡山県|正平16;康安元年11月4日|山名時氏、會下城、倉懸城を降し、美作をほぼ支配下に置く
 1361年12月6日-09:00|日本| ||正平16・康安元年11月9日|<就任>北朝関白「近衛道嗣」(~貞治2年6月16日)
 1361年12月20日-09:00|日本|静岡県|正平16;康安元年11月23日|畠山国清、足利基氏に背いて鎌倉を出奔し伊豆国に城郭を構える
 1362年-08:00|マレーシア| ||<即位>クランタン・スルタン国スルタン「スルタン・ハキシャー」(~1418年)
 1362年-05:30|インド| ||ハフマニ朝ムハンマド・ガウイジャナガル領に侵攻
 1362年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ムラト・ハン」(~1364年)
 1362年-05:00|ウズベキスタン| ||東チャガタイ・ハン国ハンのトゥグルク・テムルが東西チャガタイ・ハン国を一時的に統一(モグーリスタン・ハン国)
 1362年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「ロナルド・ダントロ」(~13630809)
 1362年-02:00|ギリシャ| ||<就任>ナクソス公「フィロソツァ1世サート」(~1371年)
 1362年-02:00|エジプト| ||<即位>カイロ・アッバース朝第7代カリフ「ムタワッキル1世」(~1383年)
 1362年-02:00|ウクライナ| ||<即位>キエフ大公「ウラディミール(ウラジミール6世)」(~1394年)
 1362年-02:00|トルコ| ||<即位>サルハン侯国ベイ「Muzafferuddin Ishak・ベイ」(~1388年)
 1362年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ノヴォロド・セヴェルスキー公「ドミトリウス・アルギルダイトス」(~1379年)
 1362年-02:00|トルコ| ||<即位>ラディク・ベイ「Ishak・ベイ」(~1368年)
 1362年-02:00|ギリシャ/トルコ| ||アトリアノブル(エフィネ)はオスマン帝国の一部
 1362年-01:00|ベルギー| ||<就任>シー伯「Arnold4世de Rumigny」(~1364年)
 1362年-01:00|クロアチア| ||<就任>スラヴォニア全土のハン「スチエパン・カニシュキ」(~1366年)
 1362年-01:00|フランス| ||<就任>モンパンス伯「Charles de Valois」(~1382年)
 1362年-01:00|フランス| ||<即位>アキテーヌ公「エドワード4世」ウェールズ公「エドワード」黒太子(~1372年退位)
 1362年 00:00|ギリシア| ||<就任>初代ケンブリッジ伯「エドマンド・オブ・ラングリー」(⇒13850806兼初代ヨーク公~14020801死去)
 1362年 00:00|アイスランド/デンマーク| ||<就任>アイスランド支配者「トルシュタイン・エイヨルフソン」(2回目~1364年)
 1362年 00:00|マリ/ニジェール| ||<即位>ソンガイ王国国王「ハリー・カイ・アンガ」(~1370年)
 1362年 00:00|モロッコ| ||<即位>マリ朝スルタン「アフ・サイヤン・ムハンマド3世」(~1366年)
 1362年1月4日-09:00|日本|京都府京都市|正平16;康安元年12月8日|南朝方の細川清氏、楠木正儀、一時京都を占領
 1362年1月4日-09:00|日本|滋賀県近江八幡市|正平16;康安元年12月8日|北朝後光厳天皇も比叡山から近江国武佐行宮に逃れる
 1362年1月12日-01:00|アンドラ| ||<即位>アンドラ公国共同大公「ウルヘル・アウグスト・パタ」(~13640629)
 1362年1月23日-09:00|日本|京都府京都市|正平16;康安元年12月27日|足利義詮、京都を回復/南朝は戦わずに京都を退出
 1362年1月27日-09:00|日本| ||正平17・康安2年|<交替>越後国守護「宇都宮氏綱」⇒「上杉憲顕」(~正平23・応安元(1368)年9月19日死去)
 1362年1月27日-09:00|日本| ||正平17・康安2年|<再任>摂津国守護「赤松則祐」(~貞治2・正平18(1363)年)
 1362年1月27日-09:00|日本| ||正平17・康安2年|<追放>備中国守護「高師秀」秋葉信盛により
 1362年1月27日-09:00|日本| ||正平17・康安2年|<任命>伊豆国守護「高坂氏重」(~応安元・正平23(1368)年6月解任)
 1362年1月27日-09:00|日本| ||正平17・康安2年|<任命>四国管領「細川頼之」(~不詳)
 1362年1月27日-09:00|日本| ||正平17・康安2年|<任命>上総国守護「千葉氏胤」(~正平19・貞治3(1364)年解任)
 1362年1月27日-09:00|日本| ||正平17・康安2年|四辻善成、「河海抄」(源氏物語の注釈書)成る
 1362年1月27日-09:00|日本|愛知県岡崎市|正平17・康安2年|愛知天恩寺仏殿、足利義満が建立
 1362年1月27日-09:00|日本|愛媛県松山市|正平17・康安2年|風早郡宗昌寺木造文殊菩薩坐像が造られる
 1362年1月27日-09:00|日本|静岡県伊豆の国市|正平17;康安2年|畠山国清、仏真禅師妙謙を開山に、伊豆天長山国清寺開基
 1362年1月27日-09:00|日本|東京都あきる野市|正平17・康安2年|東京光厳寺の釈迦像(運朝)できる
 1362年1月27日-09:00|日本|広島県廿日市市|正平17;康安2年1月1日|厳島神社遷宮

1370迄 (1504件)

1362年2月7日-09:00|日本|茨城県|正平17・康安2年1月12日|<死去>常陸国守護「(常陸佐竹氏第9代当主)佐竹義篤」52才、子の義宣が継ぐ(〜康応元・元中6(1389)年7月14日死去)

1362年2月15日-01:00|スウェーデン| ||<即位>スウェーデン王国国王「ホーコン」共治(〜13640215〜13800911死去40歳)

1362年3月-02:00|トルコ| ||<死去>オスマン帝国ベイ「オルハン」

1362年3月-02:00|トルコ| ||<即位>オスマン帝国ベイ「ムラト1世」先代の次男(⇒1383年、スルタン〜13890615コソボの戦いで戦死)

1362年3月2日-09:00|日本|静岡県浜松市北区|正平17;康安2年2月6日|藤原宗有直貞、渋川六所大明神建立

1362年4月4日-01:00|ドイツ| ||<就任>トリニア選帝侯「ケー2世」(〜13880521死去)

1362年4月25日-01:00|スペイン| ||<死去>グアラタ王国ナサル朝アミール「ムハンマド6世」

1362年4月25日-01:00|スペイン| ||<復位>グアラタ王国ナサル朝アミール「ムハンマド5世」(2期目〜13910116死去)

1362年5月-01:00|モンテネグロ/セルビア| ||<就任>ゼータ・リタル卿「ストラシ米尔・バルシッチ」(〜13730115死去)、「ジョージ1世バルシッチ」(〜13780113死去)、「バルシッチ2世バルシッチ」(〜13850918死去)

1362年5月1日-01:00|ドイツ| ||<退任>ヴェルテンベルク伯「ウルリヒ4世」

1362年5月8日-09:00|日本|静岡県沼津市|正平17;康安2年4月14日|関東公方足利基氏、新田義一を討たしめ、狩野介興家降り、三津城落城

1362年5月19日-09:00|日本| ||正平17;康安2年4月25日|<任命>関東執事「高師有」(〜貞治2(1363)年2月2日)

1362年5月30日-09:00|日本| ||正平17・康安2年5月7日|<死去>権子内親王(生年1315年/皇族、伊勢斎宮、光厳上皇の妃)

1362年7月-02:00|トルコ| ||新興のオスマン帝国がブルガリアのすぐ南方にあたるトラキ地方のアトリアノブル(エディルネ)を征服

1362年7月11日-01:00|ドイツ/チェコ| ||<死去>アン・シフトニツカ(生年1339年、神聖ローマ皇帝兼ボヘミア王カール4世の3番目の妃)

1362年7月17日-01:00|ドイツ| ||<死去>アンハルト・ツェルブスト候「Albert2世」

1362年7月17日-01:00|ドイツ| ||<就任>アンハルト・ツェルブスト候「Johann2世」(〜13820411死去)共同統治

1362年7月22日-01:00|イタリア| ||<死去>ゲラフィナ伯「Louis」

1362年7月22日-01:00|イタリア| ||<就任>ゲラフィナ伯「Charles3世」(〜13850408)

1362年8月13日-09:00|日本| ||正平17;康安2年7月23日|<退任>越中国守護「斯波高経」

1362年8月13日-09:00|日本| ||正平17;康安2年7月23日|<任命>室町幕府管領・越中国守護「斯波義将」(〜貞治5(1366)年8月8日)父の高経、後見し幕府の実権を握る

1362年8月14日-09:00|日本|香川県坂出市|正平17;康安2年7月24日|阿波国守護・細川頼之が細川清氏を讃岐国の白峰城(高屋城とも)で敗死させ四国を平定。中院源少将の拠る鶴足郡西長尾城も陥落

1362年9月7日 00:00|イギリス| ||<死去>ジョン・オブ・ザ・タワ(生年1321年、スコットランド王デヴィッド2世の最初の王妃)

1362年9月12日-01:00|パチン| ||<死去>第199代ローマ教皇「インノケンティウス6世」[1352年12月18日生〜]

1362年9月28日-01:00|パチン| ||<就任>第200代ローマ教皇「ウルバヌス5世」(〜13701219死去)

1362年9月28日-09:00|日本|神奈川県足柄下郡箱根町|正平17;康安2年9月10日|鎌倉公方・足利基氏、畠山国清を箱根合戦で破る

1362年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「グイデーノ・デ・イ・ジョヴァンニ」 「ジョヴァンニ・デ・イ・ギドゥッチョ」

1362年10月9日-09:00|日本|福岡県糟屋郡粕屋町|正平17;康安2年9月21日|菊池武光が斯波氏経、少式冬資らを筑前国長者原で撃破

1362年10月11日-09:00|日本| ||正平17;貞治元年9月23日|北朝が「貞治」に改元

1362年10月19日-09:00|日本| ||正平17;貞治元年10月|<任命>讃岐国守護「細川頼之」(〜天授5・康暦元(1379)年間4月解任)

1362年10月22日-09:00|日本|福岡県糟屋郡粕屋町|正平17;貞治元年10月4日|<長者原の戦>探題斯波氏経と少式の連合軍は緒戦で菊池軍を撃破したが、探題・少式連合軍は総崩れ敗退

1362年10月24日-02:00|キプロス| ||<就任>キプロス王国摂政「アンティオキア王子ジャン(ヨハン)・ド・ルシニヤン」(2度目〜1365年)

1362年11月4日-09:00|日本| ||正平17;貞治元年10月17日|<任命>肥後国守護「阿蘇惟村」(〜同年)

1362年11月13日 00:00|イギリス| ||<就任>クレンス公「ライオネル・オブ・アントワープ」アルスター伯(〜13681007死去)

1362年11月13日 00:00|イギリス| ||<昇格>5代ランカスター伯「ジョン(オブ・ゴント)」リッチモンド伯⇒初代ランカスター公(⇒13720625リッチモンド伯退任⇒13900302兼アキテーヌ公〜13990203死去)

1362年11月19日-09:00|日本| ||正平17・康安2年11月3日|<死去>「大友氏泰」(生年1321年/大友氏の第7代当主、元豊後・肥前・豊前・日向守護)

1362年12月7日-01:00|イタリア| ||ベネチア、ムラノ島のサン・マルクト修道院設立

1362年12月21日-04:00|アルメニア| ||<死去>キキア・アルメニア王国国王「コンスタンティヌス3世」

1362年12月21日-04:00|アルメニア| ||<即位>キキア・アルメニア王国国王「コンスタンティヌス4世」(〜1373年死去)

1362年12月21日-02:00|トルコ| ||<死去>キキア・アルメニア王国国王「コンスタンティン5世」

1362年12月21日-02:00|トルコ| ||<即位>キキア・アルメニア王国国王「コンスタンティン6世」(〜1373年死去)

1363年-08:00|ブルネイ| ||<即位>ブルネイ・スルタン「ムハンマド・シャー」建国(〜1402年死去)

1363年-07:00|タイ| ||<即位>カオ王国国王「パー・コーン」(〜1386年)

1363年-07:00|カンボジア| ||<即位>クメール王朝国王「ボロム・レアキ1世」(〜1373年)

1363年-05:00|モルデイヴ| ||<即位>ティームゲ朝スルタン「Mohamed el-Jameel Bavana Sooja」Khadijahの最初の夫(〜1364年暗殺される)

1363年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>モグーリスタン・ハン国ハン「イリヤス・ホージャ」トウグルク・ティムールの子(〜1365年)

1370迄 (1504件)

1363年-05:00|モルデイグ| |||<廃位>ティームゲ朝「Sultana Khadijah Raadha Abaarana」
 1363年-05:00|ウスベキスタン| |||モグーリスタン・ハン国から西チカグタイ・ハン国が再分裂
 1363年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロト共和国ノヴゴロト公「トミリー・イヴァノヴィチ」(~1389年)
 1363年-03:00|イェメン| |||<即位>ラール朝スルタン「アフダル・アル・アッハス」(~1377年死去)
 1363年-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ホグダン1世創設者」(~1367年没)
 1363年-02:00|ギリシャ| |||<設立>アトスにパントクラトラス修道院
 1363年-02:00|ブルガリア/ギリシャ/トルコ| |||オスマン朝が第1次マリツァ河畔の戦いで南ブルガリア・トラキアを征服
 1363年-01:00|イタリア| |||<就任>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「アントーニオ2世・ダ・モンテフェルトロ」(~14040429死去)
 1363年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Albert5世 von Ortenburg」(~1390年)
 1363年 00:00|イギリス| |||<死去>ウィグタウン伯「Malcolm Fleming」
 1363年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島守護者「Guillaume de Birketon」
 1363年 00:00|イギリス| |||<就任>ウィグタウン伯「Thomas Fleming」(~1372年剥奪~1382年死去)
 1363年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||ブルレー島はIle des Marchandsと呼ばれるガーンジー-のマルシャン家によって保持
 1363年1月-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「モスクワ公トミリー・イワノヴィッチ・トンスコイ」(~13890519没)
 1363年1月13日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア| |||<死去>上バリエル公「マインハルト」兼チロル伯「マインハルト3世」上バリエルはバリエル=ランツフート間で分割
 1363年1月13日-01:00|イタリア| |||<就任>チロル伯「ルドルフ4世」(~13650727死去)
 1363年1月13日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>上バリエル公「シュテファン2世」(~13750513)
 1363年1月16日-09:00|日本| ||正平18・貞治2年|<交替>摂津国守護「赤松則祐」⇒「赤松光範」(~文中2・応安6(1373)年)
 1363年1月16日-09:00|日本| ||正平18;貞治2年|<任命>下野国守護「宇都宮基綱」(~正平21・貞治5(1366)年)
 1363年1月16日-09:00|日本| ||正平18;貞治2年|<任命>若狭国守護「斯波義種」(~貞治5・正平21(1366)年8月8日失脚)
 1363年1月16日-09:00|日本|愛知県豊田市|正平18;貞治2年|この年、大式法眼、三河国猿投社の釈迦如来像を造立
 1363年1月16日-09:00|日本|静岡県富士市|正平18・貞治2年|雲巖寺16世大勲策禪師、越後領主上杉憲顕の領地に天寧庵(中里)を建立(善得寺の始まり)
 1363年1月16日-08:00|中国| ||元・至正23年|<死去>モグーリスタン・ハン国ハ「トグルク・テムル」
 1363年1月16日-08:00|中国| ||元・至正23年|<即位>モグーリスタン・ハン国ハ「イヤー・ス・ホージャ」(~1368年死去)
 1363年1月16日-08:00|中国| ||元・至正23年|漢・陳友諒、大定(~1363)と改元
 1363年1月16日-08:00|中国| ||元・至正23年1月1日|明玉珍、重慶(四川重慶)で皇帝位に即き、国号を夏、年号を天統とする
 1363年2月10日-01:00|オーストリア| |||ハプスブルグ家がケルテン、ティロールを領邦に編入
 1363年2月15日-08:00|中国| ||元・至正23年2月|張士誠軍が安豊を破り、劉福通を殺害
 1363年3月14日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ガブリエレ・アドルノ」(13700813)
 1363年3月27日-09:00|日本|京都府|正平18;貞治2年2月12日|丹波国の南朝方の軍、戦わずに退却
 1363年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・デ・ビアンコ」「ニーノ・デ・シモーノ」
 1363年5月8日-09:00|日本| ||正平18・貞治2年3月24日|<交替>上野国守護「宇都宮氏綱」⇒「上杉憲顕」(~正平23・応安元(1368)年9月19日死去)
 1363年5月8日-09:00|日本| ||正平18・貞治2年3月24日|<交替>相模国守護「河越直重」⇒「三浦高通」(~正平22年・貞治6(1367)年)
 1363年5月8日-09:00|日本| ||正平18;貞治2年3月24日|<任命>安房国守護「上杉憲顕」(~正平23・応安元年9月19日(13681031)死去)
 1363年5月8日-09:00|日本| ||正平18;貞治2年3月24日|<任命>関東管領「上杉[山内]憲顕」(~12月)
 1363年5月14日-09:00|日本| ||正平18・貞治2年4月|<解任>相模国守護「河越直重」
 1363年5月23日-09:00|日本| ||正平18・貞治2年4月10日|<交替>薩摩国守護「島津貞久」退任⇒「島津師久」(~貞治5・正平21(1366)年)
 1363年5月23日-09:00|日本| ||正平18・貞治2年4月10日|<交替>大隅国守護「島津貞久」隠居⇒「島津氏久」(~永和2・天授2(1376)年8月12日解任)
 1363年5月29日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>バフリー・マムルーク朝スルタン「アシュラフ・シャーハーン2世」(~13770315)
 1363年5月29日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<廃位>バフリー・マムルーク朝第24代スルタン「アル=マンスール・サラール=アル=デイン・モハメッド・ベン・ハギ」
 1363年6月12日-09:00|日本|大分県大分市|正平18;貞治2年5月|菊池は高崎城に籠った大友氏時を捕虜にし、これを斬り、斯波氏経も城を捨て四国に走った
 1363年6月12日-09:00|日本|大分県大分市|正平18;貞治2年5月|菊池軍は豊後松岡城に拠る少貳頼尚・冬資らを撃破/少貳らは四国土佐国へ出奔
 1363年6月22日-09:00|日本| ||正平18;貞治2年5月11日|二条良基の衣かづき日記できる
 1363年6月25日-01:00|チェコ| |||<即位>ボヘミア王「ゲーツラフ4世」共同統治(~14190816没)
 1363年8月7日-09:00|日本| ||正平18・貞治2年6月27日|<就任>北朝関白「二条良基」(~貞治6年8月27日)
 1363年8月9日-02:00|ギリシャ| |||<就任>クレタ島コミュン総督・総長「マルコ・グラーニョ」(~13640509没)
 1363年8月9日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||クレタ島のコミュン(「聖トマス共和国」)がヴェネツィアの支配に反抗して独立宣言(~13640509)
 1363年8月10日-09:00|日本| ||貞治2・正平18年7月|<辞任>山城国守護(侍所頭人)「佐々木高秀」

1370迄 (1504件)

1363年8月10日-08:00|中国| ||元・至正23年7月|朱元璋が陳友諒軍を番陽湖の戦いで撃破
 1363年8月12日-09:00|日本|鹿児島県|正平18・貞治2年7月3日|<死去>島津貞久(生年1269年/前薩摩・大隅守護、島津氏第5代当主)
 1363年9月6日-01:00|フランス| ||<即位>ブルゴーニュ公「フィリップ 2世(豪胆公、大胆公、豪勇公)」(~14040427死去)
 1363年9月8日-09:00|日本| ||正平18;貞治2年8月|<任命>丹波・丹後国守護「足利直冬」(~正平19・貞治3(1364)年3月16日)
 1363年9月8日-08:00|中国| ||元・至正23年8月|朱元璋が陳友諒を攻撃し、長江流域に進出
 1363年10月3日-09:00|日本| ||正平18;貞治2年8月26日|足利基氏、宇都宮氏綱らと東松山市岩殿山及び下野夫玉らに戦い敗る
 1363年10月3日-08:00|中国| ||元・至正23年8月26日|<八陽湖の戦い>漢・陳友諒、朱元璋に敗死/子の陳理、嗣ぐ/徳寿と改元(~1364)
 1363年10月8日-09:00|日本| ||正平18;貞治2年9月|<任命>筑後国守護「大友氏時」(~貞治3・正平19(1364)年7月)
 1363年10月8日-08:00|中国| ||元・至正23年9月|張士誠、呉王と自称する
 1363年10月17日-09:00|日本|広島県|正平18;貞治2年9月10日|足利直冬が備後を逃れ、山名時氏が幕府に降伏
 1363年12月10日 00:00|イギリス| ||<死去>アルスター伯「エリザベス・オブ・バウ」
 1364年-06:30|ミャンマー| ||<即位>タウングはア(ビルマ)に編入
 1364年-05:00|モルデイヴ| ||<死去>ティムゲ朝スルタン「Mohamed el-Jameel Bavana Sooja」暗殺される
 1364年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>ジヨチ・ウルス・ハン「アミール・ブラト・ハン」(~1365年)
 1364年-05:00|モルデイヴ| ||<即位>ティムゲ朝「Sultana Khadijah Raadha Abaarana」(~1374年退位)
 1364年-04:00|ロシア| ||<即位>ロストフ・ウスレンスキー公「アントン・レ・フョードロヴィチ」(~1409年)
 1364年-04:00|ロシア| ||<即位>コストロマはウジミルに併合され、その時点でモスクワ公配下(モスクワは他のロシア公国を併合し始めた)
 1364年-03:30|イラン| ||<復位>サハバダース王「Khwaja 'Ali-yi Mu'ayyad ibn Masud」(~1376年)
 1364年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「ピエトロ・モロシーニ」(~1366年)
 1364年-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「チャンドル・カラ・ハリル・ベイレディン・パシャ(チャンドル・ハリル・パシャ長老)」(~13870122)
 1364年-02:00|ギリシャ| ||<就任>ナクソス公「ニコロ2世ダッレ・カルチエリ」共同統治者(~1371年)
 1364年-02:00|ギリシャ| ||<即位>アカイア公「フィリップ 2世・ディ・ターラント」(~1373年)
 1364年-02:00|トルコ| ||<即位>アルトゥク朝スルタン「サーリフ・シャムス」(~1368年)、「アフマト・アル・マンズール・フサム」(~1368年)
 1364年-01:00|スロベニア| ||<建国>カルニオラ公国
 1364年-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<死去>シュレースヴィヒ公「ヴァルデマー5世(デンマーク王ヴァルデマー3世)」
 1364年-01:00|スペイン| ||<就任>アンブリアス伯「John1世」(~1386年)
 1364年-01:00|イタリア| ||<就任>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「フェデリーコ2世・ダ・モンテフェルトロ」(~1370年死去)
 1364年-01:00|ベルギー| ||<就任>リエージュ公「アルクルのヨハネ」(~13870101死去)
 1364年-01:00|スロベニア| ||<即位>カルニオラ公「ルトルフ」(ケルテン公「ルトルフ2世」~13650727死去)
 1364年-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<即位>シュレースヴィヒ公「ハンリク1世」(~1375. 8死去)
 1364年 00:00|アイスランド/デンマーク| ||<就任>アイスランド支配者「オラフ・ハトルソン」(~1365年)
 1364年2月4日-09:00|日本| ||正平19;貞治3年|<交替>加賀国守護「富樫昌家」(~元中4・嘉慶元(1387)年死去)
 1364年2月4日-09:00|日本| ||正平19;貞治3年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「土岐直氏」(~正平20・貞治4(1365)年)
 1364年2月4日-08:00|中国| ||元・至正24年1月1日|朱元璋、呉王の位に即く
 1364年2月10日-01:00|オーストリア/ドイツ| ||カル4世が、オーストリアのルドルフ4世にチロルを譲渡する(ブルノの条約)
 1364年2月15日-01:00|スウェーデン| ||<即位>スウェーデン王国国王「アルブレクト」(~13890224~14120401死去)
 1364年3月5日-09:00|日本|福岡県行橋市|正平19;貞治3年2月|菊池武勝は豊前国馬岳に拠る大内義弘を撃破し香春岳に追いつめた/義弘は菊池に罪を謝し長門に引きあげた
 1364年3月21日-02:00|ギリシャ| ||<死去>アテネ公「ソイエール・ダンギャン」
 1364年3月21日-02:00|ギリシャ| ||<即位>アテネ公「ゴージェ4世・ダンギャン」ソイエール・ダンギャンの息子(~1381年死去)アルゴスとナフプリオを支配
 1364年3月22日-08:00|中国| ||元・至正24年2月19日|漢・陳理、朱元璋に降る/漢滅亡
 1364年3月24日-09:00|日本|京都府京都市|正平19;貞治3年2月20日|細川頼之、山城国景德寺を建立/この日落慶
 1364年4月-06:30|ミャンマー| ||<即位>アワ王「トミンピヤ」(~13670903)
 1364年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「グイデ・イノ・ディ・ジョヴァンニ」「チッコ・ディ・チロ」
 1364年4月8日-01:00|フランス| ||<死去>フランス王ジャン2世(善良王)44歳(誕生:13190416)身代金未払いのため幽閉されていた
 1364年4月8日-01:00|フランス| ||<即位>フランス国王(ガアワ朝)シャルル5世賢明王[ジャン2世の子](~13800916)
 1364年4月8日-01:00|フランス| ||<退位>ノルマンディー公「シャルル5世」
 1364年4月18日-09:00|日本| ||正平19・貞治3年3月16日|<任命>因幡国守護「山名氏冬」(~正平25・応安3(1370)年1月5日死去)
 1364年4月18日-09:00|日本| ||正平19・貞治3年3月16日|<任命>石見国守護「山名時義」(~正平21・貞治5(1366)年)
 1364年4月18日-09:00|日本| ||正平19・貞治3年3月16日|<任命>丹後国守護「山名師義」(~天授2・永和2年3月11日)

1370迄 (1504件)

(13760331) 死去)

1364年4月18日-09:00|日本| ||正平19・貞治3年3月16日|<任命>伯耆・丹波国守護「山名時氏」(~建徳2・応安4(1371)年3月28日死去)

1364年4月18日-09:00|日本| ||正平19・貞治3年3月16日|<任命>美作国守護「山名時義」(~貞治5・正平21(1366)年)

1364年4月22日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王代行「オモント 伯ジェームズ・ハトラ」(~13650125)

1364年4月27日-09:00|日本|三重県伊賀市|正平19; 貞治3年3月25日|仏師寛慶・忍慶、万寿寺の地藏菩薩像を造る

1364年5月3日-09:00|日本| ||正平19; 貞治3年4月|<交替>上総国守護「千葉氏胤」解任⇒「岩松(新田)義政」(~7月28日自害)

1364年5月5日-09:00|日本| ||正平19・貞治3年4月3日|<交替>備前国守護「松田信重」⇒「赤松則祐」(~建徳2・応安4年11月29日(13720113) 死去)

1364年5月5日-09:00|日本| ||正平19; 貞治3年4月3日|<死去>大覚妙実/68歳で示寂

1364年5月9日-02:00|ギリシャ| |||<死去>クレタ島コミューン総督・総長「マルコ・グランドニコ」

1364年5月12日-01:00|ポーランド| |||カジミェシュ3世が「ヤギェウォ大学」設立. ポーランド 最古

1364年5月16日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王シャルル5世(故ジャン2世の子)方の総指揮官ベルトラン・デュ・ゲクラン、フランス東部の「ブルゴーニュ公領」の相続を主張してイングランド 王家と「同盟」を結んだ「ナヴァル王」シャル方方の総指揮官ジャン・ド・グライと、パリ郊外のコシユルに対峙し、フランス王軍が大勝(コシユルの戦い)

1364年5月17日-01:00|フランス| |||<死去>リネー領主「John1世」

1364年5月17日-01:00|フランス| |||<就任>リネー伯「Guy」(~13710823死去) John1世の息子

1364年5月22日-09:00|日本| ||正平19; 貞治3年4月20日|御子左為明が新拾遺和歌集四季部六巻を撰進

1364年6月-06:30|ミャンマー| |||<即位>ピンヤ王「ウザナ2世」(~9月)

1364年6月2日-01:00|ポーランド| |||<死去>レグニツァ公「ウェンスラウス1世」

1364年6月2日-01:00|ポーランド| |||<就任>レグニツァ公「ルパート1世」(~14090112死去), 「ウェンスラウス2世」(~1413年), 「ボレスワフ4世」(~13940303死去), 「ヘンリ-8世」(~13981212死去)

1364年6月30日-09:00|日本| ||正平19; 貞治3年6月|<任命>備中国守護「宮兼信(備後国吉備津神社社家)」(~貞治4・正平20(1365) 年)

1364年7月11日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<死去>リグアニア騎士団団長「アーノルト・フォン・グーティンゲンホフ」

1364年7月11日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リグアニア騎士団団長代行「アント・レ・ス・フォン・シュタインベルク」(2回目~9.29)

1364年7月14日-09:00|日本|京都府京都市東山区|正平19; 貞治3年6月15日|万寿寺が炎上

1364年8月5日-09:00|日本| ||正平19; 貞治3年7月7日|<死去>光厳天皇(光厳院)/52歳(誕生: 正和2(1313)0709) 北朝初代天皇だった

1364年8月6日-09:00|日本| ||貞治3・正平19年7月8日|<交替>筑後国守護「大友氏時」隠居⇒嫡子の「大友氏継」(~同年)

1364年8月6日-09:00|日本| ||貞治3・正平19年7月8日|<交替>豊後国守護「大友氏時」隠居⇒嫡子の「大友氏継」(~正平23・応安元(1368) 年) 隠居⇒嫡子の「大友氏継」(~同年)

1364年8月23日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|正平19; 貞治3年7月25日|安楽寿院焼亡

1364年8月26日-09:00|日本| ||貞治3・正平19年7月28日|<死去>上総国守護「岩松義政」自害、外従子の直明が就任(~12月)

1364年8月26日-09:00|日本|群馬県太田市|貞治3; 正平19年7月28日|世良田義政が鎌倉公方足利基氏に攻められ、上野長楽寺如来堂で自殺

1364年9月10日-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝「ロベルト2世」

1364年9月10日-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「フィリップ 3世」ロベルト2世の兄弟(~13741125死去)

1364年9月29日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リグアニア騎士団団長「ヴァイルヘルム・フォン・フリーマースハイム」(~1385年3月死去)

1364年9月29日-01:00|フランス| |||<死去>ブルターニュ公「シャルル1世」

1364年9月29日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王シャルル5世が支援する「ブワロ伯」シャルル、イングランド 王エドワード 3世と同盟する「モンフォール伯」ジャンに、フランス北西部の「ブルターニュ公領」での「オレの戦い」で敗退し戦死/以後、ブルターニュはイングランド の影響下に入る

1364年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フォスキノ・カルチーニ」「コルベッロ・ジャンニニ」

1364年10月7日-09:00|日本|京都府京都市|正平19; 貞治3年9月12日|本覚法印日大京木辻に上行院を創す

1364年11月16日-02:00|ルーマニア| |||<死去>ワラキア総督・領主「ニコラエ・アレクサンドル」

1364年11月17日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワラキア総督・領主「ウラジスラフ1世ウライク・ウオダ」ニコラエ・アレクサンドルの息子(~1376 年)

1364年11月18日-01:00|オーストリア/イタリア/スロベニア| |||<即位>内オーストリア公・シュターアマルク公「レオポルト3世」(~13790925) 兼チロル伯「レオポルト1世」兼カニオラ公「レオポルト」(~13860709死去)

1364年11月18日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリア| |||<即位>オーストリア公「アルブレヒト3世」兼チロル伯「アルブレヒト4世」(~13950829 死去) 兼シュターアマルク公・ケルテン公「アルブレヒト3世」兼カニオラ公「アルブレヒト」(~1379年)

1364年11月21日-09:00|日本| ||正平19; 貞治3年10月27日|<死去>歌人・御子左為明/70

1364年11月22日-09:00|日本| ||正平19; 貞治3年10月28日|<就任>関東管領「上杉某」(~12月23日)

1364年11月29日-09:00|日本|愛媛県西条市|正平19; 貞治3年11月6日|河野通朝、讃岐の細川頼之の軍と世田山城で戦って敗死

1370迄 (1504件)

1364年12月30日-09:00|日本| ||正平19;貞治3年12月7日|<交替>上総国守護「岩松(新田)直明」⇒「上杉朝房」(~正平20・貞治4(1365)年)

1365年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「アジ・ズ・ハン」(~1367年)

1365年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>モグ・リスタン・ハン「カルテ・イン」トグテ部の指導者で篡奪者(~1389年)

1365年-04:00|ロシア| ||<即位>ロストフ・ボリソグ・レフスキ公「アレクサンドル・コンスタンチノヴィチ」(~1404年)

1365年-02:00|トルコ| ||ラゲ・ザ共和国がオスマン朝の保護下に入る

1365年-01:00|ドイツ| ||<就任>ヴァイマル=オーラミュンデ伯「ヘルマン6世」(~1373年、ヴァイマル伯領はグエッティン家の封土に併合)

1365年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「マルコ・コネル」(~1368年)

1365年-01:00|オーストリア| ||ウィーン大学が創立される

1365年 00:00|チャンル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領グーンズ=島守護者「Nicolas de Cheney」

1365年1月23日-09:00|日本| ||正平20;貞治4年|<交替>上総国守護「上杉朝房」⇒弟の「上杉朝宗」(~応永4(1397)年)

1365年1月23日-09:00|日本| ||正平20;貞治4年|<任命>伊賀国守護「中条元威」(~天授6・康暦2(1380)年12月)

1365年1月23日-09:00|日本| ||正平20;貞治4年|<任命>隠岐国守護「富田直貞」(~翌年)

1365年1月23日-09:00|日本| ||正平20;貞治4年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「斯波義種」(~正平21・貞治5(1366)年)

1365年1月23日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平20;貞治4年|建武2年に台風で倒壊した鎌倉大仏殿再建

1365年1月23日-09:00|日本|静岡県浜松市天竜区|正平20;貞治4年|直伝玄賢、曹洞宗東谷山栄林寺(天竜市二俣町二俣)を開創

1365年2月10日-01:00|アントラ| ||<就任>アントラ公国共同大公「ウルヘル司教ベ・レ・ト・ル」(~1370年)

1365年2月17日-09:00|日本| ||正平20;貞治4年1月26日|<死去>二条師基(生年1301年/南朝の公卿・元関白)

1365年3月6日-01:00|フランス| ||フランスのシャルル5世が、ナバラと和平を結ぶ

1365年3月17日-01:00|ドイツ/ポーランド| ||<死去>ブランテンブルク選帝侯「ルートヴィヒ3世」

1365年3月17日-01:00|ドイツ/ポーランド| ||<就任>ブランテンブルク選帝侯「オットー7世」ルートヴィヒ3世の弟(~13730818退任)

1365年4月1日-09:00|日本| ||正平20;貞治4年3月10日|<死去>一条経通(生年1317年/公卿、元関白)

1365年4月12日-01:00|フランス| ||<死即位>ブルターニュ公「ジャン4(5)世征服公」ジャン・ド・モンフォールとジャンヌ・ド・フランスの1人息子(~13991101死去)

1365年4月12日-01:00|フランス| ||フランス王シャルル5世、フランス北西部の「ブルターニュ公領」の両陣営に「ケランド条約」(ケランドはフランス西岸の都市)を結ばせる/「ブルターニュ継承戦争」が終わる/「モンフォール伯」ジャン(ジャン・ド・モンフォール)を「ブルターニュ公」ジャン4世として承認するかわりに、フランス王の「宗主権」を認めさせる(「臣下の礼」をとらせる)/ジャンヌ・ド・パンティエール(シャルル・ド・フランスの未亡人)、「パンティエール伯領」と高額な年金を得ること、長子とジャン・ド・モンフォールの娘が婚約することを条件に「ブルターニュ公領」の諸権利を放棄

1365年5月7日-09:00|日本|愛媛県松山市|正平20;貞治4年4月16日|細川頼之、河野通朝の子通堯を攻め、伊予国高縄山城を陥落させる。通堯、能美島に逃れ

1365年5月17日-01:00|ドイツ| ||<死去>ブランテンブルク選帝侯「ルートヴィヒ3世」兼下ラウツツ辺境伯「ルートヴィヒ2世」

1365年5月17日-01:00|ドイツ| ||<就任>ブランテンブルク選帝侯「オットー7世」ルートヴィヒ3世の弟(~13730818退任)兼下ラウツツ辺境伯(~1367年退任、ラウツツはボヘミア領に併合)

1365年5月21日-09:00|日本|静岡県|正平20・貞治4年4月30日|<死去>駿河国守護「今川範氏」(生年1316年)

1365年5月22日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平20;貞治4年5月|鎌倉宝戒寺の憲円地蔵像ができる

1365年6月1日-02:00|キプロス| ||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「レイモンド・ベレンガー」(~13740216没)

1365年6月2日-02:00|ブルガリア/ハンガリー| ||ハンガリーがウイティンを占領(~1369年11月)

1365年6月4日-01:00|フランス/ドイツ| ||カル4世が、アヴィニョンの教皇を訪問し、アル王に即位

1365年7月18日-01:00|イタリア| ||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ第58代「ロレンツォ・チェル」(陰謀によるか?)

1365年7月21日-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ第59代「マルコ・コネル」(~1368年)

1365年7月27日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリア| ||<死去>オーストリア公・ケルテン公・シュターア=マルク公・カルニオラ公・チロル伯「ルドルフ4世建設公」

1365年8月18日-09:00|日本| ||正平20;貞治4年8月|<任命>九州探題「渋川義行」(~応安3・建徳元(1370)年9月2日)/九州に下向しようとしたが、南朝方の勢力が強くついに九州に入ることはできなかった

1365年8月22日-01:00|ポーランド/ドイツ| ||<死去>ボンメルン=ヴォルガスト公「ハルニム4世善良公」

1365年8月22日-01:00|ポーランド/ドイツ| ||<就任>ボンメルン=ヴォルガスト公「ボギスラフ6世隻眼公」(~1377年~13940613死去)、「ヴァルティスラフ6世隻眼公」(~1377年~13940613死去)

1365年9月-01:00|セルビア| ||<即位>セルビア共同皇帝(ネマニッチ朝)「ヴカシン・ムルニャヴ・チェヴィッチ」(~13710926、マリツァの戦いで戦死)、「ヴカ・ブランコヴィッチ」(~13950517)、「ヨヴァン・ドラガ・シュ・デヤノヴィッチ」(~1378年)

1365年9月3日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|正平20;貞治4年8月17日|吉野行宮焼失(南朝)

1365年9月16日-09:00|日本| ||正平20;貞治4年9月|<任命>備中国守護「渋川義行」(~天授元・永和元(1375)年8月11日死去)

1365年9月28日-09:00|日本|千葉県|正平20;貞治4年9月13日|<死去>下総国守護「千葉氏胤」子の満胤が継ぐ(~応永24(1417)年1月隠居)

1365年10月1日-01:00|サマリノ| ||<就任>サマリノ共和国執政「ジョアネーロ・デ・イ・アカブトロ」「ウゴリーノ・シ・ジョヴァンニ・ヴァニオーリ」

1365年10月9日-02:00|エジプト/キプロス| ||キプロス王ベトロス1世がアレクサンドリアを奇襲し、占領(~12日)

1370迄 (1504件)

1365年10月23日-01:00|ポーランド| |||<死去>ボヘミア公「ヘンリク」
1365年11月14日-09:00|日本| ||正平20; 貞治4年10月|<任命>駿河国守護「今川氏家」(~正平22・貞治6(1367)年)
1365年11月20日-09:00|日本| ||正平20; 貞治4年10月7日|伯耆・丹波守護・山名時氏、これ以前に法体となり、道
静を名のる
1365年11月22日-01:00|デンマーク| |||デンマークのヴァルデマル4世が、ハンザ 同盟と有利な講和締結
1365年11月22日-09:00|日本| ||正平20; 貞治4年10月9日|<任命>老岐国守護「宗像氏俊」(~応安2・正平24(1369)
年)
1365年12月8日-01:00|ポーランド| |||<死去>ラチブシュ公「ニコラス2世」
1365年12月8日-01:00|ポーランド| |||<就任>ラチブシュ公「ジョン1世」(~1378年)
1366年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>西チヤグタイハン国ハン「アティル・シャー」ゴンチェクのひ孫(~1370年)
1366年-05:00|ウズベキスタン| |||ティムールがサマルカントの支配権を掌握
1366年-03:00|イラク/トルコ/アゼルバイジャン/イラン| |||<即位>黒羊朝初代国王「バイラム・ホジャ」(~1380年)
1366年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「ピエトロ・モチェニコ」(~1368年)
1366年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウクライニ公「アレクサンドラス・カリョタイティス」(~1370年)
1366年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・パン「コニャ・セーチェニ」(~1367年)
1366年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア・パン「ニコラ・セーチェ」(~1368年)
1366年-01:00|イタリア| |||サヴォイア家のアマテオ6世がガリポリを奪う
1366年-01:00|オランダ/ドイツ| |||ドイツ騎士団はゲメルトの全領土を取得
1366年 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド 支配者「オムル・スノラソン」、「アントレス・ジー・スノソン(2回目)」(~1368年)
1366年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリーン朝スルタン「アブル＝ファリス・アブ＝ウル・アジズ1世」(~1372年)
1366年 00:00|アイルランド| |||アイルランド 議会がキルケー法を制定
1366年2月-01:00|ポズナń・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| |||<就任>ポズナń・パン「フーク」(~1367年後半)
1366年2月11日-09:00|日本| ||正平21・貞治5年|<交替>石見国守護「山名時義」⇒「大内弘世」(~天授2・永和2(137
6)年4月解任)
1366年2月11日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年|<交替>美作国守護「山名時義」⇒次兄「山名義理」(~元中8・明德2
(1391)年12月)
1366年2月11日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年|<任命>奥州管領「吉良貞経」(~不詳)
1366年2月11日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年|<任命>下野国守護「小山義政」(~天授6・康暦2(1380)年)
1366年2月11日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「仁木頼夏」(~同年)⇒「今川貞世」
(~翌年)
1366年2月11日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年|<任命>但馬国守護「長駿河守」(~同年)⇒「長伊豆守(道全)」(~建
徳3・応安5(1372)年)
1366年2月11日-09:00|日本| 愛知県豊橋市|正平21; 貞治5年|善忠、悟真寺を創建
1366年2月11日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年1月|<任命>備後国守護「洪川義行」(~建徳2・応安4(1371年)2月)
1366年3月12日-08:00|中国| ||元・至正26年2月|夏・明玉珍、病死/子の明昇、嗣ぐ/開熙と改元(-1371)
1366年3月13日-01:00|スペイン| |||<即位>カスティーリャ国王「エンリケ2世庶子王」(~13670403退位)
1366年3月13日-01:00|スペイン| |||<退位>カスティーリャ国王「ヘクトール1世残酷王」(~13690323死去)
1366年4月-01:00|スペイン/フランス| |||フランス王シャルル5世の総指揮官「ベルラン・デュ・ケラン」、「カスティーリャ王国」の首都「ブルゴス」を
占領/エンリケ・デ・トラスタマラを「カスティーリャ王」エンリケ2世として戴冠させる
1366年4月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「ニコラ・デ・イ・アリミヌッチョ」、「ヴァンヌ・デ・イ・ノイロ」
1366年4月15日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年3月5日|<交替>薩摩国守護「島津師久」退任⇒「島津伊久」(~永和2
(1376)年8月12日剥奪)
1366年5月4日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ伯「Manfredi Chieramonte, conte di Modica」(~1391.3)
1366年5月16日-01:00|オーストリア/イタリア| |||ベネツィア、オーストリアと通商協定
1366年6月16日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年5月8日|<任命>関東管領「上杉憲顕(山内)」(~応安元(1368)年9月
19日死去)
1366年6月19日-01:00|アルバニア| |||<就任>デュラツツ公「ルトヴャコ(ルイ・デヴル)」共同統治(~1368年3月)
1366年7月21日-09:00|日本| 京都府京都市|貞治5; 正平21年6月13日|大風、神祇官北庁、真言院倒れる
1366年9月13日-09:00|日本| ||貞治5; 正平21年8月8日|<交替>越前国守護「斯波高経」失脚⇒「畠山義深」(~天授5
・康暦元(1379)年10月12日死去)
1366年9月13日-09:00|日本| ||貞治5; 正平21年8月8日|<交替>若狭国守護「斯波義種」失脚⇒「一色範光」~元中5・
嘉慶2(1388)年1月25日死去)
1366年9月13日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年8月8日|<貞治の変>斯波氏に將軍追討令が出される/斯波義将幕
府執事解任/二宮氏等斯波氏被官將軍御所を囲む、その間隙をぬって斯波高経・義将親子以下一族三条高倉の屋
敷に火を放ち長坂越え若狭経由で越前に下り、杣山城・栗屋城に立てこもる/斯波氏被官の朝倉氏は幕府方に付
き斯波誅罰に動く
1366年9月13日-09:00|日本| ||貞治5; 正平21年8月8日|<任命>伊勢・志摩国守護「仁木義長」(~貞治6・正平22(136
7)年)
1366年9月13日-09:00|日本| ||貞治5; 正平21年8月8日|<任命>出雲・隠岐国守護「京極高氏」(~正平23・貞治7(136
8)年隠居)
1366年10月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「バルトリノ・デ・イ・ジョヴァンニ・デ・イ・ビアンコ」、「ニコラ・デ・イ・シモノ」
1366年10月26日 00:00|世界| |||テンペル・タッセル彗星、地球から約343万kmと史上2番目に地球近傍を通過

1370迄 (1504件)

1366年10月27日-09:00|日本|香川県小豆郡小豆島町|正平21・貞治5年9月23日|細川頼之, 小豆島肥土荘代官矢野遠村を造営奉行として, 荘内別宮八幡宮若宮・若皇女殿を造営
 1366年11月4日-09:00|日本| ||正平21; 貞治5年10月|<交替>信濃国守護「小笠原長基」⇒「上杉朝房」(~天授3・永和3(1377)年8月)
 1366年11月7日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副王代行「トマス・デ・ラ・テール」(~13670422)
 1366年12月19日-09:00|日本|京都府京都市上京区|貞治5; 正平21年11月17日|京都一条西洞院の念仏堂が炎上
 1366年12月22日-01:00|ポーランド| ||<死去>オレシツァ公・ヒトム公「コンラット1世」
 1366年12月22日-01:00|ポーランド| ||<就任>オレシツァ公・ヒトム公「コンラト2世Siwy」(~14030610死去)
 1367年-05:30|インド| ||<即位>サマ朝スルタン「Jam Tamachi」(~1379年)
 1367年-05:30|インド| ||ハフマニ朝の都ケルハルガにジャミー・マスジッドが建設
 1367年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「アブ・タラー・ハン」(1期目~1368年)
 1367年-04:00|ロシア| ||モスクワで石造りのクレムリン建築
 1367年-02:00|ギリシャ| ||<就任>アルカの領主「ペテル・ロジャ」(~1374年死去)
 1367年-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督「ペトル1世」ボグダン1世の孫(~1368年7月没)
 1367年-02:00|ギリシャ| ||<即位>アネ公(アルゴス・ナフプリオ)「コ・ティエ4世・タンギャン」(~1381年)
 1367年-02:00|ギリシャ| ||<即位>エペロス専制公「トマス2世コムニノス・パライオコス」(~13841223死去)
 1367年-01:00|ドイツ| ||<死去>オルデンブルク伯「コンラート1世」
 1367年-01:00|フランス| ||<死去>モンペリアル伯「アンリ」
 1367年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| ||<就任>ボスニア・ハン「ステパン・トゥルトコ1世ウラディスラヴ・イチ」(~13771026)
 1367年-01:00|フランス| ||<就任>モンペリアル伯「エティエンヌ」アンリとアニエスの息子(~13971101死去)
 1367年-01:00|イタリア| ||<即位>スレート公「ブラスコ・フェルナンデス」(~同年暗殺される)
 1367年-01:00|ドイツ| ||<退任>下ラウジッツ辺境伯「オットー2世」ラウジッツはボヘミア領に併合
 1367年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Gautier Hewet卿」(~1373年死去)
 1367年1月1日-08:00|中国| ||元・至正26年12月|宋・韓林兒、朱元璋に降る/宋滅亡
 1367年1月18日 00:00|ポルトガル| ||<死去>ポルトガル王「ペドロ1世厳格王」(誕生1320年)
 1367年1月18日 00:00|ポルトガル| ||<即位>ポルトガル王「フェルナント1世美男王」ペドロ1世の子(~13831022死去)
 1367年1月31日-09:00|日本| ||正平22; 貞治6年|<任命>伊勢・志摩国守護「細川頼之」(~応安4・建徳2(1371)年)
 1367年1月31日-09:00|日本| ||正平22; 貞治6年|岩松宮本、北野天神縁起絵巻できる
 1367年1月31日-09:00|日本|静岡県浜松市|正平22; 貞治6年|法眼万宗、瑠璃山大福寺(3ヶ日町福長)の絵画「両界大曼陀羅」作
 1367年1月31日-09:00|日本|静岡県浜松市南区|正平22; 貞治6年|雲誉上人愚廓和尚、西伝寺(西伝町)を開山
 1367年1月31日-09:00|日本|広島県尾道市|正平22; 貞治6年|万代氏道円の発願により天寧寺を建立, 春屋妙葩を開山に招く
 1367年2月2日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|貞治6; 正平22年1月3日|大和国法輪寺が炎上
 1367年3月-02:00|ルーマニア/ハンガリー| ||<就任>トランシルヴァニア総督「ミクロス・ラックワイ」(~1368年1月)
 1367年3月2日-09:00|日本|福井県福井市|正平22; 貞治6年2月|斯波高経に味方して安居白土岡に立て籠った千秋安居一門を、朝倉高景・氏景が攻略
 1367年3月31日-08:00|中国| ||元・至正27年3月|朱元璋、文武科挙を開始
 1367年4月-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パラタイン代行「イシュバーン・ペック・ペルチ」(~2日)
 1367年4月1日-01:00|サマリノ| ||<就任>サマリノ共和国執政「ク・ティエ・ノ・ディ・ジョウ・アンニ」ハ・オロ・ディ・チェッコロ
 1367年4月2日-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パラタイン「ラースロー・ヘルツェグ・オッペルニ」(~1372年10月)
 1367年4月3日-01:00|スペイン| ||<退位>カスティリヤ国王「エンリケ2世庶子王」
 1367年4月3日-01:00|スペイン| ||<復位>カスティリヤ国王「ペドロ1世残酷王」(~13690323死去)
 1367年4月3日-01:00|スペイン| ||南西フランスのアキテーヌ(当時イングランド領)に亡命していた前カスティリヤ王ペドロ1世軍が、スペイン北部の「ナヘラの戦い」で「カスティリヤ王」エンリケ2世軍を破る
 1367年4月22日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事「デズモンド 伯ジェラルド・フィッツジェラルド」(~13690620)
 1367年4月24日-01:00|ドイツ| ||<死去>ブラウンシュヴァイク=グッティンゲン侯「エルンスト1世」
 1367年4月24日-01:00|ドイツ| ||<就任>ブラウンシュヴァイク=グッティンゲン侯「オットー1世」エルンスト1世の息子(~13941213死去)
 1367年4月28日-09:00|日本|京都府京都市右京区|正平22; 貞治6年3月29日|天龍寺火災
 1367年4月30日-09:00|日本| ||貞治6・正平22年4月|<任命>(南朝)越中国守護「桃井直信」(~応安元・正平23(1368)年8月解任)
 1367年5月1日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平22; 貞治6年4月2日|鎌倉公方足利基氏、鎌倉左京進・安東九郎ら家臣22名を誅殺
 1367年5月25日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平22; 貞治6年4月26日|<死去>鎌倉公方「足利基氏」初代関東管領
 1367年6月23日-09:00|日本| ||正平22; 貞治6年5月26日|桃井直常、足利義詮に帰順
 1367年6月26日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平22; 貞治6年5月29日|<任命>鎌倉公方「足利氏満」(~応永5(1398)年11月4日)
 1367年7月15日-09:00|日本|京都府京都市左京区|正平22; 貞治6年6月18日|園城寺僧兵、南禅寺関所を破壊し、僧侶を殺傷
 1367年7月23日-09:00|日本|滋賀県大津市|正平22; 貞治6年6月26日|幕府、今川貞世に三井寺園城寺管領の関所四カ所を破壊させる

1370迄 (1504件)

1367年7月25日-09:00|日本| ||正平22;貞治6年6月28日|幕府、園城寺、聖護院、実相院、円満院の領地を没収
 1367年7月28日-09:00|日本| ||正平22;貞治6年7月|行光、地蔵験記絵六巻を描く
 1367年7月28日-09:00|日本| ||正平22;貞治6年7月1日|山名時氏の家人渡邊の若党と將軍近習大内修理亮の若
 党が喧嘩、双方死者を出す
 1367年8月9日-09:00|日本| ||正平22;貞治6年7月13日|<死去>斯波高経(生年1305年、元越前・若狭・越中守護)
 1367年8月15日-09:00|日本| ||正平22;貞治6年7月19日|<死去>常盤井宮全仁親王(生年1321年、皇族)
 1367年8月28日-01:00|イタリヤ| ||ベネチア、アキレリア大司教及びゴッツイア伯と和睦
 1367年9月5日-06:30|ミャンマー| ||<即位>アワ王「スワソー」(~1400年4月)パガン王家とピンヤ王家の子孫を称する
 1367年9月21日-09:00|日本| ||正平22・貞治6年8月27日|<就任>北朝閑白「鷹司冬通」(~応安2年11月4日)
 1367年9月28日-09:00|日本|京都府京都市|正平22;貞治6年9月4日|斯波義将、越前から上京し、將軍足利義詮に対
 面し赦免される
 1367年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョアコボ・ロ・デ・イ・ウゴ・リヌッチ」
 1367年10月1日-08:00|中国| ||元・至正27年9月8日|朱元璋軍が張士誠軍を撃破し、張士誠が自殺
 1367年10月16日-01:00|フランス/バチカン| ||教皇ウルバヌス1世が、ローマ教皇庁を一時ローマに復帰させる
 1367年10月30日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平22;貞治6年10月7日|足利義詮が鎌倉円覚寺黄梅院の華嚴院を
 修造させる
 1367年11月1日-01:00|リヒテンシュタイン| ||<死去>ヴェルデンベルグ伯・ファド・ケッツ卿「ルトルフ」
 1367年11月19日-01:00|ドイツ/スウェーデン| ||ハンザ同盟、スウェーデン、メクレンブルクなどが、ケルン同盟を結成してデンマーク、ノルウェー
 に対抗
 1367年12月17日-09:00|日本| ||貞治6;正平22年11月25日|<任命>室町幕府管領「細川頼之」(~1379年閏4月14日)
 1367年12月26日-08:00|中国| ||元・至正27年12月5日|方国珍、朱元璋に降る
 1367年12月28日-09:00|日本| ||正平22;貞治6年12月7日|<死去>室町幕府2代將軍「足利義詮」38歳(誕生:元徳2(1330)0618)
 1368年-07:00|タイ| ||<即位>スコタイ王朝国王「マハタンマラーチャー2世サイルタイ」マハタンマラーチャー1世の息子(~1399年)
 1368年-05:30|インド| ||フィロース・トゥグルクの命でクトブ・ミナールが改修され5層となる
 1368年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ハサン・ハン」(~1369年)
 1368年-02:00|ギリシャ/イタリヤ| ||<就任>ヴェネチアのカンティエラ公「ジョヴァンニ・ゲラテ・ニコ」(~1370年)
 1368年-02:00|トルコ| ||<即位>アルトゥク朝スルタン「マフムド・アッ＝サリフ」(~同年)⇒「ダウード・アル＝ムザッファル」(~1376年)
 1368年-01:00|ドイツ| ||<死去>ザクセン＝ラウエンブルク公ラッツェブルク＝ラウエンブルク系「エーリヒ2世」
 1368年-01:00|ドイツ| ||<就任>オルデンブルク伯「コンラート2世」(~1386年),「クリスチャン5世」(~1398年)
 1368年-01:00|ドイツ/オランダ| ||<就任>クレフェ＝マルク伯「アドルフ3世」(~13940907死去)
 1368年-01:00|クロアチア/ハンガリー| ||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「エメリック1世ラックフィ」(~同年)
 1368年-01:00|クロアチア| ||<就任>スラヴォニア全土のハン「ペタル・クダール」(~1380年)
 1368年-01:00|ドイツ| ||<就任>リュッケン公「ヴァルティスラフ6世、ボギスラフ6世」(~1372年)
 1368年-01:00|ドイツ| ||<即位>ザクセン＝ラウエンブルク公ラッツェブルク＝ラウエンブルク系「エーリヒ4世」(~1401年)
 1368年-01:00|オランダ/ドイツ| ||クイク・アルンスブルクはケルンへ売却
 1368年-01:00|イタリヤ| ||トリエステはヴェネチア共和国領土(~1372年)
 1368年 00:00|イギリス| ||<就任>8代キャリック伯「ジョン・ステュアート」(~1390. 5、スコットランド王ロバート3世)
 1368年 00:00|イギリス| ||<就任>アルスター伯「女伯爵フィリッパ・オブ・クレンス」(~13820105死去)
 1368年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領アーンジー＝島守護者「Guillaume d'Asthorp」(~1371年)
 1368年1月13日-01:00|イタリヤ| ||<死去>ヴェネチア共和国ドージェ(元首)「マルコ・コネル」
 1368年1月17日-01:00|ドイツ| ||<死去>アンハルト＝ツェルブスト侯「Waldemar1世」
 1368年1月17日-01:00|ドイツ| ||<就任>アンハルト＝ツェルブスト侯「Waldemar2世」(~13710824死去)共同統治
 1368年1月19日-09:00|日本| ||正平22;貞治6年12月29日|義詮の執事細川頼之が禁制5か条を定めて奢侈を禁じる
 1368年1月20日-08:00|中国| ||元・至正28年|<死去>モグリスタン・ハン国ハン「イリヤス・ホージャ」
 1368年1月20日-08:00|中国| ||元・至正28年|<即位>モグリスタン・ハン国ハン「カマルッティーン」(~1392年死去)
 1368年1月20日-01:00|イタリヤ| ||<就任>ヴェネチア共和国ドージェ(元首)「アントニア・コンタリニ」(~1382年)
 1368年1月21日-09:00|日本| ||正平23・貞治7年|<解任>安芸国守護「武田氏信」
 1368年1月21日-09:00|日本| ||正平23・貞治7年|<交替>甲斐国守護「武田信成」⇒「武田信春」(~元中2・至徳2(1385)年)
 1368年1月21日-09:00|日本| ||正平23・貞治7年|<交替>豊後国守護「大友氏継」南朝側につく⇒「大友親世」(~応永23(1416)年11月)
 1368年1月21日-09:00|日本| ||正平23・貞治7年|足利尊氏、仏満禪師を開山に善徳寺(足利市)創建
 1368年1月23日-08:00|中国| ||明・洪武1年1月4日|<即位>明第1代皇帝「太祖洪武帝(朱元璋)」(~洪武31年閏5月10日1398年6月24日)
 1368年1月28日-08:00|中国| ||明・洪武1年1月9日|明、年号を洪武(~1398年)とする
 1368年2月-02:00|ルーマニア/ハンガリー| ||<就任>トランシルヴァニア総督「イムレ・ラックフィ」(~1372年9月)
 1368年3月-01:00|アルバニア| ||<就任>アルバニア公・デラツツ領主「カール・アントニア・ストピア」アンジューを武力で追放しデラツツは拡大した領地の一部となる(~1388年1月没)
 1368年3月7日-09:00|日本| ||正平23;応安元年2月18日|北朝が「應安」に改元
 1368年3月8日-09:00|日本| ||正平23;応安元年2月19日|西方に彗星出現

1370迄 (1504件)

- 1368年3月13日-09:00|日本| ||正平23;応安元年2月24日|<任命>越中国守護「斯波義将」復権(〜天授5・康暦元(1379)年11月)
- 1368年3月13日-09:00|日本| ||正平23;応安元年2月24日|越中守護・桃井直常、再度幕府に離反、京から「逃下」
- 1368年3月14日-09:00|日本|埼玉県川越市|正平23;応安元年2月25日|上杉憲顕が上洛した隙を狙い平一揆のうち河越直重を中心とする武蔵国の平一揆が蜂起/直重を大将に一族の高坂信重や江戸氏・高山氏・古屋谷氏、村山党の仙波氏・山口高濤・金子家祐など地元の武士が、居城の河越館に籠り、江戸牛島には別働隊を置いた
- 1368年3月14日-09:00|日本|栃木県|正平23;応安元年2月25日|武蔵国の平一揆に呼応して下野国で宇都宮氏綱が挙兵
- 1368年3月29日-09:00|日本| ||正平23;応安元年3月11日|<死去>南朝・97代「後村上天皇」/41歳(誕生:嘉暦3(1328)09)
- 1368年3月29日-09:00|日本| ||正平23;応安元年3月11日|<踐祚>南朝・98代「長慶天皇」(〜1383.10)
- 1368年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ムッチョーリ・ノ・デ・イ・ジョロ」「シヨヴァンニ・デ・イ・リガ・ツチヨ」
- 1368年4月8日-09:00|日本| ||正平23;応安元年3月21日|<死去>大友氏時(生年年未詳/前豊後・豊前・肥後・筑後守護、大友氏の第8代当主)
- 1368年4月9日-09:00|日本| ||正平23;応安元年3月22日|乾方に彗星あり/23日、4月2日、3日にもあり
- 1368年4月27日-09:00|日本| ||正平23;応安元年4月10日|<任命>山城国守護(侍所頭人)「今川国泰」(〜同年)
- 1368年6月16日-09:00|日本| ||正平23・応安元年6月|<解任>伊豆国守護「高坂氏重」
- 1368年7月-02:00|ルーマニア| ||<死去>モルダヴィア総督「ペトル1世」
- 1368年7月-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督「ラシュク」ボグダン1世の息子(〜1375年死去)
- 1368年7月2日-09:00|日本| ||正平23・応安元年6月17日|応安の半済令(室町幕府が所領訴訟に対する基本方針を定める)
- 1368年7月26日-09:00|日本|愛媛県松山市|正平23・応安元年閏6月11日|河野通直(通堯)、兵船を率いて豊前国根津を発し伊予郡松前浦に帰り北朝方の完草入道らを温泉郡大空城に攻めて降す
- 1368年7月28日-01:00|ポーランド| ||<死去>シフティニツ公、ヤグオルムガヴィエク公、ルサティア公、プジエク半国およびワグアの公、シグアイシ公、クワグフ半国およびシナヴァ半国の公「ボルコ2世マイ」(生年1312年)
- 1368年8月1日-09:00|日本|埼玉県川越市|正平23;応安元年閏6月17日|上杉朝房は基氏の後を継いだ足利氏満(当時10歳)を擁して河越に出陣。憲顕や武田氏・葛山氏らの軍勢の動員もあり河越における合戦で反乱は鎮圧された
- 1368年8月7日-09:00|日本| ||正平23;応安元年閏6月23日|<任命>武蔵国守護「上杉憲顕」(〜9月19日死去)
- 1368年8月14日-01:00|ポーランド/ドイツ| ||<死去>ボナムルンシュテッティン公「ハルニム3世大公」
- 1368年8月14日-01:00|ポーランド/ドイツ| ||<就任>ボナムルンシュテッティン公「カジミール3世」(〜13720824死去)
- 1368年8月14日-09:00|日本|新潟県|正平23;応安元年7月|新田義宗、新田義治が越後国上野で挙兵
- 1368年8月14日-09:00|日本|山形県西村山郡大江町|正平23;応安元年7月|<漆川の戦い(出羽国)>出羽の諸氏が関東と連携して挙兵/寒河江大江氏もこの流れの中で挙兵、奥州管領大崎直持・羽州管領斯波兼頼を指揮官とする数万の軍による討伐を受ける/大江氏当主大江時茂は嫡男の溝延城主大江茂信を総大将としてこれにあたる/斯波氏は最上川の強固な防衛ラインを迂回して五百川溪谷沿いの諸楯を落とし富沢口から攻め寄せると見せて別働隊を漆川上流で渡河させ大江軍の後背を突いた/両軍は諏訪原で激突したが背後を取られた大江軍は混乱に陥り荻袋の要害を頼って集結/荻袋楯に籠った大江一族は大軍に包囲され全員自害をとげ、その数は61名に上った/溝延城代だった安孫子紀伊は主人茂信戦死の報に触れ童子を連れて主人の後を追って殉死したため合計63人が自害
- 1368年9月3日-09:00|日本|群馬県沼田市|正平23;応安元年7月21日|関東管領上杉憲顕方の軍勢小山義政、上野沼田荘に入り新田義宗らと戦う/新田勢は壊滅、義宗は討ち取られ、脇屋義治は出羽国にまで敗走
- 1368年9月10日-08:00|中国/モンゴル| ||明・洪武1年・元・至正28年閏7月28日|元の順帝トゴンテムル、大都(現在の北京)から上都へ奔る⇒北元初代皇帝「恵宗トゴンテムル」
- 1368年9月13日-09:00|日本| ||正平23・応安元年8月|<解任>(南朝)越中国守護「桃井直信」
- 1368年9月14日-08:00|中国/モンゴル| ||明・洪武1年8月2日|明軍が大都に入城
- 1368年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「オルベッロ・デ・イ・グアイター・ジャンニニ」「ウゴリーノ・デ・イ・ジヨヴァンニ・ヴァニオリ」
- 1368年10月7日 00:00|イギリス| ||<死去>クレンス公・アルスター伯「ライオネル・オブ・アントワープ」
- 1368年10月13日-09:00|日本| ||正平23・応安元年9月|<交替>出雲・隠岐国守護「佐々木導誉(京極高氏)」隠居⇒子の「京極高秀」(〜天授5・康暦元(1379)年失脚)
- 1368年10月18日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|正平23;応安元年9月6日|上杉朝房・上杉憲春、宇都宮氏綱を降す
- 1368年10月31日-09:00|日本| ||正平23;応安元年9月19日|<死去>関東管領・武蔵国守護・越後国守護・安房国守護「上杉憲顕」足利の陣中にて病没(享年62)
- 1368年10月31日-09:00|日本| ||正平23;応安元年9月19日|<任命>越後国守護「上杉憲栄」憲顕の子(〜天授4・永和4(1378)年引退)
- 1368年10月31日-09:00|日本| ||正平23;応安元年9月19日|<任命>関東管領「上杉朝房(犬懸)」(〜応安3(1370)年8月4日)両管領制
- 1368年10月31日-09:00|日本| ||正平23;応安元年9月19日|<任命>関東管領・武蔵国守護「上杉能憲(詫間)」(〜永和4(1378)年4月17日死去)
- 1368年10月31日-09:00|日本| ||正平23;応安元年9月19日|<任命>上野国守護「上杉能憲」憲顕の子(〜建徳2・応安4(1371)年)

1370迄 (1504件)

1369年-07:00|タイ| |||<死去>アユタヤ王朝初代国王「ラーマティボーク・ティ1世(ウートン王)」
1369年-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第2代国王「ラーメスワン」(~1370年)
1369年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<復位>ジョチ・ウルス・ハン「アブ・タラー・ハン」(2期目~1370年)
1369年-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||ワキアはハンガリーの家臣(~1394年)
1369年-01:00|ドイツ| |||<死去>ブラウンシュヴァイク＝ウォルフエンビュッテル侯「マクヌス1世」
1369年-01:00|スペイン| |||<就任>初代ニブラ伯「Juan Alonso de Guzman」(~13961005死去)
1369年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「シモン・マリシエフ(=サイモン・メキシ)」(~1371年)
1369年-01:00|ポーランド| |||<就任>グウォグフ公「ヘンリ6世the Older」(~13931205死去)、「ヘンリ7世Rumpold」(~13951224死去)、「ヘンリ8世the Sparrow」(~1378年)
1369年-01:00|ドイツ| |||<就任>バーテン＝ハッハルク辺境伯「オットー1世」(~13860709死去)
1369年-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク＝ウォルフエンビュッテル侯兼リュネブル侯「マクヌス2世首輪公」マクヌス1世の息子(~13730725死去)
1369年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「ハリト2世」(~1371年)
1369年-01:00|イタリア/バチカン| |||ウルビーノ伯領が教皇領となる(~1375年)
1369年-01:00|ノルウェー| |||ノルウェーとグリーンランドの定期船が廃止
1369年 00:00|アイルランド| |||<死去>トモント王「マスカムハイン・マオンハイグ・オ・ブリアン」
1369年 00:00|イギリス| |||<就任>アルスター伯(妻の権利による)「エドマント・モティマー」マーチ伯(~13811227死去)
1369年 00:00|アイルランド| |||<即位>トモント王「フライアイン・スリムハッハ・オ・ブリアン」マスカムハイン・マオンハイグ・オ・ブリアンとウァ・ニー・コンチュバールの息子(~1400年没)
1369年1月17日-02:00|パレスチナ/キプロス| |||<死去>エルサレム王・キプロス王国国王「ヒョートル1世」弟ジョンに味方する貴族たちによって暗殺される
1369年1月17日-02:00|キプロス| |||<就任>キプロス王国摂政「アンティオキア王子ジョン(ヨハン)・ド・ルシニャン」(3度目⇒13711224、シヤック・ド・ルシニャン~13740415)
1369年1月17日-02:00|パレスチナ/キプロス| |||<即位>エルサレム王・キプロス王国国王「ヒョートル2世肥満王」(~13821013死去)
1369年2月7日-09:00|日本| ||正平23; 応安元年12月30日|<任命>室町幕府第3代征夷大将軍「足利義満」
1369年2月8日-09:00|日本| ||正平24; 応安2年|<交替>壱岐国守護「宗像氏俊」⇒「宗像氏頼」(~建徳2・応安4(1371)年)
1369年2月8日-09:00|日本| ||正平24; 応安2年|<任命>(南朝)対馬国守護「少貳頼澄」(~文中4・応安8(1375)年)
1369年2月8日-09:00|日本| ||正平24; 応安2年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「土岐康行」(~同年)
1369年2月8日-09:00|日本| ||正平24; 応安2年|<任命>肥前国守護「少貳冬資」(~応安4・建徳2(1371)年)
1369年2月8日-09:00|日本| 長崎県壱岐市|正平24; 応安2年|志佐壱岐守源義の代官源武が池田に真弓館を構える
1369年2月8日-09:00|日本| 長崎県壱岐市|正平24; 応安2年|松浦党の志佐・佐志・鴨打・呼子・塩津留の5氏が壱岐を分治
1369年2月8日-09:00|日本| ||正平24・応安2年1月|<死去>駿河国守護「今川氏家」弟の泰範が継ぐ(⇒応永2(1395)年8月17日駿河西平国守護)
1369年2月9日-09:00|日本| ||正平24; 応安2年1月2日|南朝方の楠木正儀、足利義満に降る
1369年3月14日-01:00|フランス/スペイン| |||スペインのエンリケ2世とフランス軍が、カスティリアのペドロ1世の軍を撃破する(モンティエル
の戦い)
1369年3月23日-01:00|スペイン| |||<死去>レオン国王・カスティリア国王「ペドロ1世残酷王」エンリケ2世に敗れ死亡/34歳(誕生13340830)
1369年3月23日-01:00|スペイン| |||<即位>レオン国王・カスティリア国王「エンリケ2世庶子王」(~13790529死去)
1369年3月26日-09:00|日本| ||正平24・応安2年2月18日|<死去>一色範氏(生年年未詳/初代九州探題)
1369年3月29日-09:00|日本| ||正平24; 応安2年2月21日|<任命>河内国守護「楠木正儀」(~弘和2・永徳2(1382)年閏1月)摂津国東成郡を河内国に編入
1369年3月29日-09:00|日本| ||正平24; 応安2年2月21日|<任命>和泉国守護「楠木正儀」(~天授4・永和4(1378)年12月解任)摂津国住吉郡を和泉国に編入
1369年4月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「ミニョーネ・バウト」「ルナルティノ・デ・イ・ベ・ルナルト・ファブロ」
1369年4月4日-09:00|日本| ||正平24; 応安2年2月27日|幕府が俗人の僧装・博奕などを厳禁
1369年4月8日-01:00|ポーランド| |||<死去>グウォグフ公「ヘンリ5世 of Iron」
1369年4月22日-09:00|日本| 大阪府|正平24; 応安2年3月16日|楠木正儀を仕留めるため、南朝の有力武将で楠木氏の同族でもある和田正武と橋本正督の二将が河内国と和泉国に進撃、他の楠木一族もまた正儀の決定には従わず、正儀の館を攻撃
1369年4月26日-09:00|日本| 大阪府大阪市天王寺区|正平24; 応安2年3月20日|楠木正儀は無事天王寺まで逃れた
1369年5月18日-09:00|日本| 岐阜県高山市|正平24; 応安2年4月12日|南朝方の桃井直常が越中に挙兵/松倉城を抜き能登国に入る
1369年6月3日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||明・洪武2年; 高麗・至元35年4月28日|明太祖、高麗に大明国の建国と洪武と建元したことを通達
1369年6月5日-09:00|日本| ||正平24; 応安2年5月|<任命>安房国守護「結城直光」(~元中2・至徳2(1385)年10月)
1369年6月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至元35年5月8日|高麗・至元年号をやめる
1369年6月13日-01:00|フランス| |||フランス王シャルル5世、弟「ブルゴーニュ公」フィリップ2世と「フランドル伯」ルイ2世の一人娘マルグリット・ド・フランドル(マルグリット・ド・ダンピエール)を結婚

1370迄 (1504件)

1369年6月20日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王「ウィリアム・デ・ウインザー卿」(~13720716)
 1369年6月29日-07:00|ベトナム| ||大越・大定1年5月25日|<死去>陳朝(大越) 皇帝「裕宗」
 1369年6月29日-07:00|ベトナム| ||大越・大定1年5月25日|<即位>陳朝(大越) 皇帝「昏徳公」(~13701209(大定2年11月21日)処刑される)大定と改元(~1370年)
 1369年7月2日-01:00|イタリア| |||ベネチア、エジプトのムスリムに対抗してジェノヴァと同盟
 1369年7月15日-08:00|中国| ||元・至正29年6月12日|元の順帝トゴンテムル、応昌(上都北)にうつる
 1369年7月19日-08:00|中国| ||明・洪武2年;元・至正29年6月16日|明、上都を陥れる
 1369年8月10日-09:00|日本|広島県三次市|正平24;応安2年7月8日|尼宗秀の発願により、吉舎善逝寺の本尊木造釈迦如来坐像を造立
 1369年8月15日 00:00|イギリス| |||<死去>フィリッパ・オブ・エノー(生年1314年、イングランド王エドワード3世の王妃)
 1369年8月15日-09:00|日本| ||正平24;応安2年7月13日|<死去>伊豆天長山国清寺開山「仏真禅師妙謙」
 1369年9月12日-08:00|中国| ||元・至正29年8月11日|元で「元史」成る
 1369年9月22日-01:00|イタリア| |||<死去>マントヴァのガットゥーソ・デル・ポポロ「グイード・ゴンザーガ」(生年1290年)
 1369年9月22日-01:00|イタリア| |||<就任>マントヴァのガットゥーソ・デル・ポポロ「ルドヴィーコ2世・ゴンザーガ」(~13821004)
 1369年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョアコロ・デ・ウコ・リヌッチョ」「ジョヴァンニ・デ・リグッチョ」
 1369年10月3日-01:00|オーストリア/イタリア| |||<死去>チロル女伯「マルガレーテ・フォン・ティロル」(生年1318年)
 1369年10月3日-09:00|日本|京都府京都市|正平24;応安2年9月2日|京都大風、真言院・仁和寺・観音院など倒壊
 1369年10月4日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平24;応安2年9月3日|鎌倉大仏殿、大風により転倒
 1369年10月31日-09:00|日本| ||正平24;応安2年10月|<任命>伊豆国守護「上杉能憲」(~天授2・永和2(1376)年5月)
 1369年10月31日-09:00|日本|長野県下伊那郡大鹿村|正平24;応安2年10月|信濃守護となった関東管領上杉朝房・畠山基国らの軍勢が大河原に攻め寄せ、城主香坂高宗・渋谷長安・藤原光資以下地侍らが結束して大河原の地を守るために戦った
 1369年11月4日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯「ロバート・ド・ウ・アフォード」
 1369年11月4日 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯「ウィリアム・ド・ウ・アフォード」(~13820215死去)
 1369年11月13日 00:00|イギリス| |||<死去>ウォリック伯「トマス・ド・ビーチャム」
 1369年11月13日 00:00|イギリス| |||<就任>ウォリック伯「トマス・ド・ビーチャム」先代の子(~14010408死去)
 1369年11月23日-01:00|ドイツ| |||<死去>リュネブルク侯「ヴィルヘルム2世」
 1369年11月23日-01:00|ドイツ| |||<就任>リュネブルク侯「マグヌス2世首輪公」ヴィルヘルム2世の又従弟の息子(~13730725死去)
 1369年11月28日-01:00|イタリア| |||トリエステ再びヴェネチアへの忠誠下に入る
 1369年11月30日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||デンマークのヴァデマル4世が、ハンサ同盟側と講和
 1369年11月30日-01:00|フランス| |||フランス王シャルル5世、イングランド王エドワード3世の長子黒太子エドワード 所有の「アキテーヌ大公領」の没収を宣言
 1369年12月3日-09:00|日本| ||正平24;応安2年11月4日|<就任>(北朝) 関白「二条師良」(~永和元年12月27日)
 1369年12月15日-09:00|日本| ||応安2年11月16日|河野通直、細川氏の軍を新居郡高外木城で防ぎ、これを撃退
 1369年12月28日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<死去>リガ 大司教・リヴァント公「フロムホルト・フォン・グィューゼン」
 1369年12月30日-09:00|日本|長野県下伊那郡大鹿村|正平24;応安2年12月|山奥の寒気に上杉勢の士気は下がり、やがて大雪に見舞われ兵糧の欠乏と大雪と寒気に閉口した上杉勢は城攻めを諦めて関東へ引き返した
 1370年-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第3代国王「ホー・ロマーチャーティラート1世バンクワ王」(~1388年死去)
 1370年-05:30|インド| |||グィンジャガール朝がマドurai朝を征服
 1370年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>西チャグタイ・ハン国ハン「ソルカト・ムシ」ターニシュマントの子(~1388年)
 1370年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ジャニ・ベグ2世」(~同年)⇒「ムハンマド・ホラ」(1期目~1372年)
 1370年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>カト朝マリーク「Ghiyas-uddin Pir 'Ali & Malik Muhammad ibn Mu'izz-uddin」(~1389年)
 1370年-03:30|イラン| |||<即位>クル朝スルターン:ギヤースッディーン・ヒール・アリー(~1381年)
 1370年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<死去>チェルニヒウ大公(ブリャンスク公)「ロマン2世・ミハイロウイチ」
 1370年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネチアのカンティニア公「ピエトロ・コナー」(~1372年)
 1370年-02:00|エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴァニアのレヴァル司令官「ゴットシャルク・フォン・グィッケ」(~同年)
 1370年-02:00|ウクライナ| |||<復位>ヴォルィニ公「リュバル・ス・ゲディミナティス」(~1383年)
 1370年-02:00|エジプト/キプロス| |||キプロス王とマムルーク朝の講和条約が成立
 1370年-01:00|イタリア| |||<死去>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「フェデリコ2世・ダ・モンテフェルトロ」
 1370年-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝ラウエンブルク公ベルゲドルフ＝メルン系「アルブレヒト5世」
 1370年-01:00|フランス| |||<就任>オセル伯「John4世」(~同年フランスに売却)
 1370年-01:00|ドイツ| |||<就任>リュネブルク侯「アルブレヒト3世」(ザクセン＝グィッテンベルク公)「ヴィルヘルム2世の外孫(~13850628死去),「グェンツェル(ザクセン＝グィッテンベルク公)」アルブレヒト3世の叔父。ザクセン選帝侯(~13880511死去)
 1370年-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝ラウエンブルク公ベルゲドルフ＝メルン系「エーリヒ3世」(~1401年死去)
 1370年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「アブールアッハースアマド2世」(~1394年死去)
 1370年-01:00|アルジェリア| |||<復位>ザイヤーン朝スルターン「Abu Zayyan Muhammad2世 ibn Uthman」(~1372年)
 1370年-01:00|ドイツ| |||ニュルンベルグでドイツ最古の乞食条例が発布
 1370年-01:00|イタリア| |||ルッカ共和国設立

1370迄 (1504件)

1370年 00:00|イギリス| |||<死去>5代サザランド伯「ウィリアム・ド・モウア」(ウィリアム・サザランド))
 1370年 00:00|イギリス| |||<就任>6代サザランド伯「ロバート・ド・モウア」(ロバート・サザランド)) (~1427年死去)
 1370年 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド 支配者「トルク・ウトゥール・ヨソソ」 (~1372年)
 1370年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「ジョン・デ・キャリック」 (~1377年)
 1370年 00:00|マリ/ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「ムサ」 (~1378年)
 1370年1月16日-09:00|日本|愛知県額田郡幸田町|正平24; 応安2年12月18日|沙弥宗満、三河国鷲田神明宮の懸仏を施入
 1370年1月27日-09:00|日本|岐阜県美濃市|正平24; 応安2年12月29日|尾張国定光寺開山平心処斎、美濃国長蔵寺で没
 1370年1月28日-09:00|日本| ||正平25; 応安3年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「佐々木高秀」 (~応安5・文中元(1372)年)
 1370年1月28日-09:00|日本|静岡県浜松市天竜区|正平25・応安3年|曹洞宗東谷山栄林寺(二俣町二俣)の毘沙門堂が建立される
 1370年1月28日-09:00|日本|静岡県富士市|正平25; 応安3年|上杉民部少輔憲顕・子兵部少補能憲、天寧庵(市中里)を廃し、大勲策禪師を開山に福王寺(今泉水ノ上)を建立
 1370年1月28日-09:00|日本|山口県下関市|正平25・応安3年|山口豊東上村住吉神社本殿できる
 1370年2月1日-09:00|日本|鳥取県|正平25; 応安3年1月5日|<死去>因幡国守護「山名氏冬」弟の氏重が継ぐ (~不詳)
 1370年2月11日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<就任>リガ 大司教・リガ ラント公「ジー・クリート・フォン・ブ・ロムベルク」 (~13740630死去)
 1370年2月17日-01:00|ドイツ/リトアニア| |||ドイツ騎士団が、リガの戦いでリトアニアを破る
 1370年3月-01:00|デンマーク/ドイツ/ノルウェー| |||ハンザ 同盟がデンマーク、ノルウェーを撃破
 1370年3月7日-09:00|日本|埼玉県本庄市|正平25; 応安3年2月9日|新田氏の将の馬淵某、中村某らが上杉朝房、畠山基国と武蔵国本田で戦い信濃国に敗走
 1370年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「チャベッタ・デ・イ・ノヴェッロ」(ウゴリーノ・デ・ジ・ヨヴァンニ)
 1370年4月10日-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>ティムール朝スルタン「ティムール」サマルカントを首都に勃興 (~14050218死去)
 1370年4月12日-09:00|日本|富山県富山市|正平25; 応安3年3月16日|幕府が越中守護斯波義将等に越中の桃井勢追討を命ず、越中長沢でこれを破る(斯波氏本格復権)
 1370年4月29日-09:00|日本|長野県長野市|正平25; 応安3年4月4日|信濃善光寺:焼失
 1370年5月23日-08:00|モンゴル| ||元・至正30年4月28日|<死去>モンゴル帝国(北元) 皇帝「順帝トゴンテムル」応昌で/年51
 1370年5月24日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||デンマークとハンザ 同盟が、シュトラールズント条約を締結
 1370年5月26日-08:00|中国| ||明・洪武3年5月|明が科擧の方式を定める
 1370年5月26日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||明・洪武3年5月|明の太祖が高麗に冊封使を遣わし国王として封じる
 1370年5月27日-08:00|モンゴル| ||元・至正30年5月2日|<即位>モンゴル帝国(北元) 皇帝「アユルシリダラ」(ビリクテウ・カガン/昭宗)「トゴンテムル」長男 (~13780510)
 1370年6月10日-08:00|中国| ||明・洪武3年; 元・至正30年5月16日|明、応昌を陥れ、マイダリバウ(アユルシリダラの子)をとらえる/アユルシリダラ、カラコムに逃れる
 1370年6月24日-08:00|中国| ||明・洪武3年6月|明が開中法をさだめ、軍糧運送とひきかえに商人に塩の専売を認可
 1370年6月30日-09:00|日本|滋賀県|正平25; 応安3年6月7日|<死去>近江国守護「六角氏頼」高経(後の京極高詮)が継ぐ (~永和・天授3(1377)年9月解任)
 1370年7月23日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・洪武3年7月|高麗・明の年号(洪武3年)を使用
 1370年7月23日-08:00|中国| ||元・至正30年7月1日|元で続修「元史」成る
 1370年7月27日-09:00|日本| ||正平25; 応安3年7月5日|<死去>宇都宮氏綱(生年1326年/元下野・上野・越後国守護、宇都宮氏の第10代当主)
 1370年8月13日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「トメコ・デ・イ・カンポ・フレゴリ」 (~13780617)
 1370年8月15日-09:00|日本| ||建徳元; 応安3年7月24日|南朝が「建徳」に改元
 1370年9月19日 00:00|イギリス| |||イギリスの黒太子エドワードが、リモージュを攻略
 1370年9月20日-01:00|アントラ| |||<就任>アントラ公国共同大公「ウルヘル司教ベレンガート・エリル・イト・ハ・ラース」 (~13870503)
 1370年9月21日-09:00|日本| ||建徳元・応安3年9月2日|<交替>九州探題「洪川義行」⇒「今川貞世(了俊)」 (~応永2(1395)年閏7月解任)
 1370年9月27日-01:00|フランス/バチカン| |||教皇ウルバヌス5世が、ローマからアヴィニョンに帰る
 1370年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「グイデーノ・デ・ジ・ヨヴァンニ」(パオロ・デ・イ・チェッコ)
 1370年10月7日-01:00|スイス| |||「坊主」協定が成立
 1370年10月13日-01:00|ドイツ| |||<死去>シャウエンブルク伯・ルシュタイン=ピッネブルク伯「アドルフ8世」
 1370年10月13日-01:00|ドイツ| |||<就任>シャウエンブルク伯・ルシュタイン=ピッネブルク伯「オットー1世」 (~14040316以降死去)
 1370年10月17日-09:00|日本|愛知県名古屋市中熱田区|建徳元・応安3年9月28日|尾張国熱田円福寺の開山巖阿、没
 1370年10月20日-01:00|オーストリア/イタリア| |||オーストリア公、トリエステへの権益を捨てる
 1370年11月5日-02:00|ウクライナ| |||<死去>ガリチ公「カジミェシュ3世」ポランド王
 1370年11月5日-01:00|ポランド| |||<死去>ポランド王「カジミェシュ3世ヴァイェルク」60歳
 1370年11月5日-01:00|ポランド| |||<即位>ポランド王「ルドヴィク1世」ハンガリー王・クロアチア王ヨシュ1世大王 (~13820910死去56歳)
 1370年12月3日-01:00|オーストリア/イタリア| |||ベネチア、オーストリア公との和平批准
 1370年12月4日-01:00|フランス| |||フランス大元帥ベルラン・デュ・ゲラン率いる「フランス王国軍」、ロワールのサント県「ボングァン」の戦

1370迄 (1504件)

い」で、カレーから南下してフランス北西部のブルターニュに撤退中の「イングランド王軍」に勝利し、「アキテーヌ大公領」をフランス側が侵食

1370年12月6日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン選帝侯「ルドルフ2世」

1370年12月6日-01:00|ドイツ| |||<就任>ザクセン選帝侯「ヴェンツェル」(~1380515死去)

1370年12月9日-07:00|ベトナム| ||大越・紹慶1年11月21日|<死去>陳朝(大越)皇帝「昏徳公」処刑される

1370年12月9日-07:00|ベトナム| ||大越・紹慶1年11月21日|<即位>陳朝(大越)皇帝「芸宗」(~13721109(紹慶3年)讓位)紹慶と改元(~1372年)

1370年12月18日-09:00|日本| ||建徳元・応安3年12月|<隠居>丹波国守護「山名時氏」氏清が継ぐ(~明徳3・元中9年(1392)1月4日解任)

1370年12月18日-09:00|日本| ||建徳元・応安3年12月|<隠居>伯耆国守護「山名時氏」時義が継ぐ(~元中6・康応元(1389)年5月4日死去)

1370年12月19日-01:00|バチカン| |||<死去>第200代ローマ教皇「ウルバヌス5世」[1310年生~](享年60)

1370年12月30日-01:00|バチカン| |||<就任>第201代ローマ教皇「グレゴリウス11世」(~13780327死去)